

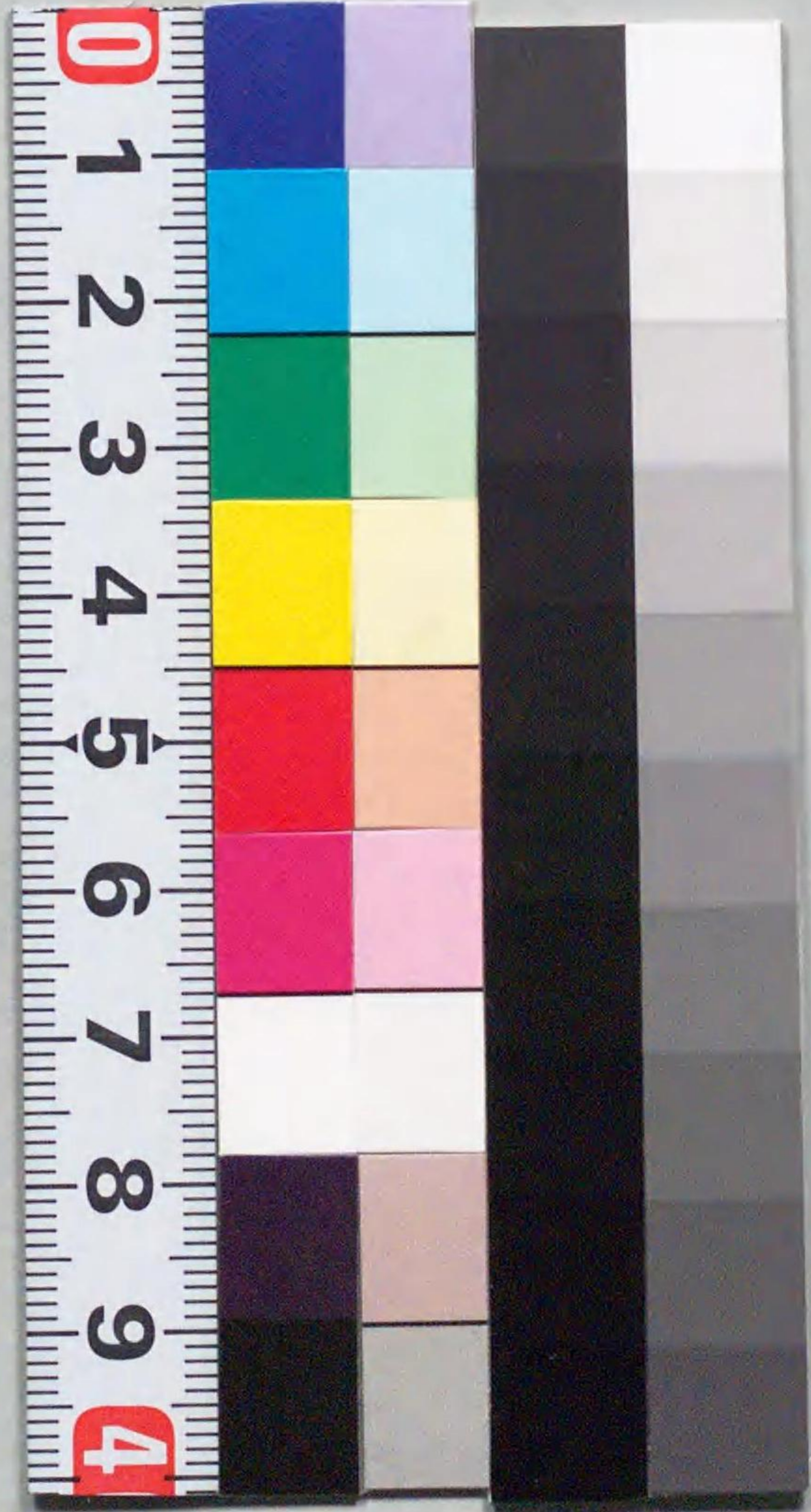
岩手縣勢要覽

昭和六年版

Y994-J8071



1200801323597



廳 縣 手 岩

Y994
J8071



丸 內 市 岡 盛



I 種
W

話 電 內 廳

新地	社庶	學電	衛衛	衛衛	保保	警警	警警	高警	內刑	耕土	知事
聞記	寺務	務部	話室	生課	生課	安課	安課	務課	務課	地事	木房
方兵	長長	長長	長長	長長	長長	長長	長長	長長	長長	地事	製圖
俱樂	事卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	地事	統計
部課	課上	課上	課上	課上	課上	課上	課上	課上	課上	地事	係
四	四	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二
一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番

話 電

二八七七七二一一
八三一三二一一
三五番番番番番番
健庶會
康務計
保課課
險直
課通

話 電 內 廳

士士	士士	穀農	農度	農商	山山	社學	會庶	知知	知知	內知
木木	木木	物務	量工	工林	課課	會務	計務	務房	務房	務房
課課	課課	檢長	衡長	務水	課課	課課	課課	課課	課課	課課
建工	庶長	卓查	卓定	產卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓	卓卓
築務	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓	務卓
係係	係係	係係	係係	係係	係係	係係	係係	係係	係係	係係
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番



凡例

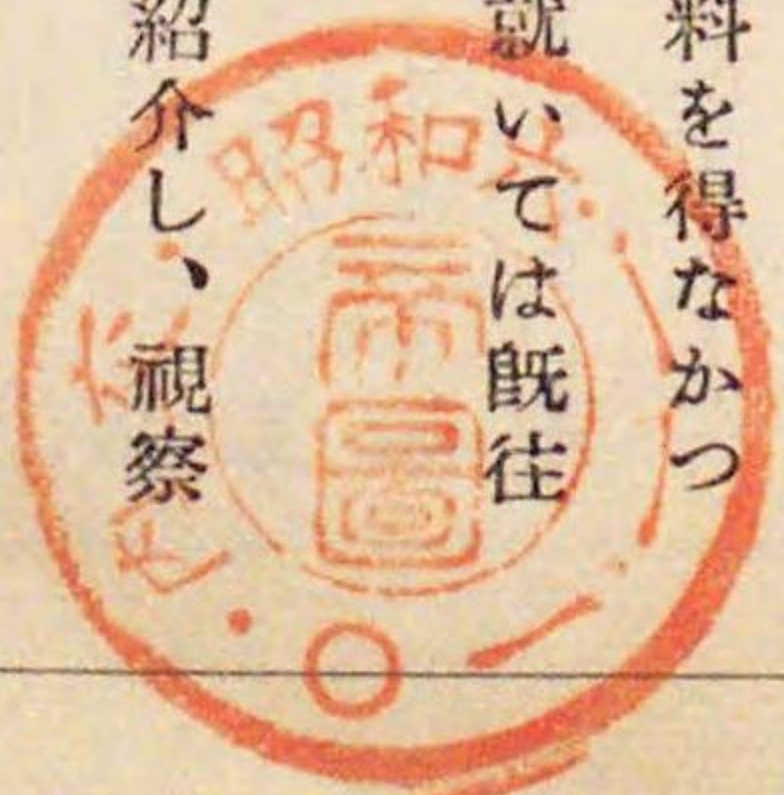
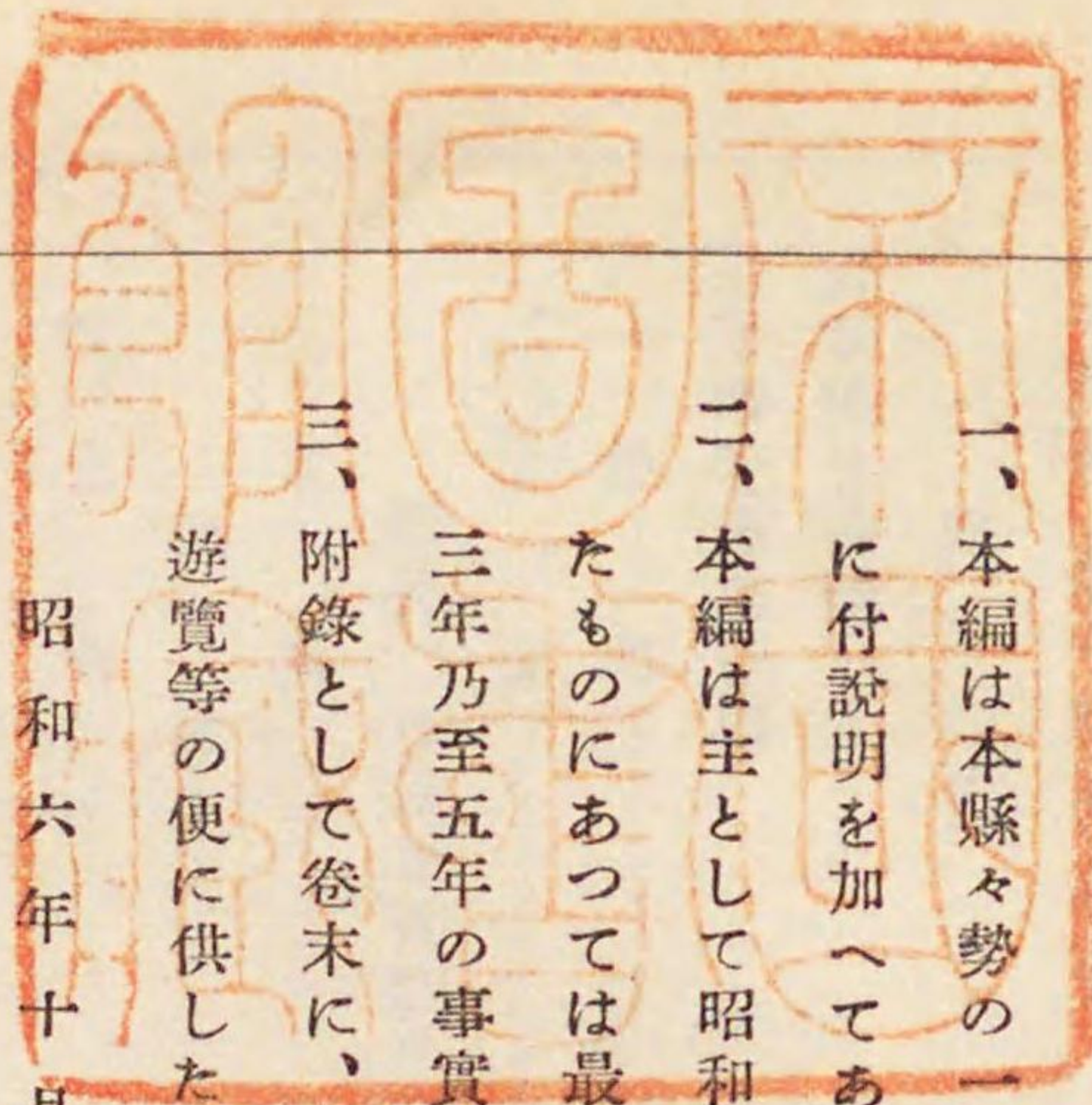
一、本編は本縣々勢の一般を知るに便せんが爲、主要なる諸統計を収録し、其の概要に付説明を加へてある。

二、本編は主として昭和五年度の事實に據つたのであるが、其の調査資料を得なかつたものにあつては最近の調査に係る事項を採り、尙重要なるものに就いては既往三年乃至五年の事實を併記し彼此消長を通覽するの便に供した。

三、附録として卷末に、管内諸官衙、學校、産業施設一般名勝舊蹟等を紹介し、視察遊覽等の便に供した。

昭和六年十月

岩手縣知事官房



昭和六年版 岩手縣勢要覽

目次

岩手縣管内圖
 岩手縣管内里程圖

一、沿革	一
二、地勢	三
位置、面積及廣袤	四
三、氣象	五
四、土地	六
五、戶口	八
人口靜態	八

六、行政	一〇
行政區劃	一一
議會	一二
官公吏其他	一二
七、產業	一三
職業別戶數	一四
重要物產	一五
主要生產物累年比較	一六
生產物總價額	二二
生產額累年比較	二四
八、農業	二五
耕地及耕作戶數	二六
耕地整理	二六

農產物	二七
米及麥	二六
九、蠶絲業	二九
養蠶戶數及掃立枚數	二九
製絲工場	三〇
養蠶物	三〇
繭及桑畑	三一
一〇、林業	三三
民有林野	三三
保安林	三三
林產物	三三
一一、水產業	三四
水產業者	三四
漁船及漁網	三五
水產物	三五
一二、畜產業	三六
畜產業者	三六
畜產物	三七
一三、鑛業	三八
鑛區	三八
鑛產物	三八
一四、工業	三九
工場	三九
工產物	四〇
一五、商業	四一
商工會議所	四一
會社	四二
一六、勸業團體	四三

各種組合	四三
產業組合	四四
農業倉庫	四四
水利組合	四四
一七、產業指導統制	四五
委員會	四五
生產額	四六
負債額	四六
一八、交通運輸	四七
道路	四七
鐵道、船舶及諸車	四八
一九、金融	四九
銀行	四九
無盡會社	五〇
信託會社	五〇
質屋	五一
郵便爲替、貯金、振替貯金	五一
二〇、教育	五二
小學校	五二
實業補習學校	五五
官公私立諸學校	五六
幼稚園	五七
教員在職年數	五八
公學費	五九
公學資產及收入	五九
二一、社會教育	六〇
圖書館	六一
青年訓練所	六二
男子青年團	六二

女子青年團	六二
男女少年團	六二
二二、社會事業	六四
養育院及感化院	六四
赤十字及愛國婦人會	六五
住宅組合	六五
褒賞	六五
二三、兵事	六六
衛戍諸隊	六六
在鄉軍人會	六六
壯丁	六七
二四、社寺教會	六八
社寺及教會	六八
二五、保健衛生	六九

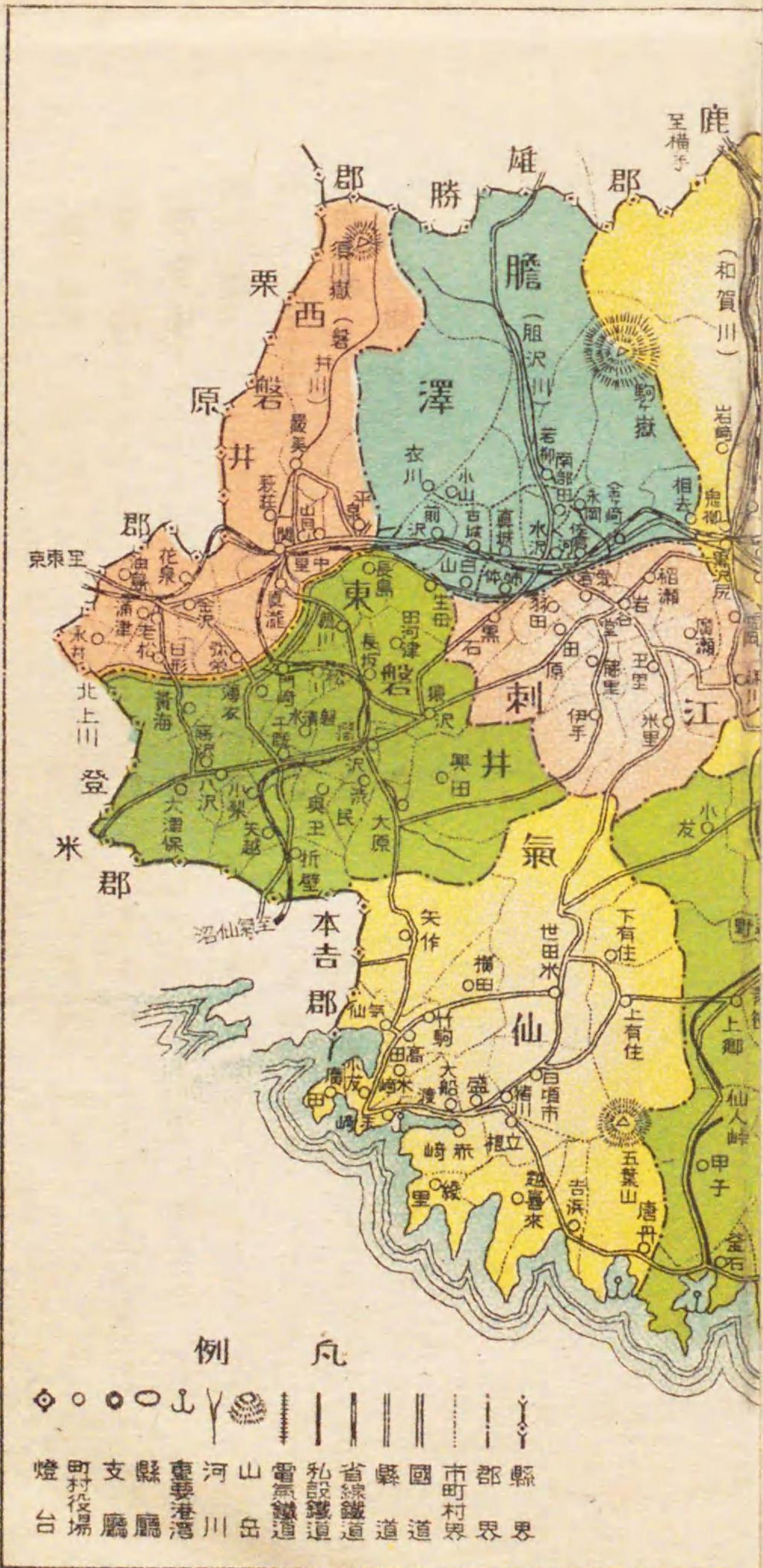
保健衛生	六九
二六、保安	七〇
火災及消防	七〇
二七、警察	七一
警察官署及犯罪	七一
二八、財政	七二
資產及負債	七三
諸稅負擔	七四
諸稅	七六
縣稅納稅成績	七七
市町村稅納稅成績	七八
縣歲入	七九
縣歲出	八〇
市町村歲入	八二
市町村歲出	八三

附 錄

岩手の案内

國寶	一
特別保護建造物	四
史蹟名勝天然記念物	五
名勝舊蹟	八
神社佛閣	一六
山岳と温泉	二三
海濱と河川	三〇
官公衙學校	三三
市町村	三九
産業組合	四〇
特殊組合	四一

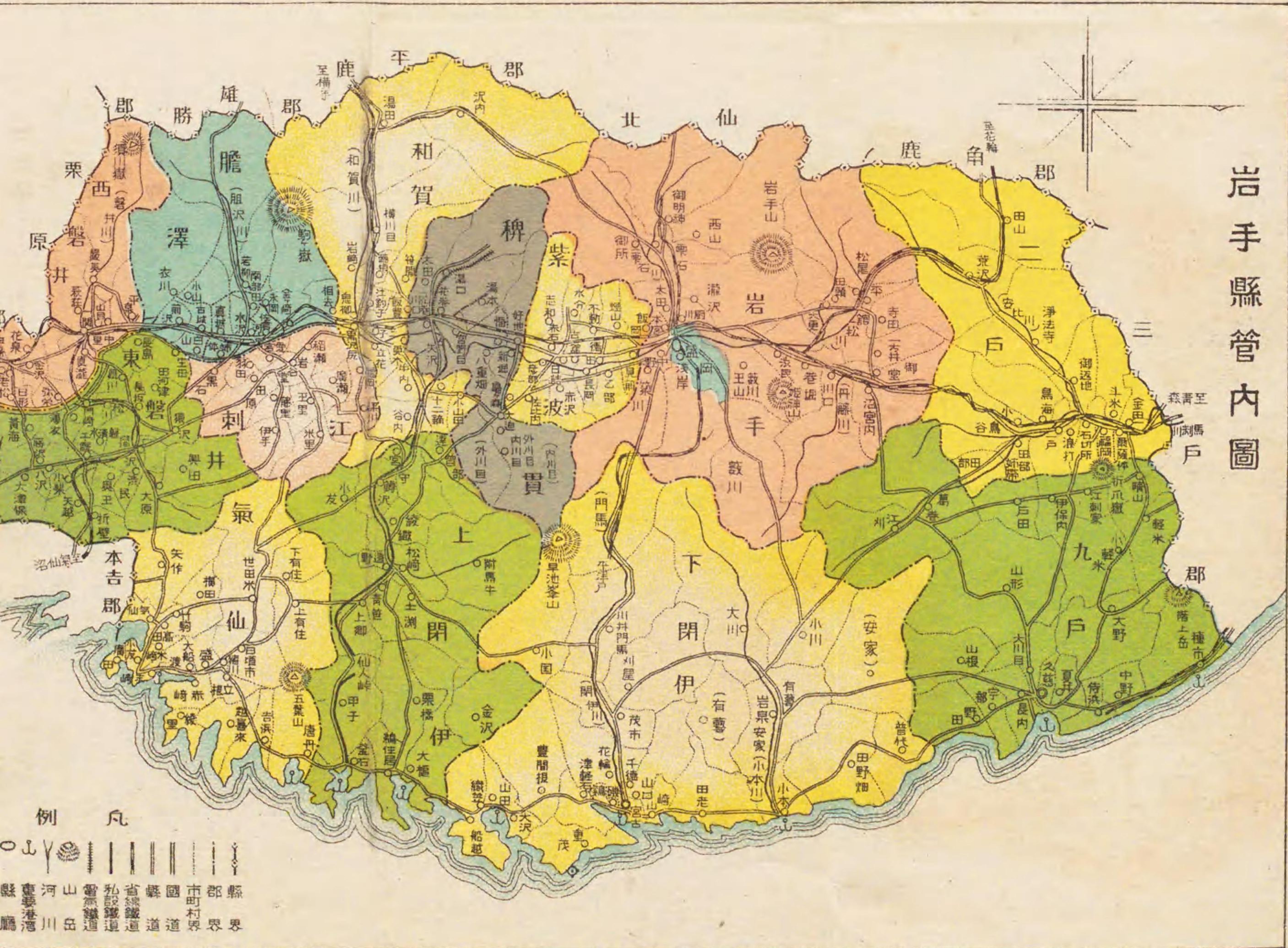
教 育	四二
社會教育	四三
社會事業	四四
農蠶業	四四
農會、農場及農蠶業團體	四四
篤農家精農家	四七
蠶種製造家	四七
製絲場	四八
主なる農業地	四九
耕地整理	五一
林業	五二
畜産	五六
水産	五九
水産會及漁業組合	五九



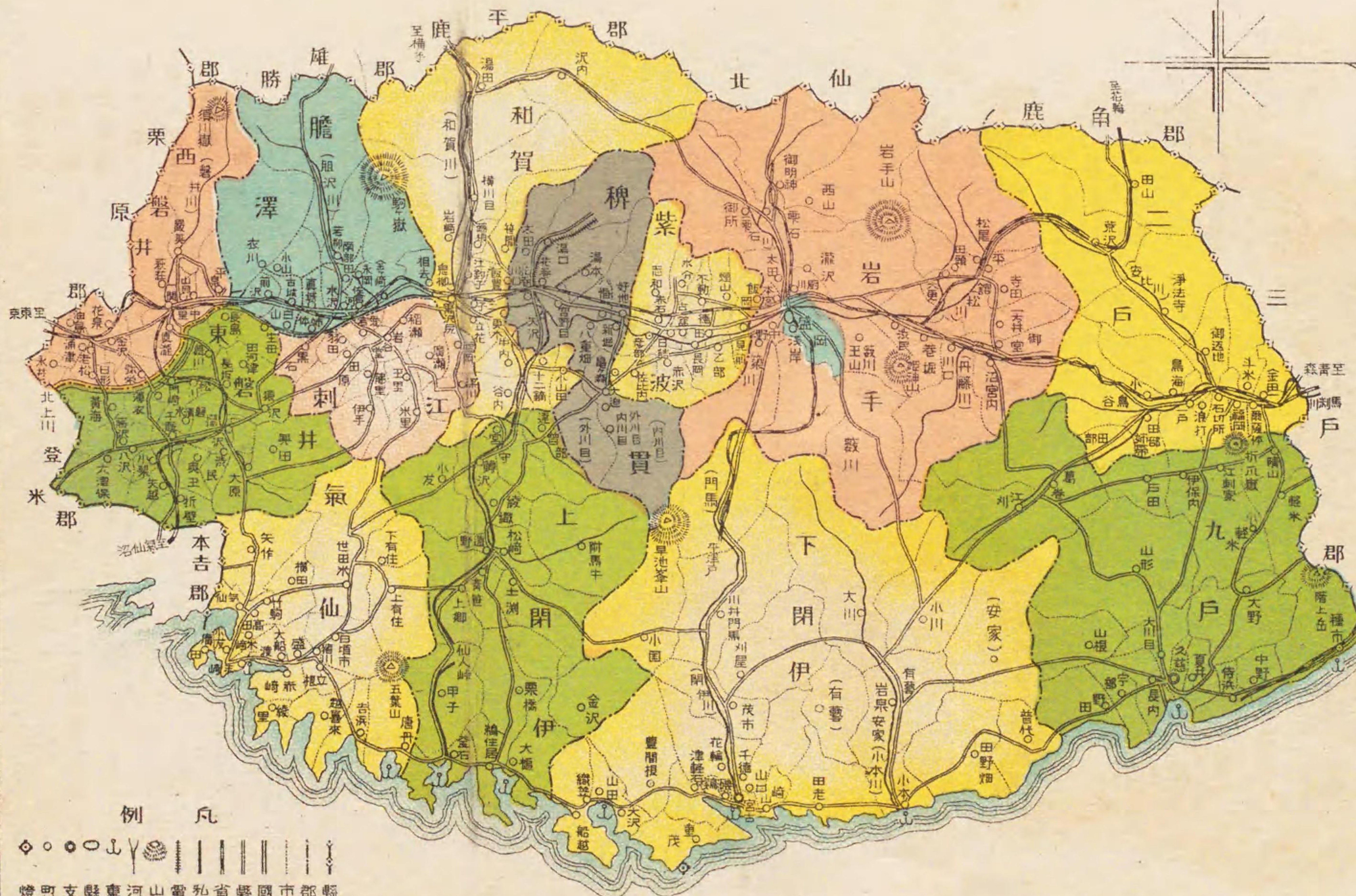
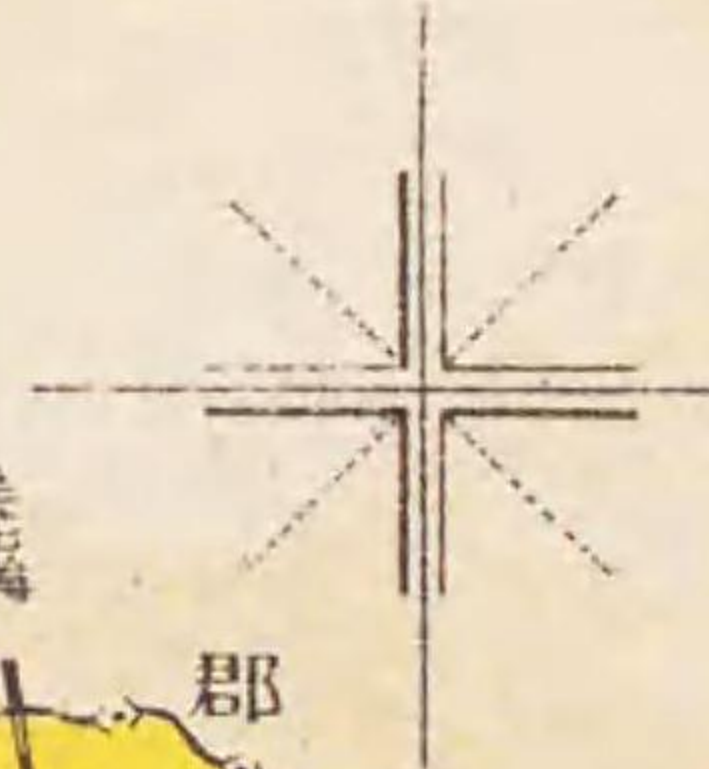
水産養殖	六〇	林産物	六八
漁港	六一	畜産品	六九
漁市場	六二	水産物	七〇
鑛業	六三	工産物	六七
商工業	六三	菓子類	六八
名物名産	六七	其他飲食品	七一
農産物	六七	列車・船舶・電車・自動車便	七二



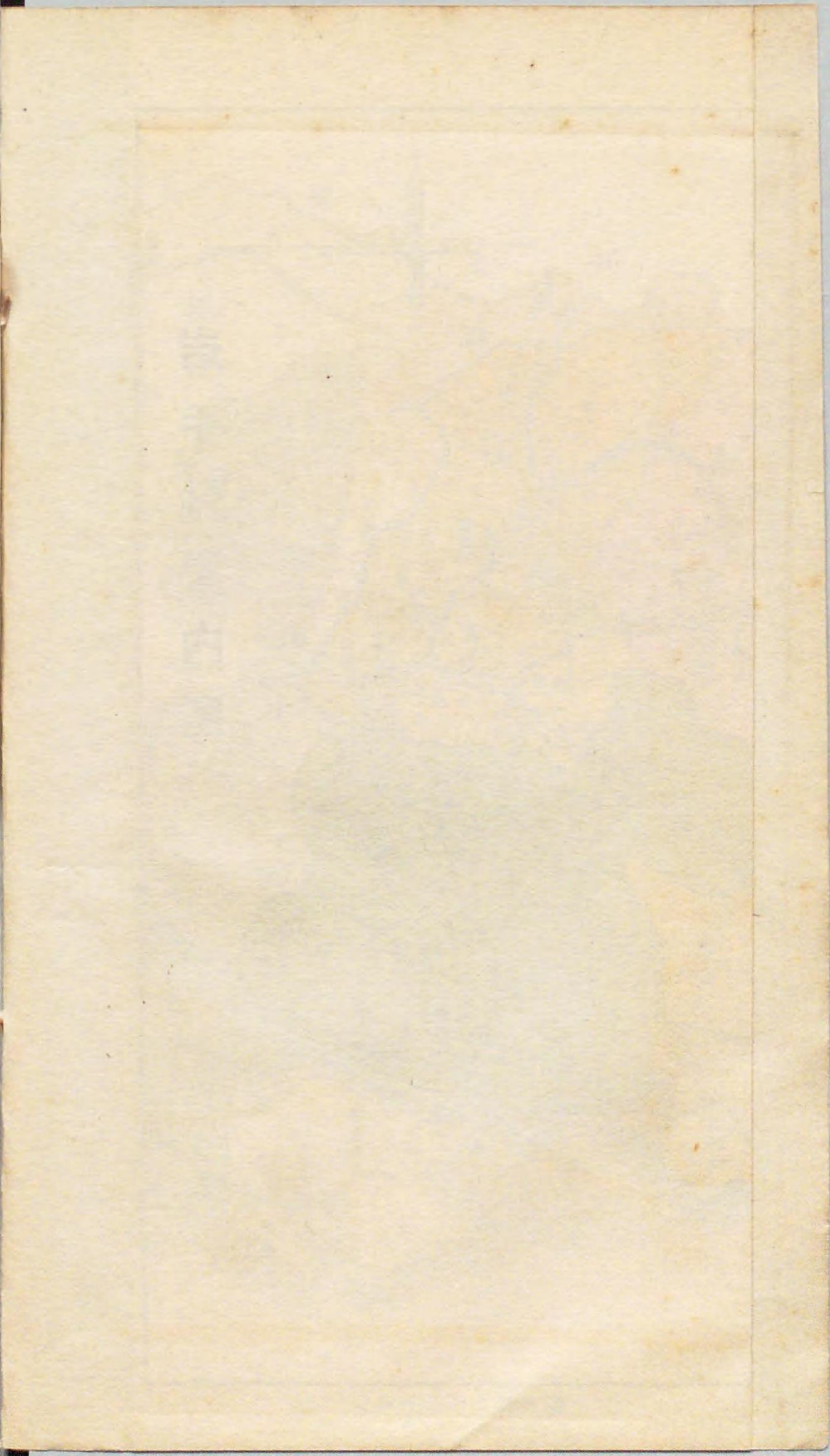
岩手縣管內圖



一之分千五万七尺縮

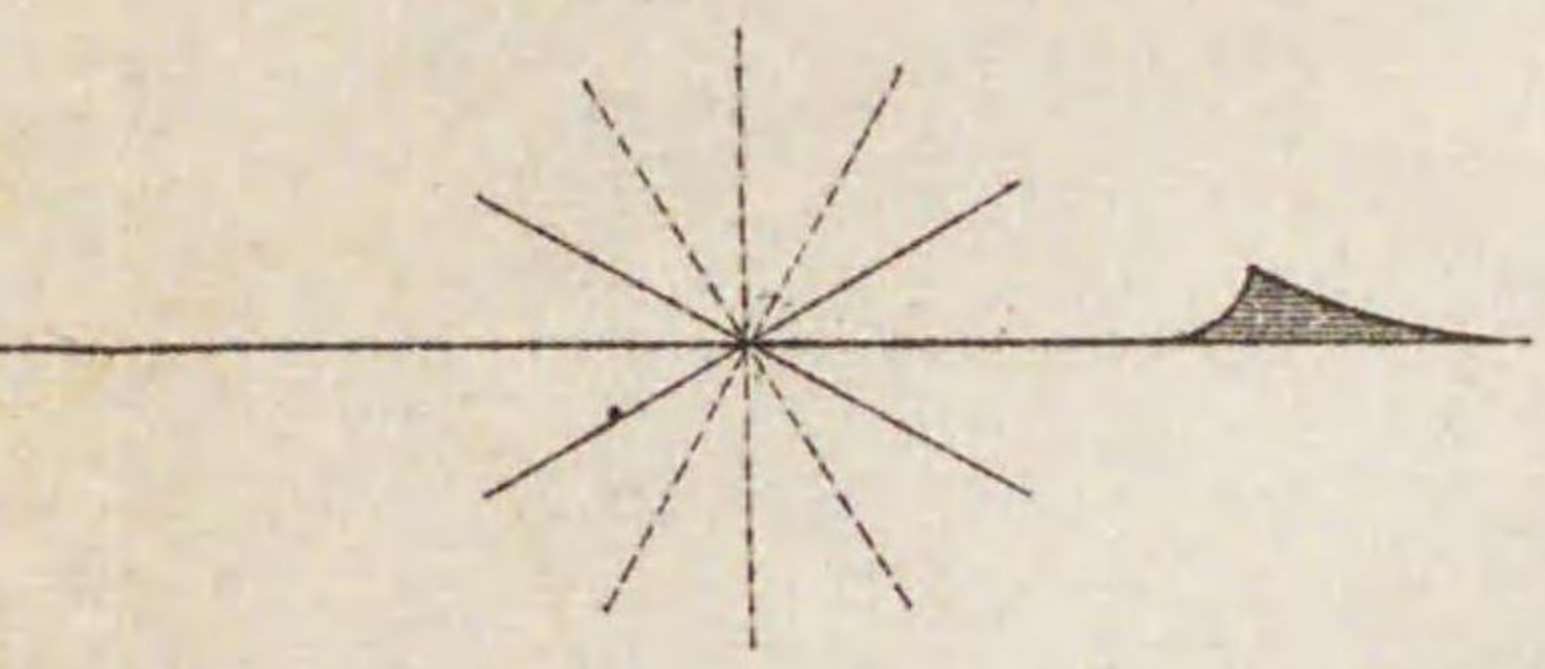


- 例 凡
- ◇ 燈台
 - 町役場
 - 支廳
 - 縣廳
 - 重要港
 - 河川
 - 山岳
 - 電氣鐵道
 - 私設鐵道
 - 省鐵道
 - 縣道
 - 國道
 - 市町村界
 - 都界
 - 縣界



岩手縣管内里程圖





角

鹿

秋仙

北

手

紫

波





〰 縣界
 〰 郡界
 〰 海岸線
 〰 市界
 〰 町界
 〰 村界
 〰 驛
 〰 停車場
 〰 里位
 〰 町位

例凡



横手町起
平

鹿嶋 雄勝



和賀 貫

西磐井

栗原

磯城

登米

井

磐

東

江

刺

波

稗貫

膽

澤

賀

若柳

松川

田湯

内澤

本湯

口湯

田大

間笹

根藤

目川横

崎々金

崎承

佐倉

澤水

城古

泉平

川衣

美巖

動不

和志

牙水

目野宮

子根

柳鬼

瀬廣

岩谷

澤石

山白

嶋長

中里

目山

花泉

田德

館古

目野宮

木更

花立

内中

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

嶋長

川舞

橋門

張家

油島

赤澤

内比佐

細重八

鏡二十

内谷

里王

原田

山白

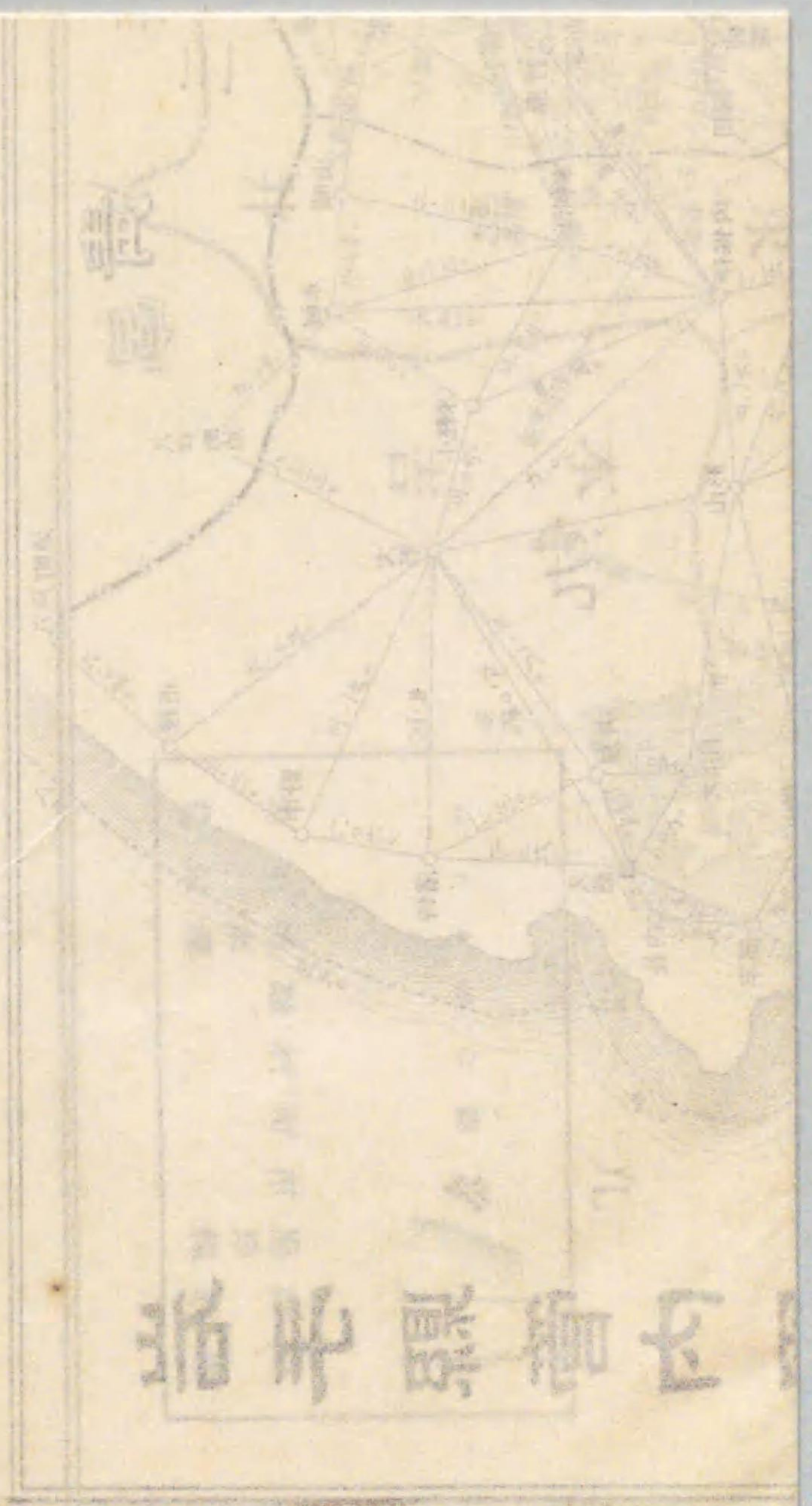
嶋長

川舞

橋門

張家

油島



一、沿革

本縣は元陸奥の一部をなし、有史以前はコロボツクルと云へる人種居住したが、其の歴史に見えたる頃は蝦夷人(アイヌ)住居したもの、様である。崇神天皇及景行天皇の御代人を遣はして東夷を討伐せしめ、それより齋明天皇に至る間幾多の軍を起して之を征服したりと云ふも、未だ蝦夷の巢窟たるを免れなかつた。而して本縣地方に兵を遣はしたるは、奈良朝時代明天皇又は元正天皇の頃なるべく、進んで光仁天皇の時に至つて深く賊地に蕨入したと云ふ。平安朝時代に入り桓武及嵯峨兩帝の頃諸將をして之を征し諸郡を置いた、茲に於て夷族平定し拓殖亦其効を奏し、新郡頻りに設置せられ久しく事なきを得た、然るに後冷泉天皇の御代前九年の役を初めとして奥羽地方復多事なるに至り、後三年の役終りて漸く治まり藤原氏の有となつた、後源頼朝府を鎌倉に開き天下兵馬の權を掌握せしと雖、獨り奥羽は藤原氏の據る所となり、威令久しく之に及ばなかつた。明治元年十二月陸奥を分ちて磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國とし、中陸中は磐井、膽澤、江刺、和賀、紫波、稗貫、岩手、閉伊、九戸、鹿角の十郡を包含した、此の時南部氏は十三萬石に減封の上白石に轉封せられ、元の封土は朝廷の直轄となつたが同一

年七月南部氏復歸して盛岡藩主となり、岩手、紫波、稗貫、和賀の四郡を管した、而して和賀の内二十一村は江刺縣に屬し、紫波郡の四村は八戸藩に屬した、同三年五月藩知事南部利恭、職を辭し藩を廢して縣となさんことを建議した、此の歲七月盛岡藩を廢して盛岡縣を置かれた、管する所藩時と同じであつた、同四年十一月全國廢藩置縣となり、更に青森縣より九戸郡を割き又紫波全部を屬し江刺縣を廢して閉伊及和賀の全部を合併し尙盛岡縣と稱したが、同五年一月に至り岩手縣と改稱した、九年四月磐井縣（明治四年七月一ノ關縣を置き同年十二月改めて水澤縣となし、同八年十一月更に改めて磐井縣となす）を廢し磐井、膽澤、江刺の三郡を合した、此の年六月更に宮城縣より陸前國氣仙郡を割き、青森縣より陸奥國二戸郡を割きて本縣に屬した、是に於て從來所管地の分合常ならざりしもの始めて定まつた、即ち陸中の岩手、紫波、和賀、稗貫、膽澤、江刺、西磐井、東磐井（明治十一年磐井郡を東西に分つ）上閉伊、下閉伊（明治十一年閉伊郡を東西南北中の五郡に分ち明治二十九年更に分合して上閉伊、下閉伊となす）九戸の十一郡盛岡市（明治二十二年市制施行）陸前の氣仙一郡、陸奥の二戸一郡合せて一市十三郡となつた、是より人文日に開け物産亦繁殖し且交通機關の開設漸く整ふるに至つたのである。

二、地勢

本縣は東徑百四十度三十八分より起り百四十二度五分に達し、北緯三十八度四十六分より四十度二十七分に至り、北は青森縣、西は秋田縣、南は宮城縣に界し、東は太平洋に臨み、本州の北東部を占めて居る、東西三十一里、南北四十五里で面積九百八十七方里、實に我國第一の大縣である、而して本州北彎外帶の北部を構成する北上山脈は、縣の東部九戸、下閉伊、上閉伊、氣仙と二戸、岩手、稗貫、和賀、江刺、膽澤、東磐井の一部に蟠居して南北に亘れる紡錘狀の高地形を成し、諸川太平洋斜面に走りて漁舟を助けて居る、西は秋田縣との境を畫する脊梁山脈即ち陸奥山脈の本支脈は又南北に亘れる高地を成して二戸、岩手、稗貫、和賀、江刺、膽澤、西磐井諸郡の西半之に屬し、山岳重疊岩手山の六千八百尺を主とし四五千尺の高峰少くない、其の險峻なること北上山脈に過ぎ東に傾いて中部平地となつて居る、而して北上脊梁兩山脈間の地溝帶の大部は、南に傾きて北上川及其の支流の灌漑となり其の一小部は北に傾き、馬淵川流域に屬するは沖積地となる是等本支流の灌漑する所二戸、岩手、紫波、稗貫、和賀、江刺、膽澤及東西磐井の各郡に亘りて縣の中原を成し土地膏腴、生産豊富人事の最も旺盛なる所實に本縣の

地勢

大動脈と云ふべし、幾多の都邑其の沿岸に興り、國道之を連続し鐵道亦之に沿うて馳せ、東西に支線を分岐して居る、海岸の北半は單調なる砂濱峭岸相半するに過ぎないけれども、南半は屈曲極めて多く所謂フォルト的港灣に富み中央に、突出する銚崎は實に本州の極東である、近海は南に向つて通過する千鳥海流と東北に轉過する日本海流即ち黒潮との二大海流が相交錯してゐるので、水族の豊富なる全國に其の比を見ざるのみならず世界三大漁場の一に數へられ無限の富を齎して居る。

位置面積及廣袤

縣廳の位置	盛岡市内丸	東經 一四一・〇六度 北緯 三九・四二
縣の位置	極東 下閉伊郡重茂村 極西 和賀郡湯田村 極南 西磐井郡永井村 極北 九戸郡種市村	東經 一四二・〇五度 北緯 三九・四二 東經 一四〇・三八度 北緯 三九・四二
面積及廣袤	面積 九八七方里八〇	廣袤 東一里 西三・一里 南四・五里 北四・五里

三、氣象

區域の廣大と地勢の多樣とに由り氣候一様でない、概して海岸部は稍々溫和だが内陸部は寒冷である、氣溫は一、二月の頃最低に達し盛岡地方最低零下二十度を降ることあり、四月に至り急に昇り七、八月最高となり十一月急に下降する。
東海岸地方は夏季は南風東風、冬季は北風西風多く、北上山脈以西の地は冬季に北風、夏季に南風が多い、又夏秋の候旋風が襲來するけれ共、南日本に於ける如く烈しくない、降水量は冬期に尠く夏季に多い。

氣象

測候所	二	觀測所	一二
氣溫 (攝氏)	盛岡 最高 三三・一度 宮古 最高 三五・六度 最低 (-) 最低 (-) 一三・七度 平均 一九・六度	盛岡 最高 三三・一度 宮古 最高 三五・六度 最低 (-) 最低 (-) 一三・七度 平均 一九・六度	盛岡 最高 三三・一度 宮古 最高 三五・六度 最低 (-) 最低 (-) 一三・七度 平均 一九・六度
降水量	盛岡 總降水量 一一、〇〇六・六糎 宮古 總降水量 一、〇九六・六糎 最多日量 五・一八糎 最多日量 六・二〇糎	盛岡 總降水量 一一、〇〇六・六糎 宮古 總降水量 一、〇九六・六糎 最多日量 五・一八糎 最多日量 六・二〇糎	盛岡 總降水量 一一、〇〇六・六糎 宮古 總降水量 一、〇九六・六糎 最多日量 五・一八糎 最多日量 六・二〇糎
天氣日數	盛岡 快晴 四一九 曇 二〇七 雨又は雪 一七三	盛岡 快晴 四一九 曇 二〇七 雨又は雪 一七三	盛岡 快晴 四一九 曇 二〇七 雨又は雪 一七三

氣象

四、土地

本縣の土地總反別は百二十九萬六千七百二十四町三段で、内御料地及官有地は五十六萬二千七百三町餘で、總反別の四割三分に當り、民有地は七十三萬四千六百五十町八段で五割七分に當る。

更に民有々租地を地目別に比較して見ると最も廣大なのは山林原野で五十四萬六千二百三十五町九段歩、民有々租地の七割八分に當り、次は畑八萬六千五百二町で全上の一割二分、田五萬五千六百八十五町で〇割八分、宅地其の他は僅かに同上有租地の二分である。

一反歩平均地價最高は宅地四十七圓二錢、次は田二十三圓五十一錢、畑五圓四十七錢、山林十二錢、原野は僅かに十一錢である。

年期地中有租地は、六千七百五十八町一段で、免租年期地は一千六百五町五段にして、又免租地は二萬三千七十七町五段である。

土地

土地總反別	御料地		官有地		民有地		合計
	山林・原野	其他	山林・原野	其他	山林・原野	其他	
	町	町	町	町	町	町	
五〇、九七三・二	—	四四三、七三六・三	六七、三六四・〇	五六九、六六六・四	一、〇六四、三七五・九	三三、三四八・四	—
五五、六八五・〇	一三、〇九三、〇六二	七五・三〇	一・二五	二五・四〇	二五・四〇	二五・四〇	七・九二
八六、五〇二・〇	四、七三二、五四〇	二五・四〇	一・二五	三・五三	三・五三	三・五三	一一・三〇
一一、八〇二・七	六、二〇三、〇七六	三、四五〇・〇〇	三・五二	—	—	—	一・八二
四三、七七四・九	五三八、二四五	三・一八	—	—	—	—	六一・五五
一一三、四六一・〇	一二九、三七二	四・五〇	—	—	—	—	一六・一三
一、九八四・一	九、二五〇	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇
七〇三、二〇九・七	二四、七〇五、五四五	—	—	—	—	—	—
六、七五八・一	八、〇一九	—	—	—	—	—	一一・四九
一、六〇五・五	八五、一〇五	—	—	—	—	—	五・一一
二二、〇七七・五	—	—	—	—	—	—	七三・四〇
三二、四四一・一	九三、一二四	—	—	—	—	—	一〇〇・〇〇
反別	地	價	最高	最低	平均	反別百分比	
			(地價)				

五、戸口

本縣は九百八十七方里餘の大面積を有するけれ共、昭和五年十月一日現在に依る國勢調査の世帯概數は僅かに十六萬二千九百六十五で、其の人口九十七萬五千七百七十一、一世帯平均六人弱、一平方料に付六十四人に過ぎず、全國府縣中人口の稀薄なこと第一位である。

人口靜態

郡市名	大正十四年國勢調査の結果		昭和五年國勢調査の結果		現在戸數
	世帯數	現在人口	世帯概數	人口	
盛岡	九、三六六	五〇、〇三〇	一一、六〇六	六二、二四九	一一、四八四
岩手	一三、二九二	八二、七八五	一三、四五二	八四、八〇七	一三、〇〇二
紫波	七、二一五	四四、七〇四	七、四〇三	四七、〇一九	七、三〇九
和賀	九、四四二	五六、七七三	一〇、一九四	六一、〇一五	九、九七六
澁澤	一一、八一九	六九、六六八	一一、四二四	七四、二五一	一一、二六三
刺井	一一、二二三	四六、五一六	一一、八〇五	七〇、二三四	一一、七〇七
江刺	七、九三五	四六、四四一	八、〇一〇	四八、〇六五	七、九二五
西井	九、三四五	五六、五二五	九、七三五	五九、四七三	九、四八四
東井	一三、五六三	七八、七七三	一四、〇六二	八三、五四九	一三、七七七
氣仙	一〇、五六一	六二、〇六一	一〇、九五九	六七、四六三	一〇、五六四

人口動態

計	上閉		下閉		計
	伊伊	伊伊	戸戸	戸戸	
一五三、四〇一	七六、一一七	一五、〇九八	一六二、九六五	八七、八〇五	一四、六一三
一四、七九五	八六、七二四	一五、八六二	九四、一七〇	九四、一七〇	一五、〇三二
一一、八四八	六九、九五三	一二、七〇二	九、六五四	七六、二八四	一二、二〇七
九、一一三	五五、九一四	九、六五四	五九、三八七	五九、三八七	九、三九二
一五三、九二八	九〇、九八四	一六二、九六五	九五七、七七一	四八六、八九九	一五八、七三五

年次	婚姻	離婚	出生	死亡	産産	出生死亡の差
昭和五年	一三、九八六	一、五二六	四一、八四五	二一、七〇〇	二、六〇一	二〇、一四五
昭和四年	一四、一三四	一、五七三	四〇、九五二	二一、二四四	二、五八二	一九、七〇七
昭和三年	八、四一一	六四五	四一、四三八	二二、九五二	二、六六五	一八、四八六
昭和二年	八、五五四	九九四	四〇、六五〇	二一、七九三	二、六二六	一八、八五七
大正十五年	八、八八一	一、〇三〇	四一、一七六	二〇、四七九	二、七五二	二〇、六九七

六、行政

本縣行政區劃は一市十三郡に分たれ、大正十五年地方制度改正に伴ふ郡役所廢止に際し、區域廣大、交通不便なる下閉伊、九戸の兩郡に支廳を置き、又徵稅賦課等の爲めに、昭和四年七月一日より、縣下六箇所にて財務出張所を設け、土木行政の爲めには七ヶ所に土木管區を置き、穀物の生産及移出検査を行ふ十九の穀物検査出張所及木炭移出検査執行の爲め主要生産地三十八箇所に木炭検査出張所を設置してある。

議員定數は貴族院議員一、衆議院議員七、縣會議員三十五、市町村會議員三千三十名で、選舉有權者は貴族院議員(互選人)百名衆議院議員十九萬六千五百二十九名、縣及市町村會議員は何れも十九萬四千百三十四名である。

縣官吏及吏員數は一千二百七十八名、市町村吏員は七千九百七十八名である。

行政區劃

郡市名	支廳市役所所在地	町	村	計數	面積	一方里
盛岡	丸	一	三	二四	一四六・一一	一九、三三二
岩波	一	一	一	二	二五・七七	五八〇
紫波	一	一	一	三	四四・六二	一、八二五
稗貫	一	一	一	二	七六・七二	一、三六七
和賀	一	一	一	二	四九・三六	九六七
膽澤	一	一	一	二	二八・七七	一、四二三
江刺	一	一	一	二	三六・一九	一、六七一
西江	一	一	一	二	五一・八五	一、六四三
東磐	一	一	一	二	六一・七七	一、六一一
氣磐	一	一	一	二	九〇・五二	一、〇九二
上閉	一	一	一	二	一七七・九〇	九七〇
下閉	一	一	一	二	一一五・五七	五二九
計	久宮 慈古 町町	二七	二〇九	二三六	九八七・八〇	九八八

種別	貴族院議員	衆議院議員	縣會議員	市町村會議員
議員定數	一	七	三五	三、〇三〇
選舉有權者數	(互選人) 一〇〇	一九六、五二九	一九四、一三四	一九四、一三四

官公吏其他

縣官吏及吏員	市町村吏員	其他
勅任 奏任 判任 吏任 吏任 巡計	市町 村長 有譽 給職	技 術 員
一 一 四〇 一八九 二四九 二三八 六三 四九〇 一、二七八	一八〇 四七 一五三 六九 三三五 五	四三 二、一五八 四、〇六七 一九
任遇 任遇 任遇 員遇 員遇 員查	名譽 職給 職給 職給 職給 職給 職給	常設 委員
	助役 有名 譽職	區長 同代理 者
	收入 役及副 收入役	其 他
	主事 書記 及雇 員	統計 調查 員
	一、〇一四	二、三三三

七、産業

本縣は土地豊穰農業に適し、耕耘に従事するもの十萬五千九百二十七戸の多數を示し、其の耕地は十四萬二千町歩に達して居る、牧畜は本邦に於て樞要の地位を占め、南部馬の名は古來嘖々たる名聲を有し、維新後は官公設の各種機關に依り、改良増殖を圖り、常に之が施設を怠らず益々進歩の域に向ひつゝある。

林業は本邦唯一の山林王國で年々産出する木炭、薪炭材、用材等夥しく、就中木炭は中央市場に聲價を博して居る。

漁業は沿海四郡に亘り、其の戸數七千に及び、海岸延長八十里、寒暖二流の衝に當り、水族の饒多なる全國に其の比を見ざる所で、世界屈指の大漁場たるの誇りを有してゐる。

鑛業は昔の様に盛んではない、縣下到るところ鑛産に富み、特に鐵の産出は全國第一である。工業の資源は海陸共に無盡藏であるけれど共、開發遅々として之等原料品を悉く加工し得る程度に至らず、僅かに本縣總生産額の三割に過ぎないのは遺憾とするところである。

本縣昭和五年中に於ける生産物總價額は九千五百八十九萬八千二百九十五圓で、一戸當六百

産業

四圓十四錢、一人當九十八圓二十四錢で、前年に比較すれば三千百五十萬七千二百三十二圓、即ち二割五分の激減を示して居るが一般財界不況の結果で止むを得ない。

職業別戸數

種別	専業	本業	計	總戸數に對する千分比	
				専業	本業
農業	二七、三五二	六七、一三四	九四、四七五	一七二・三二	四二二・八七
水産業	二、九八九	四、〇一九	七、〇〇八	一八・八三	二五・三二
鑛業	二、一五八	二九三	二、四五二	一三・五九	一・八五
工業	七、八〇一	六、六九二	一四、四九三	四九・一四	四二・一六
商業	一〇、三五四	七、二三〇	一七、五八四	六五・二三	四五・五五
交通業	二、三三〇	二、〇〇八	四、三三八	一四・六八	一二・六五
公務及自由業	七、八一九	二、四七二	一〇、二九一	四九・二六	一五・五七
其他の職業	五、九八六	二、一〇九	八、〇九五	三七・七一	一三・二九
計	六六、七八八	九一、九四七	一五八、七三五	四二〇・七五	五七九・二五

重要物産

(百萬圓以上)

種別	數量	價額	種別	數量	價額
米	一、一九二、〇六一石	一九、一七七、三八八 <small>円</small>	銑鐵	三九、九七四、七〇六 <small>貫</small>	七、七九六、九二三 <small>円</small>
繭	一、一〇三、九五五 <small>貫</small>	二、九四九、九二二	鑛石	—	二、五七九、一五七
麥	五五三、〇九一石	四、六三一、一一九	稗	二六三、四〇九石	一、二二一、四八九
酒類	五七、七二二 <small>貫</small>	四、五九六、一五四	菓子及麵麩類	—	一、四二三、二七三
生糸	七四、七五七 <small>貫</small>	三、三六五、三一九	錫	六四三、二三七 <small>貫</small>	一、一九一、八三六
木炭	三〇、一二二、五〇〇	三、四七二、三二五	木製品	—	一、二二六、九八〇
桑葉	一九、一八六、六八八	二、〇三八、九〇四	魚	—	一、二八六、二七 <small>貫</small>
薪炭	四九三、九一八 <small>棚</small>	一、五五二、四二五	金屬製品	—	一、二八六、二八九
大豆	二六九、六八六石	二、一八五、九二三			一一、〇〇一、八一七
用材	—	一、一八七、三五九			

産業

主要生産物累年比較

種別	農産					
	米	麥	大豆	小豆	粟	稗
單位	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石
昭和五年	一、一九二、〇六一 一九、一七七、三八八	五五三、〇九一 四、六三一、一一九	二六九、六八六 二、一八五、九二三	二〇、五三八 二六一、四五四	五六、八〇八 三八三、九七七	二六三、四〇九 一、二二一、五八九
昭和四年	一、〇四四、〇四一 二七、一六一、七六〇	五一四、七二一 五、三七八、一七〇	一七一、一五三 二、七〇八、七六九	一〇、四九七 二五〇、七一九	四二、二一〇 四五、九一〇	一四二、一四九 一、一四三、四三四
昭和三年	一、〇九六、四一四 二九、八七八、〇六五	五六八、六一五 五、八〇〇、五五二	二七三、一五〇 四、二二〇、〇七七	二〇、八六八 四三七、七三二	六二、三七九 六三四、四六一	二七一、六八六 一、九六七、九〇七
昭和二年	一、〇六一、五七八 三〇、〇三三、四一六	五〇二、五九六 五、〇九六、〇八六	二九四、〇三六 四、一二九、七八〇	二二、四一四 四二六、三〇八	七一、〇五五 六五五、四九二	三一五、五四七 一、九七五、四四四
大正十五年 (昭和元年)	九四七、四七二 二九、七七四、九一九	五九三、四〇四 六、九二二、七九八	二五三、六五八 三、九三二、二五八	二〇、五五一 四二七、八五三	七二、八六〇 六七九、二二二	二九九、二八一 二、〇九六、一四三

種別	物産							
	キャベージ	蕎麥	馬鈴薯	蘿蔔	果實	大豆	繭	葉煙草
單位	圓貫	圓石	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫
昭和五年	二、六五〇、三三六 一五五、五〇四	三九、一七六 二三二、五七七	六、七五九、六八七 六三五、七三四	一三、二五一、九一八 七一、六四〇	六八七、七八八	七六、一五九 七二、二九九	一、一〇三、九五五 二、九四九、九一二	三八六、七三七 八八六、〇三六
昭和四年	一、九三〇、九七〇 二六五、七三〇	一九、七六〇 二二〇、八五五	五、三三三、一九〇 八三一、〇八一	一〇、九八八、七九五 九五七、六四八	八二四、九七三	八七、二九五 九七、一五六	一、一四三、九七四 六、八五二、九六九	三〇六、八〇八 六五一、四四〇
昭和三年	一、七四九、三五五 二七七、〇七〇	三六、一三六 三八六、八七〇	六、三三一、一〇八 九八二、二〇一	一二、二七三、一三五 一、一二四、〇一九	八四五、一三〇	九二、六一六 一〇五、四二一	一、〇二六、八〇七 五、一〇四、〇一〇	三三〇、九一六 八三八、七一〇
昭和二年	一、七八五、四五五 二五〇、七七五	四四、二三〇 四四一、六六八	六、〇二五、九七六 九二六、九四七	一四、三三九、五八四 一、二〇三、一六七	五七二、一五	一二三、二〇七 一二五、四三九	一、〇四三、二四四 五、六一四、一四二	三三三、〇二二 七八五、八八三
大正十五年 (昭和元年)	一、三九二、七八〇 二一七、五三四	四四、二五九 四八六、三七四	六、七三二、二八〇 一、〇一四、一一一	一三、一三五、九四九 一、二三九、八七九	五八三、一二七	一三八、〇〇〇 一四九、一〇一	一、一〇〇、八一四 八、九六八、四一四	三八五、五一一 七〇七、五六五

工 業 產 物							
酒 類	醬 油	生 糸	漁 網	金 屬 製 品	織 物	木 製 品	竹 製 品
石 圓	石 圓	貫 圓	反 圓	圓	圓	圓	圓
五七、七一二 四、五九六、一五四	二七、五三六 五八、八一〇	七四、七五七 三、三六五、三一九	六、二五四 七六、〇〇四	二、〇〇一、八一七	八九、五九一	一、二二六、九八〇	九六、四一一
六七、九三九 五、六八五、一三七	二七、〇二四 七四二、九五二	一四一、六五一 六、二四二、三八八	六〇、六七七 一一四、八一七	二、八五六、八六〇	一一五、二三〇	一、三二七、七〇四	一三一、八一四
七二、六一八 六、〇二三、四七三	二二、九〇四 九二〇、五一〇	一二六、六一二 五、六八二、九二四	五二、〇四〇 一二二、一八七	一、一四七、四三八	一四一、四九三	一、三五五、七五一	一三七、八三一
七六、二〇九 六、二三三、一八九	二二、七二二 八八五、四二六	八一、八〇五 五、三〇九、二四五	六〇、八七二 一二五、二九九	七、七〇〇、〇〇三	一九三、一二五	一、三二七、三五二	一三九、六五八
八三、七八六 六、八四二、八四六	二二、四四三 九〇八、三九四	九一、三九〇 五、九八七、七〇四	四、四一三 七三、八八一	六、四七六、八二六	二八五、五一四	一、三二六、三五〇	一四二、五四〇
一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四	一八九、七九四

礦 產 物				林 產 物			
銑 鐵	硫 黃	石 圓	鑛 圓	木 炭	薪 材	用 材	樹 實
貫 圓	斤 圓	圓	圓	貫 圓	圓	圓	圓
三九、九七四、七〇六 七、七九六、九二三	六、四七二、八〇六 九八三、一四六	二、五七九、一五七	三、六七六、六九九	三〇、一二二、五〇〇 三、四七二、三二五	六九五、三九二 一、九五六、〇九一	一、六一一、八八四	一六九、二三九
二五、六一一、二五五 三、七八三、六六七	三三、七三二、〇〇七 一、三七四、四九九	三、六七六、六九九	三、六七六、六九九	三一、九二九、五二六 四、九八九、五七八	七九〇、七一〇 二、七八一、五〇七	二、一五九、四七一	三九一、九五〇
一一二、八五九、三八八 二、五九二、〇五二	三九、五二一、三九二 一、六二七、四五四	二、五九三、五五八	二、五九三、五五八	三四、〇二九、四八二 六、三二六、四〇六	九一〇、一九九 四、一二九、六五一	二、五七七、六七八	二七六、〇四二
一一二、八五九、三八八 二、五九二、〇五二	三六、二五九、三九二 一、四五四、〇二八	二、二二一、五三一	二、二二一、五三一	三三、一七四、三三七 六、二四四、二一八	九〇五、八九八 五、〇六〇、三一〇	二、一〇八、二五九	二二三、八〇八
一二、九〇七、七八七 五八、四三六	三、三四四、六〇〇 一、〇八九、四二六	二、四六二、九九五	二、四六二、九九五	二八、八一四、九一四 五、七四〇、一一七	八六三、三〇八 三、九六五、七八一	二、五六二、五〇四	三五二、五五二

水				
鯉	鱘	柔	鰻	鮪
節	魚	魚	魚	魚
圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫
四七一、九四〇 一九五、七九一	一、一五五、四九五 三八一、〇三一	二、七四五、九二九 八五二、〇三五	一九二、二四八 九三一、九三〇	一、二八六、二二七 一、二八六、二八九
九二七、九七一 五八一、三九七	一、二九二、四五八 五四〇、〇八五	二、一八四、〇九五 八五二、二二八	一、一八四、〇五八 一、一〇二、二四一	九八四、二一四 一、三六三、七八〇
一、〇五三、八五七 六八二、〇八八	一、二四三、〇六〇 六五八、六九八	九八〇、八五一 四四八、〇六〇	二、一五、三七三 一、三六四、七〇〇	一、三〇、四二一 二四二、〇四七
一、〇〇三、二七六 六二九、八三四	一、三六四、七三三 七二七、三九一	二、〇二四、一四八 九六四、五九九	二、一六、三四六 一、二六八、三九八	一、四七八、〇九七 二、八一五、七七九
八二二、一〇五 五八二、五二四	二、一五五、五八六 一、〇一一、七八五	七、六四二、四八四 二、九九二、八〇七	二〇四、六六三 一、四七七、三四二	二、六四九、一三二 四、六〇九、四四七

畜				物
豚	牛	馬	牛	乾
乳	乳	乳	乳	鮑
圓頭	圓石	圓頭	圓頭	圓貫
一三、三六一 一一〇、七六三	二六三、一六二 六、五六七	八一四、六四一 九、一一五	一八一、二一六 四、〇〇七	八一、六七三 四八九、七一九
一一五、八二七 一二、三八〇	二五六、五八七 四、〇三八	一、一二六、九四六 一〇、〇〇五	二二六、一九七 四、六四七	四一、八八二 四〇九、八〇〇
一二、五八三 一二八、五五八	二四八、四一八 三、六九六	一、四三五、五九四 九、八三七	二九五、二〇三 四、九三六	五八、一八〇 六六〇、〇七〇
一二、三二六 一五一、八六九	二五五、〇七四 三、七五一	一、四三五、五五四 九、八三七	二六二、〇七七 四、七二七	四四、七九一 六一〇、一〇九
一〇、一一五 一三四、二七七	二五六、九九五 三、六三五	一、四二七、五七八 九、〇一六	二九四、三六〇 四、二九九	四九、六七五 六四三、二七四

產業

生產物總價額

郡市名	農產	工業	鑛產	林產	水產
盛岡	二五七、八二九	四、七八三、九八〇	六、二八三	二二一、三五二	一二、五八四
岩手	三、六四八、七二〇	六〇一、五六四	一、一八八、七五四	一、〇四五、五一三	七、四一九
紫波	二、九一二、〇九九	三二四、四一九	一、三〇、六九八	一九八、一五八	二、二五三
貫賀	三、〇七七、八八〇	二、一九、二九三	二、八四六	三二一、六三二	七、四四九
和賀	三、〇六八、二四四	五六七、六八五	一、九二八、八一〇	五八一、七七〇	三〇、八二一
膽澤	三、五一四、九三三	一、二五六、五五三	一、五四七	二一一、〇三三	八、一五三
江刺	二、二五九、一四四	五五五、三七九	一、八、六〇二	三一一、一〇六	一、七九八
西井	二、六九五、二八〇	二、一四五、九六七	二、九、〇七二	二九八、六二九	八、二八六
東磐	四、六〇〇、五〇六	一、一七二、七三八	一、九、八六一	七四六、二八一	七、八七〇
氣閉	二、七二三、六九三	一、二一三、九六〇	一、六五、八一〇	七四六、二八一	二、三〇一、五九六
上閉	二、六〇三、八五四	四、四四九、九七八	八、一七〇、一七九	八九六、〇六四	四、四九八、四八〇
下閉	二、八五二、七九五	一、〇六三、四四八	二、二、九八八	二、七三一、一三六	四、一九九、七五四
計	一、八九二、六三一	四〇七、六六六	三六、四五六	一、三九五、八六四	二、三一、八四八
計	三、八、二三八、七四八	二二、一九七、四〇〇	二一、七四七、三一九	一〇、八二六、三〇五	一一、三一九、七三一

產業

郡市名	畜產	計	百分比	現住戶數	現在人口
盛岡	二〇九、〇九四	五、四九一、一二一	五、七三	四七八、一五	八、八二一
岩手	四六三、八九八	六、九五五、八六八	七、二五	五三四、九八	八、二〇二
紫波	一〇五、四一二	三、六七三、〇三九	三、八三	五〇二、五四	七、八一三
貫賀	一三三、三三五	五、六六二、四三五	五、九〇	五六七、六一	九、二八〇
和賀	一五六、五六五	六、三三三、八九五	六、六〇	五六一、五〇	八、五三〇
膽澤	一一六、七四六	五、一〇八、九六五	五、三三	四三六、四〇	七、二七四
江刺	九〇、六七五	三、二二六、七〇四	三、三八	四〇八、三八	六、七三三
西井	一三三、七九〇	五、三一一、〇二四	五、五四	五六〇、〇〇	八、九三〇
東磐	一一七、一四八	六、七八九、〇七二	七、〇八	四九二、七八	八、一二六
氣閉	九三、〇五一	七、二四四、三九一	七、五五	六八五、七六	一〇七、三九
上閉	二四七、二九四	二〇、八六五、八四九	二一、七六	一、四二七、九〇	二、三七、六四
下閉	二九二、三二五	一一、一六二、四二六	一一、六四	七四二、五八	一、一八、五三
計	二、五六八、七九二	九五、八九八、二九五	一〇〇、〇〇	六〇四、一四	九八、二四

産業

生産額累年比較

種別	年次				
	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	大正十五年
農産物	三八、二三八、七四八 <small>円</small>	五三、五四、二六八 <small>円</small>	五八、六〇三、四五二 <small>円</small>	五八、八六六、五〇九 <small>円</small>	六四、六三八、〇二二 <small>円</small>
工産物	二二、一九七、四〇〇	二六、七八二、九七二	二八、三三二、七八三	三一、七二七、五六三	三一、〇四六、一八三
鑛産物	一一、七四七、三一九	一五、五〇〇、七三〇	一二、五八九、二三五	六、五五六、五三九	三、八〇三、三三五
林産物	一〇、八二六、三〇五	一五、一二八、六〇八	一九、九五二、五九七	一八、七九九、八六一	一七、二〇三、八九三
水産物	一一、三一九、七三一	一三、二四五、四〇二	一二、八二〇、四四五	一四、五九一、五〇二	二〇、三六一、九二三
畜産物	二、五六八、七九二	三、二三三、五四七	三、八〇三、六四四	三、七六四、九二三	三、六三八、一五七
計	九五、八九八、二九五	一二七、四〇五、五二七	一三六、一〇一、一五六	一三四、二九六、八八七	一四〇、六九一、五〇二
現住一戸當	六〇四・一四 <small>円錢</small>	八三二・〇一 <small>円錢</small>	八九八・八九 <small>円錢</small>	八九八・七三 <small>円錢</small>	九五二・〇七 <small>円錢</small>
現住一人當	九八・二四	一三四・三九	一四五・四一	一四五・三一	一五四・一八

八、農業

本縣は山岳多く氣候温暖ではないが、土地豊沃農耕に適して居るので、十萬五千九百二十七戸即ち現住戸数の六割七分が農耕に従事して居る、耕地面積十四萬二千餘町歩で、一戸當水田五反三畝、畑八反二畝に當つて居る、尙耕地整理擴張の事業は年一年著々進捗しつゝ、あるので、本縣農業の前途亦頗る多大の望を囑する所以である。

昭和五年農産物生産高は三千八百二十三萬八千七百四十八圓で生産物總價額の三割八分を占め、米麥、大豆、繭等其の主なるものである、前年に比し千五百二十七萬五千五百二十圓を減少したのは、主として米價の不振と旱魃の爲め稻作は勿論、其の他一般農産物被害甚からざりし結果であつて、米は十四萬八千二十石（一割四分）、麥三萬八千三百七十石（七分五厘）の増收を觀、其の他の農作物にありても一般に増收を示せるも價格は著しく低落を來した。

郡市名	米		麥	
	作付反別	收穫高	作付反別	收穫高
盛岡	二九一・二	七、二五二	一一五・七	一、九〇八
岩波	六、五二八・六	一五二、八六五	一一、二〇九・一	二五、〇〇七
紫波	六、七一一・六	一三九、三二五	一、七七五・七	三二、六七九
稗貫	六、八二二・八	一三一、五三五	一、八九九・四	三五、九七八
和賀	七、五八五・七	一三八、七一四	一、六三三・七	二二、一八〇
膽澤	八、四九六・二	一六三、八八一	三、〇〇八・四	四四、四六八
江刺	四、二九二・四	九〇、二五九	二、六三七・九	三八、五八四
西井	五、〇二七・九	九七、三一八	二、三三四・一	四三、六七四
東磐	四、六九五・七	八七、四二七	四、七二〇・〇	七三、二六五
氣仙	一、四八九・九	三三、四一一	二、四九六・四	六三、五〇九
上伊	三、二六八・〇	六六、四二六	二、一四八・二	三六、九五七
下伊	七、二五三	一五、七一〇	二、八六一・四	六二、七〇二
閉戸	一、八一・八	三六、三三八	二、五二五・七	四二、八一四
閉戸	一、六九五・四	三三、六一〇	二、〇九四・三	二八、三六六
計	五九、四四三・五	一、一九二、〇六一	二、〇〇五	五五三、〇九一
			三二、六〇〇・〇	一、三三三

九、蠶 絲 業

養蠶は藩政時代古くより奨励せられ「南部袖」「南部真綿」は地方特産品として夙に名を知られてゐた、本縣の養蠶業は地勢氣候の適順と桑園の改善、品種の統一、飼養技術の研究、屑繭整理の奨励等と相俟つて其の普及發達逐年著しきものあり、昭和五年に於ける收繭高百十萬三千九百五十五貫に達し、其の養蠶戸數三萬九千二百餘戸で、全農家戸數の約四割に當り、又桑畑は一萬一千九百八十三町餘、畑總段別の一割四分に當つて居る、一時衰退せる製糸業も、縣是糸製株式會社、岩手縣繭絲販賣組合聯合會の設立等に依り漸く更生進展の域に進みつゝある。

養蠶戸數及掃立枚數

種 別	戸 數	枚 數	一戸當枚數	蠶 種		收 繭 高	一 價	枚 當 格
				蠶 種	收 繭 高			
春 蠶	三三、九四六	一二九、一六四	三・九	收繭高	六・六九一	一九・〇三		
夏 秋 蠶	二五、〇二〇	四八、二四一	一・九	收繭高	四・九七一	一〇・一九		

蠶絲業

製絲工場

場	數	釜	數	男	職	女	計	工
	二六九		三、五三三	三九五		三、九二九		四、三二四

養蠶物

蠶種	種別	數量	價格	種別	數量	價格	種別	數量	價格
桑葉	春蠶	一九、一八六、六八八	二、〇三八、九〇四	生絲	七四、七五七	三、三六五、三一九	桑苗	一	八、六一七、七九〇
		八六四、一七九	二、四五八、五七七	屑物	四七、三八二	九五、二三二			
繭	夏秋蠶	二、三九、七七六	四九一、三三五	真綿	三七三	七、五六八	計	一	九、八〇四
		一、一〇三、九五五	二、九四九、九一二	桑苗	五八四、一八〇	三、三六五、三一九			
計		一二四、一七七	一五二、〇五一	計					

繭及桑畑

郡市名	春		夏		秋		桑畑	
	飼育戶數	掃立枚數	飼育戶數	掃立枚數	飼育戶數	掃立枚數	收繭高	桑畑
盛岡	一一九	三〇九	二、〇〇〇	一九八	八〇八	五二、〇		
岩手	一九二	四、八二三	二、〇〇〇	三、五一〇	一四、七六七	六五三、一		
紫波	一、〇四二	二、二二七	一、二二五	一、六四九	七、一七一	三九六、七		
稗賀	一、七五六	四、一〇三	二、二二一	三、八二〇	一八、〇七二	六七一、二		
和賀	二、二二九	三、八五一	二、八八三	四、五八八	二二、二四〇	六二八、二		
膽澤	一、六五一	四、七五九	一、五二一	二、二二一	一〇、五四五	七六五、三		
江刺	一、七二一	五、六三〇	一、八〇〇	二、七〇二	一三、七七二	五五八、七		
西井	一、八二〇	八、〇〇九	二、一六二	七、三三八	三六、七七四	九七六、五		
東磐	六、一五一	三〇、二三八	四、三〇七	九、四三一	五一、八四二	二、五〇五、六		
氣磐	三、〇一六	一六、二六〇	一、四四九	二、四八五	一四、一六九	一、二二五、三		
上閉	二、六八一	一〇、二六二	一、七六四	三、四〇九	一五、九六一	八七二、六		
下閉	四、〇三三	二二、七八九	九四八	一、八七〇	八、二九九	一、一九三、七		
計	三、二七三	一一、一八三	一、三九六	二、三三八	九、八七八	八五八、五		
戶	三三、九四六	一二九、一六四	二五、〇二〇	四八、二四一	二三九、七七六	一一、九八三、〇		

蠶絲業

10、林業

本縣は本邦唯一の山林國であつて、其の面積原野を合算し、實に百六萬四千三百餘町歩に達し、全地積の八割二分の多きを占めてゐる、右の内御料地及官有財産は四十九萬四千七百餘町歩で、山林面積の四割六分である、而して産出する用材は杉、赤松、白揚、楡、朴、栗、櫻、胡桃、桐を主とし、昭和五年中には一千八十二萬六千三百五圓を産し、總生産額の一割一分に當り、木炭、薪炭材、用材等が主要なものである、前年に比し四百三十一萬二千三百三圓の減少を觀たのは物價の低落に伴ひ、生産數量亦減少せるに因るものである。

民有林野

(昭和三年毎三年調査)

種類	面積		種別	人口	天然
	公有	私計			
立木	針葉樹林	23,122町6	公有	468町6	873町2
	闊葉樹林	37,587町5		6町0	12町9
地	針闊混淆林	15,334町8	私計	936町8	73町7
	竹	382町1		1町4	7町2
無立木地	計	53,320町5	公有	1,411町4	2,118町0
	計	112,935町5		2町1	2町3
伐採	計	1,330町2	私計	1,411町4	1,063町5
	計	474町6		573町4	1,121町0
計	計	605,352町7	計	計	12,776町6

保安林

國有	公有	社寺有	私有	計
11,231町5	3,911町4	12町6	14,110町0	29,361町5

林産物

種別	數量	價額	種別	數量	價額
用材	1,030,227	1,611,884	造林用苗木	10,333,647	85,832
竹材	16,517	14,846	其他	—	3,685,328
薪炭	695,392	1,956,091			
木炭	30,122,500	3,472,325	計	—	10,826,305

水産業

一一、水産業

本縣は海岸線の延長八十里に達し、漁撈採藻を生業とするもの六千六百餘戸、漁民の數三萬七千八十九人あり、由來本縣は天與の良好なる港灣を有し、且つ寒暖兩流は鰹、鮪、鱈、秋刀魚、柔魚、鮭、鱈等の重要魚族を齎し、其の水産の豊富なることは全國其の比を見ざる所である。

昭和五年中の水産物總額は一千百三十一萬九千七百三十一圓で總生産の一割一分に當り、水産製造物産額最も多く、遠洋漁業、沿岸漁獲物、水産養殖の順で、前年に比し百九十二萬五千六百七十一圓の減額を觀た。

水産業者

業主 被用者	漁撈		製造		養殖		計	
	本業	副業	本業	副業	本業	副業	本業	副業
四、〇二八	六、三三九	五三四	一、五二二	二二二	一、一三三	四、七八三	八、九七三	
七、六七二	七、二二七	二、五四四	五、〇一一	五三	八二八	一〇、二六七	一三、〇六六	

漁船及漁網

漁船	有動力		無動力		計	水産養殖場	場數	面積
	隻	統	隻	統				
船	九〇九	統	六、五七七	統	七、四八六	九六八	四八九、一五七坪	
網	曳網類	旋網類	臺網類	敷網類	落網類	魷築網	機船手繰網	計
	一〇一一	統	九二	統	九七	八四	四〇	八五
								七二

水産物

種類	別	數	量	價	額	種類	別	數	量	價	額	
												種
漁獲物	魚	共	鰹	四七一、九四〇	圓	一九五、七九一	水産製造物	鰹	一九二、二四八	圓	九三一、九三〇	
			鮭	二、七四五、九二九	圓	八五二、〇三五			鮪	六四八、四八三	圓	二二五、五三八
			鱈	一、一五五、四九五	圓	三八一、〇三一			鰺	六四三、二二七	圓	一一、九一八、八三六
			鮪	三九三、一〇九	圓	五三二、〇五六			鮭	九二、八八六	圓	八〇、九七二
			鰹	八、七三三、二八四	圓	四三二、六〇五			鮪	八一、六七三	圓	四八九、七一九
			鮭	一、二八六、二二七	圓	四五六、三六三			鰺	二、九一一、三四七	圓	六三四、二四三
			鮪	二、四七、三三三	圓	二〇四、四一五			鮭	一、四五三、七九二	圓	一一、四五三、七九二
			鮪	七、四四七	圓	四九、九二六			鮪	一、四五三、七九二	圓	一一、四五三、七九二
			鮪	一、九二一、一九〇	圓	三三八、八〇〇			鮪	一、四五三、七九二	圓	一一、四五三、七九二
			鮪	一、五五四	圓	三三八、八〇〇			鮪	一、四五三、七九二	圓	一一、四五三、七九二

水産業

一、二、畜産業

地域廣潤にして山岳丘陵に富み、原野遠く連りて天然の牧場を形成す、本邦冀北の稱ある寔に偶然ではない、本縣牧畜の業は遠く藩政時代重要な施設として嚮策せられ「南部馬、南部牛」の名夙に天下に冠たるものである、管内飼養の馬四八萬八千二百七十一頭、其の飼養戸數五萬三百五十一戸、畜牛一萬四千五十二頭、飼養戸數六千三十九戸であつて其の他綿羊、養鷄、養豚等年々増加發達の趨勢を示して居る。

昭和五年中の畜産物價額は二百五十六萬八千七百九十二圓、總生産額の二分七厘に當り、前年に比して六十六萬四千七百五十五圓の減少を示して居るけれども、之は牛馬市價下落と生産數量の減少は勿論一般家畜の安價に基因するものである。

畜産業者

家畜 飼養戸數 年末現在頭數	畜産業者				
	牛	馬	豚	綿羊	山羊
六、〇三九	五三、一五一	七、八五二	七一〇	七〇三	一九、三七七
一四、〇五三	八八、二七一	一一、九一一	一、六二五	一、六三一	三三、九七八

家禽 飼養戸數 育未現在羽數	鷄		鶩	
	飼養戸數	年末現在箱數	飼養戸數	年末現在箱數
六、三〇六	六一、三〇六	一、三七八	一、五九二	一、五九二
五五五、七四六	五五五、七四六	五、〇三八	六二七	六二七

畜産物

種別	數量	價額	種別		數量	價額
			家畜	其他		
牛	四、〇〇七頭	一八一、三二六	家畜	家畜	二五三、八七七羽	六六、三〇七
馬	九、一一五	八二四、六四一	産卵	産卵	二、四八三、二二三個	六四〇、七四六
豚	一三、三六一	一一〇、七六三	家兔	家兔	八四、二三四頭	三三、七二〇
牛乳	六、五六七石	二六三、一六二	其他	其他	—	一九四、九二四
獸肉	一〇五、七五四貫	二六三、三二三	計	計	—	二、五六八、七九二

一三、鑛業

本縣鑛山の起源は詳かでないが、其の最も盛であつたのは、安倍貞任及藤原秀衡の時代であるらしい、源義經が奥州に下るとき金賣吉次と同行したり又は秀衡が金色堂を建設した事等、其の他諸種の古記に依つて見ても既に往古より鑛物の産地であつた様で、盛岡の金山からめ踊は當時の盛況を語るものである。

目下經營せらる、鑛山の主なるものは、釜石鑛山、仙人鑛山、松尾鑛山等で昭和五年に於ける生産高一千七百七十四萬七千三百十九圓、總生産高の一割二分に當り、前年より三百七十五萬三千四百十一圓を減少して居るのは一般財界不況に伴ひ事業不振の結果である。

鑛區

區	試掘採		掘砂		鑛計	
	數	價	數	價	數	價
延坪區	110,807	245	42,108	175	52,550	243
長數數	110,807	245	42,108	175	52,550	243
					22,250	663
					22,250	225,466
					22,250	52,550

鑛產物

種別	數量	價格	種別	數量	量價	額
金	2,000	11,241	鑛	1	2,579	157
銑鐵	39,974	7,796	石材土石及鑛水	1	39,175	175
炭黃鐵	6,472	983	其他	1	29,254	254
亞硫	1,476	18,423	計	1	11,747	39
						11,747
						39

一四、工業

本縣は廣濶なる地積を擁し、海に陸に無盡藏の資源を有するに拘らず、工業の遅々として振はざるの憾あるは、全く僻陬の地多く、交通の利便乏しく、且つ工業智識の缺乏は資本の招來を疎外せるに基因するものと觀るべきであらう、今や電氣事業の普及と共に海陸交通の便亦漸く完からんとすれば、各種工業勃興の氣運に際會するの時機蓋し遠くはあるまい。

昭和五年に於ける工産物の生産高は二千百十九萬七千四百圓で、總生産額の三割に當り、前年に比し五百五十八萬五千七百七十二圓の減少を示して居るが、之は一般經濟界の不振の結果減退し、加ふるに市價亦振はざりしに基因するものの如く蓋し止むを得ざるところである。

工場

機金紡 械器 業具屬織	場數	職		計
		男	女	
	150	333	3,481	3,814
	10	597	13	610
		123		123
				123
				39

工業

種類	數量	價額	種類	數量	價額
窯業	一	一四四	漆器	四	一三九
化學製品	一	一八六	煉瓦、瓦、土管	二二	一四一
製材及木製品	一	一八六	製瓦、瓦、土管	四九	五七一
印刷及製本	一	一九	鐵製鍋釜鐵瓶類	一〇〇	二五〇
食料	一	一五	和肉製品及罐詰	一〇〇	二五〇
其他	一	一五	魚網	一〇〇	二五〇
計	三九五	三、四〇三	味噌	七五	二二〇
			其他	一三	七、二一六

四〇

工業產物

種類	數量	價額	種類	數量	價額
織物	五七、七二石	八九、五九一	漆器	—	—
酒類	二七、五三六	四、五九六、一五四	煉瓦、瓦、土管	—	—
醬油	八、七二七	五八五、八一〇	製瓦、瓦、土管	—	—
菓子及麵類	—	一八一、二二四	鐵製鍋釜鐵瓶類	—	—
木製品	—	一、四三三、二七三	和肉製品及罐詰	—	—
竹製品	—	一、二二六、九八〇	魚網	—	—
菓子製	—	九六、四一一	味噌	—	—
麵類	—	二一五、九四六	其他	—	—
菓子種類	—	一八三、五三五			
菓子種類	—	六〇六、三三八			
計	二二九、四〇七貫	六〇六、三三八			

一五、商業

本縣に於ける商業の發達は尙幼稚の域を脱しないが、之れ地勢東北の僻陬に位するのみならず、縣下至る處山嶽重疊起伏して、著しく交通運輸の便を阻碍せらるゝに基因するところ甚々多いのである、既定、豫定の鐵道が敷設せられたならば、自動車輸送の普及と相俟つて從來の障碍は一掃せられ、本縣商業界の黎明期を來すであらう。

昭和五年末商業戸數一萬七千五百八十四で此の中、專業として營むもの一萬三百五十四、本業七千二百三十戸で總戸數の一割一分に當つて居る。

昭和五年中に設立せられた會社は總數八十、内合名三、合資六三、株式一四で其の出資額又は公稱資本金總額は二百十五萬九百十七圓である。

商工會議所

名稱	所在地	設立年月	經費	議員	選舉權者	職員
盛岡商工會議所	盛岡市	大正一四・二	一四、〇〇〇	三〇	八三二	四

商業

四一

商業會社 附電燈 ※他縣にあるもの

電燈	業者	業別	組別		種別	社數	出資額又ハ 公稱資本金	積立金	純益金	配當金	純損金
			株式會社	合名會社							
※	經營者	工商運輸	計	計	株式會社	二四三	二四三	一、八七〇、二七二	一、五七一、七三四	一、二六三、二四九	六八、七三三
一三	數營	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
二	町村數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
二九	街燈數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
七、五〇二	點燈數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
一一九、一六九	戶數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
九五七、二二八	常時燈數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
八四、二九四	臨時燈數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
	電力需用者數	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九
	電力使用實馬力	業業業業	業	業	株式會社	二六三	二六三	四、七六五、七四七	一、五八三、八六三	一、一七九、五七〇	二一七、五四九

一六、勸業團體

産業獎勵を目的とする主なる団体は、商工會議所、農會、山林會、商工振興會、水産會、漁業組合、産馬畜産組合、養蠶組合、産業組合、蠶絲會、蠶種同業組合、鐵瓶同業組合、製絲同業組合、酒造組合、醬油醸造組合、杜氏組合、木材同業組合、木炭移出同業組合、製筵組合等であつて、盛岡商工會議所は大正十四年設立せられ、商業部、工業部、理財部、交通部の四部を設け、商工業の調査紹介及獎勵等の任に當り、地方開發の中堅たる産業組合は明治三十四年五月七日氣仙郡小友信用組合設立を嚆矢として、爾來極力勸奨に努めたる結果、逐年順調なる發達を辿り其の數二百四十一を數ふるに至り、縣郡市町村農會、其の他各種団体の發展と相俟つて、縣下産業經濟の發達に努力して居る。

各種組合

種別	團體數	種別	團體數
産業組合	二四一	水産會	一五
漁業組合	六四	市農會	一四
畜産組合	一五	郡農會	一
重要物産同業組合	一五	市町村農會	二三七
酒造組合	一	計	五八三

勸業團體

勸業團體
産業組合

四四

調査組合數	二四	組合員數	五〇、五四七	積立金	一、二四四、八二〇 円	販賣價額	一、八七二、五四三 円
出資額	一四四、四二九	出口數	二、四五二、七四六	借入金	二、四五二、七四六	購買價額	一、三四六、四二七
總額	二、七〇一、六五九 円	貯蓄金	五、六五三、九四八	貸付金	四、一六七、八五八	剩餘金	七八、五六八
拂込額	一、五九五、七八一 円						二四三、七五八

農業倉庫

經營主体	設置町村	棟數	坪數	入庫數量	出庫數量	年末現在數量
四〇	四五	六四	二、二八五	玄米 一、二七、八五三 石 精米 四〇 粳米 七九二	一〇四、三八二 石 四六 六七八	三六、二二三 石 三三

水利組合

組合數	二八	反別割地租割歲入歲費出土木費	三〇、一三三 円	八、四三八 円	四九、九四七 円	四九、九四七 円	〇 円
-----	----	----------------	----------	---------	----------	----------	-----

一七、産業指導統制

本縣産業經濟の行詰れる現況に鑑み、之が打開振興の途を圖らんがため、各市町村に適應する産業是の確立を促し、産業指導奨励の聯絡統制を計らんとし、昭和四年九月三日産業指導統制委員會規程を設け、委員會を組織し、廳内産業關係事務官、技術官及縣産業各種團體關係者三十一名を委員として囑託任命し、同委員會第一の事業たる市町村産業是の確立に就き指導督勵の結果、現在百三十四ヶ町村の確立を見、夫々其の市町村に適切なる方法に基き之が實行に努力して居る、蓋し産業是の確立は本縣産業開發上劃期的の施設であつて、之れが實行如何は市町村の經濟上將來大なる反響あるべきことを確信して居る。

而して産業是確立上第一の基調たるべき町村の現勢に付調査したる結果概要を示せば次の如くである。

委員會

會長	副會長	委員	事務長	書記	技手
一	一	三五	一	一	一

産業指導統制

四五

産業指導統制

生産額

(一五、七10、五10圓)

(調査町村數50)

四六

最高	最低	平均	一町村當	一戸當	一人當	町	村
三、三六五、六〇八 ^円	三、七、八六三	三、二四、二二〇		三、四〇六 ^円	二八〇	四六七 ^円	西磐井郡山目村
				五八二	八九		岩手郡藪川村

負債額

(六四、七七九、三四五圓)

(調査市町村數二八)

最高	最低	平均	一町村當	一戸當	一人當	町	村
二六、〇九八、七二五 ^円	七、一八四	五四八、九七七		二、三三七 ^円	四一九 ^円	一町村當	盛岡市
				二二	三	一戸當	同
				八二〇	一二九	一人當	同
						一町村當	山根村
						一戸當	山形村
						一人當	同

一八、交通運輸

北上、馬淵兩河川は最も重要な交通路を成し、中部平地に於ける交通はこの兩川に負ふ所頗る多く、東北本線は之に沿うて縦貫して居る、海岸地方は海岸道路と船舶とに依つて相互の交通に便益を得て居るが、背後に嶮峻なる山地を負うて居るので、全く中央部と隔絶の状態にあり、纔に南北の隣縣を通じて其の便を得て居つたが、今や中央、花巻、釜石間の輕便鐵道及八戸、久慈間並に好摩、花輪間の鐵道に依り交通の便開け又盛岡山田間、一關大船渡間の鐵道一部開通し引續き工事中なるを以て是等の聯絡に依り從來の交通運輸に一大變化を來すべく、又本縣と秋田縣を連接する鐵道は黒澤尻、横手線で尙は盛岡、大曲間の鐵道網成るに至らば自動車便の異狀なる發達と相俟つて四通八達の便を得、其の繁盛期して待つべきものあるを疑はない。

道路

國道	縣道	市道	町村道	計
一九一、一八一 ^米	二、〇七三、八二五 ^米	二七三、六四六 ^米	一六、六七七、八三三 ^米	一九、二六、四七四 ^米
自盛岡至東京 五三五・三 ^料	至仙臺 一八三・二 ^料	至青森 二〇四・七 ^料		

交通運輸

四七

鐵道、船舶及諸車

鐵道	延長	官設		私設		計
		輕便鐵道	電車軌道	輕便鐵道	電車軌道	
乘客及貨物	二九一・九軒	二六・八軒	二六・四軒	五、〇五八、五九九	六七四、七八三	四三〇、七二〇
電車	三二七、七三六	八八、六一五	三、〇三二	三二七、七三六	二四二、三五二	二四二、三五二
乘客	九三、五二〇	八八、六一五	三、〇三二	九三、五二〇	八八、六一五	三、〇三二
降客	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二
發送貨物	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二
到着貨物	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二	五、〇六七、〇七六	八八、六一五	三、〇三二

船舶	種類	艘數	總噸數
汽船	汽船	七〇七	一、二九八
帆船	帆船	七〇七	一〇、四八九
諸車	人力車	三三五	九〇
	自動	二八、三五七	九〇
	普通	一三	六
	乘積用	四、八二九	六
	荷積用	八、七二三	六
	乘積用	四〇四	六
	荷積用	二三〇	六

道	乘客及貨物	乘客	降客	發送貨物	到着貨物
鐵道	五、〇五八、五九九	九三、五二〇	五、〇六七、〇七六	六七四、七八三	四三〇、七二〇
輕便鐵道	三二七、七三六	八八、六一五	八八、六一五	二四二、三五二	二四二、三五二
電車	九三、五二〇	八八、六一五	八八、六一五	三、〇三二	三、〇三二

諸車	人力車	自動	普通	乘積用	荷積用
人力車	三三五	二八、三五七	一三	四、八二九	八、七二三
自動	九〇	二八、三五七	一三	四、八二九	八、七二三
普通	九〇	二八、三五七	一三	四、八二九	八、七二三
乘積用	六	四、八二九	一三	四、八二九	八、七二三
荷積用	六	四、八二九	一三	四、八二九	八、七二三

一九、金融

本縣の銀行は昭和三年前後に於て二、三合同を爲し、又岩手縣農工銀行は日本勸業銀行と合併に依り支店となりたる結果、昭和五年末現在に於て普通銀行四、貯蓄銀行一行となり同時に其の内容の充實、經營の基礎の確立を圖り其の堅實性を増加し、縣内及隣縣樞要の地には普く支店出張所を設け、金融の圓滑を圖り唯に本縣のみならず東北の産業經濟發展に大なる貢獻を爲してゐる。

尙ほ地方農村には概ね、信用組合普及せられ、其の數百四十三、其他無盡會社四、信託會社一、質屋七十二あり庶民金融機關として有力である。

銀行

商號	設立年月日	所在地	支店數	出張所數	資本	拂込高
盛岡貯蓄銀行	大正一〇、一、三	盛岡市紺屋町	四〇	二二	一、〇〇〇、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇
岩手銀行	明治四〇、七、七	盛岡市吳服町	三八	二二	六、六〇〇、〇〇〇	四、四〇五、〇〇〇
第八十八銀行	明治三九、七、二八	西磐井郡一關町	二二	二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四一五、〇〇〇
第九十銀行	明治三〇、四、三二	盛岡市吳服町	二二	二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、七六〇、〇〇〇
盛岡銀行	明治二九、四、一〇	盛岡市紺屋町	三八	二二	七、四五〇、〇〇〇	四、四五二、五〇〇
合計			一〇三	五八	三二、一九五、〇〇〇	一八、三三、五〇〇

無盡會社

商號	設立年月日	所在地	支店數	出張店數	代理店數	資本		營業區域
						公稱	拂込高	
盛岡無盡株式會社	大正八、六、一八	盛岡市八日町	二	二	三	100,000円	80,000円	岩手縣一圓
岩手無盡株式會社	大正九、一、二	盛岡市內丸	九	二	二	500,000円	175,000円	岩手縣一圓
水澤無盡株式會社	大正二、二、二七	膽澤郡水澤町	一	一	一	100,000円	50,000円	膽澤郡、江刺郡、西磐井郡、東磐井郡、和賀郡
水上無盡合資會社	大正九、二、二九	上閉伊郡遠野町	九	一	一	300,000円	300,000円	氣仙郡、上閉伊郡、下閉伊郡
合計			九	三	一七	730,000円	335,000円	

信託會社

商號	免許年月日	所在地	支店數	公稱資本	拂込高
盛岡信託株式會社	大正二四、三、三三	盛岡市紺屋町	一	2,000,000円	800,000円

質屋

質數	貸出		受戻		流質		年末現在	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
七二	九九、二七二	三六六、〇六八円	八三、〇九八	三三三、九二四円	八、八七九	五〇、七九一円	一一三、四五九	四一三、六四〇円

郵便爲替、貯金、振替貯金

昭和三十四年	郵便爲替		郵便貯金(年末現在)		郵便振替貯金	
	振出	拂戻	人員	金額	受入	拂渡
昭和四年	九、三五〇、六四三円	八、九七三、六九一円	三四五、六九三	九、〇七〇、六六〇円	六、八九六、〇八五円	二、六四、九一五円
昭和三年	九、五〇〇、四一三	九、〇四七、一〇五	三四八、九〇二	八、六五五、八七一	六、六二八、四一七	二、四六〇、九八二
昭和二年	九、六七九、一八八	七、五一四、一五三	三三一、四〇二	七、四四〇、八七九	六、六四〇、四九八	二、四五三、八八五

二〇、教育

本縣の教育は近時益々隆運に向ひ、官立實業專門學校一、私立醫學專門學校一、縣立師範學校二、公立の中學校六、實業學校十三、高等女學校十一、實科高等女學校四校を算し、尙中等教育機關擴張の機運に向つてゐる、實業補習學校は二百五十二校で殆ど全町村に洽く公立小學校四百五十校、又特殊教育機關として縣立盲啞學校あり、その他私立各種學校は其の數二十一にして、公立幼稚園は十四である。

小學校

校數	類別	公立		私立		本計	學級	尋常	高等	計	公立	私立	計	尋常	高等	計	公立	私立	計	
		本	分	本	分															本
計	尋常	一七一	四六	一七五	四六	二〇八	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常
	尋常高等	二七二	二〇八	二七四	二〇八	二〇八	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常	尋常
	高等	一	一	一	一	一	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等	高等
計	計	四四四	二五四	四五〇	二五四	二五四	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

兒童數	類別	教員數				類別	別立公	尋常	高等	計	尋常	高等	計	尋常	高等	計	尋常	高等	計	
		本科正	專科正	准用	代用															男
計	公立	私	公	私	公	私	公	一、四九二	八〇八	二、二八二	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇
		公	私	公	私	公	私	一、四九二	八〇八	二、二八二	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇
計	公立	私	公	私	公	私	公	一、四九二	八〇八	二、二八二	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇
		公	私	公	私	公	私	一、四九二	八〇八	二、二八二	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇	四四〇	四四〇	五八〇
計	計	七三、一四一	一、〇四四	七四、一八五	七〇、二九七	一、〇三五	七一、三三二	一四、三三七	三六	一四、四二三	七、七二〇	一六	七、七二七	八七、五二八	一、〇〇〇	八八、六〇八	七八、〇〇七	一、〇五一	七九、〇五八	

郡市名	就學		不就學		計		男女各百中就學步合	
	男	女	男	女	男	女	男	女
盛岡	四、五四五	四、五六二	一一	二七	四、五六六	四、五六九	九九·七六	九九·八五
岩手	七、六四八	七、三二四	二七	二九	七、六七五	七、三四三	九九·六五	九九·六一
紫波	四、二六六	四、〇四〇	一七	二八	四、二八三	四、〇六八	九九·六〇	九九·三一
稗貫	五、〇九〇	四、八九九	二一	一九	五、一一一	四、九一八	九九·五九	九九·六一
和賀	六、七二七	六、四七九	一三	二〇	六、七四〇	六、四九九	九九·八一	九九·六九
膽澤	六、二七七	六、〇五六	五	八	六、二八二	六、〇六四	九九·九二	九九·八七
江刺	四、〇三三	三、九六〇	一一	六	四、〇三四	三、九六六	九九·七三	九九·八五
西磐井	四、九五九	四、八九二	二〇	二一	四、九五九	四、九一三	九九·六〇	九九·五七
東磐井	七、二二四	七、〇三三	二二	一九	七、二四七	七、〇五四	九九·六八	九九·七三
氣仙	五、九五七	五、八〇八	二二	二九	五、九七九	五、八三七	九九·六三	九九·五〇
上閉伊	七、一七八	六、八七九	二六	四〇	七、一五四	六、九一九	九九·六四	九九·四二
下閉伊	八、三六〇	七、八一六	四四	三三	八、四〇四	七、八四九	九九·四八	九九·五八
九戸	六、八二二	六、三四〇	七八	六八	六、九〇〇	六、四〇八	九九·八七	九九·九四
二戸	五、五〇八	五、〇五三	一七	一九	五、五二五	五、〇七二	九九·六九	九九·六三
計	八四、五三四	八一、一三一	三三五	三四六	八四、八六九	八一、四七七	九九·六一	九九·五八

實業補習學校

學科	學校	學級	教員		生徒		入學者		卒業者	
			男	女	男	女	男	女	男	女
農業	二二三	三八六	八二四	二七七	五、五六七	四、三四四	三、六三八	二、八四四	一、九五五	一、六九三
商業	八	一七	四一	一三	二三二	三三〇	一五二	二四四	八三	一五四
水産	七	一六	三六	八	二五三	一五四	一七七	九〇	一二八	五九
農業・商業	四	一二	三〇	一	二二九	一一九	七六	六九	四一	五九
農業・水産	二	二	一〇	一	五〇	二九	二五	一	八	一
農業・工業	一	一	四	一	三五	一	二五	一	三	一
農業・裁縫	六	一五	一九	一三	一三七	三四一	八一	二六六	五一	二一六
商業・水産	一	二	六	一	三四	一	二九	一	一七	一
計	二五二	四五一	九七〇	三二二	六、五三七	五、三〇七	四、二〇三	三、五一三	二、二八六	二、〇八一

官公立諸學校

種別	設立區別	校數	教員數	學生數	徒入學者	卒業者
高等農林學校	官立	一	一	三三	三九一	一四六
醫學專門學校	私立	一	二七	四三九	一四九	一
師範學校	縣立	二	四八	七二五	二六一	二六〇
中學	同	五	一三〇	二、八九五	六七三	四五七
高等女學校	同	九	一三二	二、七三九	七八六	七〇四
農學	同	六	七七	一、一七三	四三三	三六七
工業學校	同	一	二四	二二七	八二	七二
水產學校	同	一	一七	一五七	四五	三八
商業學校	同	一	一九	四七六	一〇三	八一
盲啞學校	同	一	一三	七九	二〇	一六
實科高等女學校	町立	四	三	三七六	一七一	一三四

幼稚園

設立區別	園數	保姆	幼兒	
			男	女
商業學校	同	一	一一	一四六
中學	私立	一	一九	四七三
商業學校	同	一	一四	八七
高等女學校	同	二	二四	四九四
女子商業學校	同	一	一三	一五二
女子職業學校	同	一	一一	一二〇
各種學校	同	二	三六	一、〇八五
計			四七一	四〇八
公立			五〇	三九
私立			四二一	三六九
計			四六	四〇八
			八七九	七九〇
			八九	八七九

教員在職年數

年 數 別	市町村立小學校	師範學校	中學校	高等女學校	實業學校	盲啞學校
五年未滿	△ 一、五五八	三三	五七	八一	五一	六
五年以上	△ 九四	一五	二九	三一	二六	四
十年以上	△ 七一九	二	四	五	一三	一
十五年以上	△ 二〇	二	五	四	一〇	一
二十年以上	△ 二七七	一	二	一	四	一
二十五年以上	△ 一五三	一	一	一	一	一
三十年以上	△ 一六	一	一	一	一	一
計	△ 三、一六〇 一三三	五三	九七	一一四	一〇五	一〇

△印は實業補習學校専任教員なり
市町村立小學校は正教員其他の學校は有資格者のみの調査なり

公 學 費

	縣 費	市 費	町 村 費	計	一戸當 負擔額	一人當 負擔額
昭和四年度	一、四六九、九四三 円	三七九、〇八〇 円	三、四三七、六七五 円	五、二八六、六九八 円	三四・五三 円	五・五八 円
昭和三年度	一、二七二、七八二	四七〇、三三四	三、八一〇、〇〇七	五、五五三、一三三	三六・六八	五・九三
昭和二年度	一、二六四、六三四	三〇三、〇一一	三、六九五、〇〇〇	五、二六二、六四五	三五・二二	五・六九
昭和元年度	一、二八四、四五〇	一九三、八三〇	三、四六四、七八七	四、九四三、〇六七	三三・二六	五・四二
大正十五年度	一、三四四、四三七	二〇五、五八七	三、一三一、六八九	四、六八一、九二〇	三三・五五	五・二〇

公學資産及收入

(昭和四年度)

類 別	縣	市	町 村	計
公學收入	五三三、二三五 円	四九、五八九 円	一、四八九、四〇三 円	二、〇六一、二六六 円
公學資産	四、七〇二、七六一	一、二四四、九二三	一〇、三三九、七七二	一六、一七七、四五五

二一、社會教育

本縣立圖書館は大正十年十月十四日の創立で、之れを機會に管下町村に對し公立圖書館の設立を慫慂したが、大正十三年 今上陛下の御成婚を記念とし、多數の設置を見ることゝなつた、爾來其の數を増し尙縣下各圖書館を以て岩手縣圖書館協會を組織し、各圖書館の聯絡研究に努めてゐる。

男女青年團は各市町村に設置され、之を包括して郡市男子及女子聯合青年團を組織し、更に各郡市聯合青年團を以て縣聯合青年團を組織し又少年團體も逐年其の數を増加するの趨向である。

青年訓練所は大正十五年四月、青年訓練所令の發布せらるゝと共に極力之が設置を獎勵したので縣下各市町村普く設置を見るに至つた、又鑛山、農場或は各種學校に對し、之が設置を慫慂した結果、鑛山地に私立青年訓練所を設置したるもの二、青年訓練所規程第六條に依り認可したるもの三、同規程第八條に依り認可したるもの二を見ることゝなつた。

成人教育機關として大正十五年以來縣下數箇所には縣及文部省主催の下に成人教育講座を開設

したが、遂年良好の成績を収めてゐる。

映畫教育機關として映寫機一臺、フィルム二十四種、五十七卷を備へ地方の求めに應じ巡回映畫會を開催し、各地共良好の成績を収めつゝある。

公衆体育獎勵の目的を以て体育運動主事を設置し、斯導の指導助成に努めつゝある。岩手縣佛教會は思想善導民風の作興に盡瘁し、岩手縣教化團體聯合會は教化運動を起し、其の實行に努むると共に郡市町村教化網の完成に努めてゐる。

圖書館

種別	館數	圖書冊數	閱覽人員
縣立	一	二六、三四〇	四三、九〇八
町村立	一八四	七三、一〇三	一〇九、八七一
私立	二三	四三、五三九	三二、五八二
計	二〇八	一四二、九八二	一八三、三八一

青年訓練所

種別	訓練所	主事	指導員		生徒	年度內 修了者	經費
			在鄉軍人	其他			
市立	一	一	三五	二	五四三	六五	四、一五四
町立	三〇九	三〇九	一、〇一四	三九	一、二七八	一、八四七	七八、〇四三
私立	二	二	八	五	二二	六	一、五九一
計	三二三	三二二	一、〇五七	四六	一、八五四	二二、九八七	八三、七八七

男子青年團

總數	團內	市	町	村	其他	團長種別		正團員	內	二十才以上	二十才未滿	正團員 年齡範圍	經費	資產
						團員	外團員							
縣二八二	一五	七	二七	二二	二	五	二二〇	四二、七二六	一九、一三〇	二二、五九六	二一—二五	二一—二五	四四、八四六	八四、六六七
郡二七三	一三	—	二七	二二	—	五	二二二	四二、一〇〇	一八、八六六	二二、三四四	二一—二五	二一—二五	—	—
市・九	二	七	—	—	—	九	九	七二六	二六四	五五二	一六—二五	—	—	

女子青年團

總數	團內	市	町	村	其他	團長種別		正團員	內	二十才以上	二十才未滿	正團員 年齡範圍	經費	資產
						團員	外團員							
縣三〇九	一五	七	二六	二六	〇	九	三〇〇	二九、八四二	九、八六七	一九、九七五	二一—二五	二一—二五	—	—
郡三〇〇	一三	—	二六	二六	—	九	二九一	二九、三四七	九、五八九	一九、七五八	二一—二五	二一、九三二	—	—
市・九	二	七	—	—	—	九	九	四九五	二七八	二二七	一三—二五	—	—	

男女少年團

團	加	盟	赤十字	其他	計	正團員	正團員外	資	產	經	費
三三	三六七	二七	四〇六	五九、九二二	一、三八四	二、八〇二	三、二八五				

社會事業

二二、社會事業

社會狀態の比較的平穩なる本縣は、從來商工業の盛んなる都市を中心としての施設多かつたが、近來農村社會事業の唱導せらるゝに伴ひ、兒童保護施設の一として托兒所の開設を見、或は赤十字社支部の巡回診療班の活動の如き、或は住宅組合の設立、公益質屋の増設等本縣社會事業は、逐年發展し社會事業協會の如きも既に設立の機運に到達し、著しく其の歩を進めつゝあるので近く實現の運に到るであらう。

養育院及感化院

名稱	設立の區別	職員數	收容		計	經費
			男	女		
岩手養育院 (私立)財團法人	個人經營	三	一八	一〇	二八	四、二五三
岩手養老院	個人經營	二	三	一三	一五	八六一
社陵學園 (縣立)感化院	法人	三	一〇	一三	一三	四、三二四
岩手保護院	法人	五	一五	一	一六	一、七一九
			院內 一六	院外 一五		

赤十字及愛國婦人會

赤十字社	愛國婦人會	佩有功章及特別終身正(通常)		贊助	計	年釀金
		數	金額			
一、二〇八	二、〇一四	一三、七五一	一七、二九〇	二六	三二、四二七	一七、九〇四
				二六	一九、四三〇	七、八六五

住宅組合

組合數	組合員	貸付金額	建築戸數
四八	四九三	五九〇、〇〇〇	四九三

褒賞

(警察褒賞を除く)

紺綬褒賞拜授者 褒狀を賜ひし者 金員を賜ひし者 計	德行公益		寄附	
	數	金額	數	金額
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
計	一	一	一	一

社會事業

二、三、兵 事

昭和五年度縣内に於ける壯丁受檢成績は、受檢總數八千四百六人中、甲種合格三割五分乙種三割五分、丙種二割一分、丁種五分で、トラホーム患者は百人中一〇・八七、花柳病は〇・八〇六である。

又海軍志願兵は受檢者五百四十一名で、中合格者百八十名受檢者百に付三三・八三で、志願者は前年に比して百四十九名の増加である。

衛 戍 諸 隊

騎兵旅團司令部
騎兵聯隊

一 工兵大隊
二 聯隊區司令部

一 憲兵分院
一 衛戍病院

一

在 郷 軍 人 會

分 會		員		經 費	
聯合町村	將校	准士官	下士兵	卒	輔充兵
計	計	計	計	計	計
一四	二四五	四一九	一六	九二六	二、五四九
					三、四二六
					四五、四二六
					六九、四二四

壯 丁

體 格	種 別	教 育 程 度					衛 生 狀 態	檢 査 人 員	軍 志 願 兵
		甲種	乙種	丙種	丁種	計			
人員	種 別	大學卒業程度	高等學校卒業程度	中學校卒業程度	高等小學校卒業程度	尋常小學校卒業程度	壯丁	志願(受檢)	
甲種	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	患	合格	
乙種	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	者	採用	
丙種	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	他	付合格者	
丁種	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	付	受檢者百に	
計	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	柳病	付合格者	
計	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	付	三三・三	
計	種 別	第一種	第二種	第三種	第四種	第五種	付	八、四〇六	

二四、社寺教會

本縣内に於ける寺院は五百八十一、之が住職五百人で曹洞宗が最も多い、又教會及講義所は三十四、布教者三十二名で之が信徒數は二千五百三十六人、中ハリストス正教會約半數を占めてゐる。

社寺及教會

教務所及説教所は六十六を數へ天理教は右の中約七割に當つて居る。

神		社		寺		院		教		會		教務所及説教所	
種別	數	種別	數	種別	數	種別	數	種別	數	種別	數	種別	數
國幣小社	一〇一	曹洞宗	三一	ハリストス正教	一六	天理教	三	天正派	五六	天正派	一	天正派	一
縣社	一〇	眞言宗	七二	眞言宗	四九	眞言宗	三	眞言宗	一	眞言宗	二	眞言宗	二
郷社	三三	眞言宗	二	眞言宗	七	眞言宗	二	眞言宗	二	眞言宗	三	眞言宗	三
村社	三〇	眞言宗	六	眞言宗	一一	眞言宗	四	眞言宗	一	眞言宗	一	眞言宗	一
無格社	四〇	眞言宗	六	眞言宗	七	眞言宗	二	眞言宗	一	眞言宗	一	眞言宗	一
計	五〇九	眞言宗	九二	眞言宗	二五	眞言宗	一	眞言宗	三	眞言宗	一	眞言宗	一
右の内神	九九一	臨濟宗	一一	臨濟宗	八	臨濟宗	一	臨濟宗	二	臨濟宗	一	臨濟宗	一
餼幣帛料	二二	日蓮宗	一〇	日蓮宗	九	日蓮宗	一	日蓮宗	一	日蓮宗	一	日蓮宗	一
供進神社	二二	計	五七一	計	一〇〇	計	三	計	六六	計	一	計	一

二五、保健衛生

本縣の昭和五年末現在醫師は四百七十人、人口二千二百八人に對し一人に當り、齒科醫師は百六人で人口九千三百三十三人に對し一人の割合となつて居り、其の他産婆五百五十八人、藥劑師六十五人、獸醫二百三十人、看護婦二百三十七人を算するけれども、全然醫師を存せざる町村九十、産婆のない町村數七十六を算し、加ふるに交通不便なので衛生施設に遺憾の點尠くない、幸にして私立醫學專門學校の設立せられたるを以て追々普及を見るに到るであらう。

保健衛生

病院		普通		傳染		娼妓		產婆		藥業		隔離病舎	
關係者	醫師	醫師	藥劑師	獸醫	看護婦	看護婦	藥業者	藥業者	藥業者	藥業者	藥業者	藥業者	藥業者
赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二
腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二	腸室扶斯	二五二
巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二	巴拉チフス	二五二
赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二	赤痢	二五二
病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二
傳染病者	二五二	傳染病者	二五二	傳染病者	二五二	傳染病者	二五二	傳染病者	二五二	傳染病者	二五二	傳染病者	二五二
死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二
病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二	病名	二五二
患者	二五二	患者	二五二	患者	二五二	患者	二五二	患者	二五二	患者	二五二	患者	二五二
死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二	死亡者	二五二

二八、財政

本縣昭和五年度歳入總額は六百五十一萬七千七百八十四圓で、其の主なるものは縣稅二百七十五萬三千九十圓（歳入總額の四割二分）雜收入八十二萬二千二百八十六圓（同上一割二分）で又歳出總額は六百二十八萬三千九百二十圓で、此の中土木費二割七分、教育費は一割九分を、次は勸業費一割二分を占めてゐる。

尙市町村の歳入總額は昭和四年度に於て九百七十九萬六千二百八十五圓で、此の内四割五分七厘は稅收入に依る、又歳出は九百七萬四千五百九十六圓で、教育費大部を占め、三割九分六厘に當り、次は役所、役場費の一割七分が主なるものである、一市町村平均三萬八千二百九十一圓一戸平均は六十三圓三十三錢に當る。

昭和四年度諸稅負擔の狀況を觀ると、一戸平均國稅十三圓六十九錢、縣稅十七圓八十一錢、市町村稅二十七圓九十八錢、總額五十九圓四十八錢である、又一人當りは國稅二圓二十三錢、縣稅二圓九十錢、市町村稅四圓五十五錢、計九圓六十八錢に當る。

資産及負債

類別	縣有財產			市町村債		目的別金額
	市	町	村	市	町村	
土地	一五、七七七、五四二 <small>坪</small>			電氣事業費		五、四五三、九九八
建物	三三、八四一 <small>坪</small>			土木費		二、三一七、〇〇〇
船舶				教育費		二、六四、九四四
金員	二、一九四、四五五 <small>圓</small>			社會費		五、二九、三一
其他				勸業費		二、六五、〇〇〇
其他				其他		三、七八、八〇〇
計	二〇、六四六、一九三 <small>圓</small>	六、一三〇、四九一 <small>圓</small>	三、九五三、九五四 <small>圓</small>	計		七、一二三、七五三
土地	一〇八、一七五 <small>圓</small>	九、三〇〇	九八一、四七五 <small>圓</small>	市債		三、二二、〇八九 <small>圓</small>
建物	一四八、四八〇	二二一、六五五	九、八二〇	町債		八二六、九七五
立債	一三〇、六四八	六一、六一五	二七五	土害		八七、六七九
國債	二四一、五三五	一、二八六、〇〇二	九八〇	災害		一〇六、二二〇
債券	二、三五三、七〇六	三〇、五九二	二七五	水道		二九、三九四
現金	三、七九三	一、〇九二	九八〇	衛生		六九、八九二
其他			三〇、五九二	社會		七〇四、三四四
計	二三、六三二、五三〇	一一、六五三、〇一七	一、〇二四、二三四	勸業		八五五、三三八
計				計		二、九八一、九三一

郡市名	國稅(直接稅)		縣稅		市町村稅		諸稅總額	
	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當
盛岡	五六三、一四七	四九・〇四	三三一、〇三一	二七・〇八	四〇七、〇九九	三五・四五	一、二八一、二七七	三一・五七
岩手	一六二、二六四	一二・四八	二五八、八九四	一九・九一	三六二、四九四	二七・八八	七八三、六五二	六〇・二七
紫波	一二八、五五五	一七・五九	二二七、〇三五	二九・六九	二四七、六七九	三三・八九	五九三、二六九	八一・一七
稗貫	二〇六、〇六九	二〇・六六	二六五、四一三	二六・六一	二八六、二二二	二八・六九	七五七、六九四	七五・九五
和賀	一九九、〇九五	一六・二三	二二三、七〇一	一九・〇六	三二八、九六二	四・四三	七六一、七五八	六二・一二
膽澤	一五九、〇三五	一三・五八	二三二、五五五	一九・八六	三四六、九七四	二九・六四	七三八、五六四	六三・〇九
江刺	九五、八七一	一二・一〇	一五八、六七六	三・三〇	二七〇、五六八	三四・一四	五二五、一一五	一〇・九三
西磐井	一二六、八一八	一三・三七	一九八、七七一	三・三四	二八六、九五四	三〇・二六	六一二、五四三	一〇・三〇

郡市名	國稅(直接稅)		縣稅		市町村稅		諸稅總額	
	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當
東磐井	一三八、八六五	一〇・〇八	二三二、七九七	一六・九〇	三五四、七三〇	二五・七五	七二六、三九二	五二・七二
氣仙	六七、二三七	六・三六	一二六、六七七	一一・九九	三〇二、四六二	二八・六三	四九六、三七六	四六・九九
上閉伊	一一六、一二四	七・九五	一九六、一四七	一三・四二	三八八、五四二	二六・五九	七〇〇、八一三	四七・九六
下閉伊	八二、八九四	五・五一	一七八、六六三	一一・八九	三四〇、三四六	二二・六四	六〇一、九〇三	四〇・〇四
九戸	五九、四四三	四・八七	一一一、〇一六	九・九一	二九八、三〇九	二四・四四	四七八、七六八	三九・二二
二戸	六七、五二二	七・一九	九五、〇三三	一・五九	二二〇、三一六	三・九一	三八二、八六一	六・二八
計	二、一七二、九三九	一三・六九	二、八二六、三九九	一〇・一一	四、四四一、六四七	二七・九八	九、四四〇、九八五	五九・四八
昭和三年度	二、一九三、九六八	一四・四九	二、七七一、五〇八	一八・二〇	四、六〇三、四九〇	三〇・四〇	九、五六八、九六五	六三・一九
二年度	二、一五四、一七二	一四・四二	二、四九八、六一九	一六・七二	四、二九一、五一一	二八・七二	八、九四四、三〇二	五九・八六
元年度	二、三五三、四九一	一五・八八	三、〇三八、〇六四	二〇・五〇	四、六二二、七二六	三一・二〇	一〇、〇一五、二八一	六七・五八
大正十四年度	二、七〇八、一〇九	一八・八三	二、七四〇、六三一	一九・〇五	四、五一〇、〇〇〇	三一・三六	六、九五九、五一七	六一・二四

各税と諸税總額の一戸及一人當の税額符合せざるは四捨五入せるに因る

國稅		縣稅		市町村稅	
稅目	稅額	稅目	稅額	稅目	稅額
直接國稅	九四四、二四六	國稅附加稅	一、〇一一、二一五	國稅附加稅	四九八、一五〇
所得稅	八二七、二四九	地稅	一七六、五五九	地稅	一八四、二二一
地稅	三三五、四九七	營業收益稅	二五三、四七七	營業收益稅	一、八二八
營業收益稅	八五、九四七	砂鑛區稅	一、九八七	砂鑛區稅	六八四、二〇二
鑛業稅	二、一七二、九三九	砂鑛區稅	一、四四三、二四六	砂鑛區稅	
計	二、六四四、八四三	計	二、一五五、四八八	計	一、〇〇三、八〇八
間接國稅	二、六四四、八四三	特別地稅	二一五、五四八	特別地稅	五六七、〇三〇
酒稅	一五〇、一〇六	雜種稅	四六九、二五五	雜種稅	八二、〇六八
相續稅	九七、四九四	營業稅	五九九、八四〇	營業稅	二四八、八四四
其他稅	二、八九二、四四三	營業稅	九八、五〇〇	營業稅	二、七七、五六四
計	五、〇六五、三八二	計	一、三八三、一五三	計	一、〇〇三、八〇八
合		合		合	
計	二、八二六、三九九	計	二、八二六、三九九	計	四、四七三、八五一
夫役現品		夫役現品		夫役現品	一六、一九六

縣稅納稅成績

(昭和四年度)

郡市名	賦課額	納付額	納期後滯納額	滯納後徵報額	缺損額	翌年度繰越額	納付期內合計
盛岡	三一九、六三〇	一二六、〇二九	一三九、九四九	四五、〇五三	二八	八、五七一	三九、四三
岩波	二六三、三五〇	一九三、九二〇	四三、三九一	二一、五八二	一一	四、四五四	七三、六四
紫波	二一八、六六三	一七九、七二一	二五、三〇〇	一一、九七九	七五	一、六六二	八二、一九
稗賀	二六九、四五八	一九一、八六九	六二、七七七	一〇、七六五	八三	四、〇二二	七一、一九
和賀	二三七、二〇七	一六九、四四六	四六、九七三	一七、二八三	八八	三、四二二	七七、三三
膽澤	二二三、九六〇	一八〇、一四〇	二九、七五一	二二、六六三	八八	三、三八	七七、八三
江刺	一五九、一六五	一二七、〇六七	二五、八〇五	七、八〇四	八八	四、〇〇一	七九、八三
西江	二〇二、四八八	一七九、七八二	四五、八三一	二七、五四三	八八	三、七四四	六一、九一
東磐	二三六、一七九	一二五、三七〇	二二、一九五	二〇、七八五	六六	三、四一七	七六、一二
氣仙	一三〇、〇一三	八〇、六八四	二〇、〇五八	一九、六〇五	五六	三、四五四	六二、〇六
上伊	二二一、五〇四	一七、四六五	五九、〇五八	一、九八一	五六	二五、三二〇	五三、〇三
下伊	二〇四、三四三	七六、二八〇	七一、二九二	三〇、九九四	四六	二五、七四一	三七、三二
閉伊	一二九、一六五	八五、六一一	一八、八七二	一六、五三三	四六	八、一四九	六六、二八
閉戸	一〇三、三二八	四三、九三〇	三五、四三七	一五、六五六	四六	八、三〇五	四二、五二
計	二、九二七、四九三	一、八七七、三〇四	六五四、六八九	二九四、〇五六	四五四	一〇〇、九九〇	六四、一三

市町村稅納稅成績 (昭和四年度)

郡市名	調定額	納期後の收入			未納納期内
		納期内	年度内	四月中	
盛岡	四一八、三九五	一四二、一八三	二二六、五三六	二六、三四九	七、六九八
岩手	三九六、二七二	二三一、八四一	一〇五、一六五	七、〇二七	三三、三九三
紫波	二五三、七一五	一八二、二三九	五五、三六九	三、四六〇	五、九六二
稗貫	三〇〇、四〇八	一七八、八六五	八一、一九八	九、七五九	一三、八五五
和賀	三三九、九三八	二〇五、五二九	九六、三四六	七、八二四	一〇、五四三
膽澤	三五七、八一四	二七五、八八八	五九、一〇九	四、三四七	一〇、六七五
江刺	二七五、三三五	一八六、七五八	七二、一三八	五、〇〇二	四、四四六
西磐井	三〇〇、〇〇二	一六八、五八四	九〇、一〇九	一三、八九二	一三、三九八
東磐井	三七〇、二六一	二七三、九八八	六六、〇七七	五、九八四	一五、四三五
氣仙沼	三一八、三三七	一五七、七〇二	一〇六、四三七	一一、七二五	一五、七七〇
上伊伊	四四一、九四九	二〇四、二〇四	一六二、三五五	一〇、四六九	五三、〇一九
下伊伊	四五九、八八三	二二四、三八一	一七八、四二七	一〇、八四五	一一、五二二
九戸	三二四、三五〇	二〇三、五五〇	七二、三六六	七、一二七	二五、六二九
二戸	二四八、七九九	一二〇、八六三	七〇、一九五	一〇、四八九	二八、一七七
計	四、八〇五、四五八	二、六五六、五七五	一、四三九、八二三	一三五、二九九	三五六、五二二

縣歲入

部時臨	部常經	昭和五年度			昭和四年度			昭和三年度		
		繰越金	附助金	庫補助金	繰越金	附助金	庫補助金	繰越金	附助金	庫補助金
繰越金	縣稅	四四、八〇三	二、七五三、〇九〇	二、八二六、三九九	五八、九六四	二、七七一、五〇七	二四九、〇〇九	二、七七一、五〇七	二四九、〇〇九	二、七七一、五〇七
附助金	縣雜收入	一、七四四、七〇〇	八二二、二八六	八六九、二七九	五〇〇、〇〇〇	六九八、八二〇	九四九、〇〇〇	六九八、八二〇	九四九、〇〇〇	六九八、八二〇
庫補助金	國庫下渡	三三九、九一八	八六、一〇〇	九四、五〇〇	九八、九〇九	一一九、四二五	一六四、一〇八	三三九、九一八	一一九、四二五	一六四、一〇八
市町村補助金	國庫收入	五七四、五一〇	六〇、六一九	二五、八四八	二一三、三四八	二二、二七七	二一五、九八五	五七四、五一〇	二二、二七七	二一五、九八五
市町村補助金	其他收入	一二九、四八〇	二六、八六四	二六、四一〇	一三一、六八八	一六、一九四	三四八、三七六	一二九、四八〇	一六、一九四	三四八、三七六
合計	合計	七、二八〇	三、七四八、九五九	三、八四二、四三六	九四、七〇九	三、六二九、二二三	四六、三〇四	七、二八〇	三、六二九、二二三	四六、三〇四
其他金	其他收入	八二、一七二	二、七六八、八二五	二、八二六、三九九	七二、一八〇	二、七七一、五〇七	一六四、九二二	八二、一七二	二、七七一、五〇七	一六四、九二二
財產運拂	財產運拂	五二、九〇〇	二、七六八、八二五	二、七六八、八二五	一一〇、〇〇〇	二、七六八、八二五	一一〇、〇〇〇	五二、九〇〇	二、七六八、八二五	一一〇、〇〇〇
財產運拂	財產運拂	二、七六八、八二五	二、七六八、八二五	二、七六八、八二五	三、五〇〇	二、七六八、八二五	三、五〇〇	二、七六八、八二五	二、七六八、八二五	三、五〇〇
其他金	其他收入	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	一、二八二、九二七	六、五一七、七八四	一、二八二、九二七	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	一、二八二、九二七
合計	合計	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四	六、五一七、七八四

經常部											昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度
計	其他	縣職員費	衛生及病院費	會議費	縣稅取扱費	修繕廳舍費	警察廳費	公會費	土木費	警察費	勸業費	教育費	
二、七二二、二八八	九九、一八六	一七〇、三三六	三〇、五〇五	二二、三一一	六六、三三七	八、八九四	九、五七九	三二二、八〇八	五四〇、二二〇	五七三、五七一	八六七、五四一	八六六、六四八	
二、七五八、八七八	六〇、三三三	一八三、九二九	三四、二七四	四三、二七一	六五、五八二	九、三九二	一〇、四〇二	三三〇、五二五	五四六、六二〇	六〇七、九〇二	八六六、六四八	八六〇、九六七	
三、〇五一、三四四	七四、二五〇	一五四、二八八	四八、四〇四	五〇、六八七	七二、八七七	二二、七五三	一一、一六五	四五三、九六四	六七八、五六八	六二三、四二二	八六〇、九六七	六三三、四二二	

縣歲出

臨時部												昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度
合	計	其他	市町衛生補助費	勸業補助費	災害補助費	教育補助費	恩給補助費	小學校教員額	土木年度支出額	土木業費	勸業年度支出額	教育年度支出額	縣教育費本年度支出額	
六、二八三、九二〇	三、五七一、六三三	六〇〇、三五四	一五、〇二六	七六、四四七	一、〇〇六、七五四	三三、九六八	二八八、六六七	七一、〇六八	二六五、九二六	一五、四一七	四九、八五二	一九、〇八九	一、二八、六〇五	
六、〇八〇、五六〇	二、三三一、六八二	五六七、二二六	一六、一〇一	七六、三六七	八、八三七	三七、一〇一	二四五、八七七	一一六、七五二	一〇四、七五三	一八、九三九	六一、四四〇	二四九、五〇四	七九六、八六一	
六、三〇七、〇八〇	三、二五五、七三六	八八八、五三七	三三、五七七	七三、〇四九	三八九、九三四	二九、五六六	二二四、一七一	一四四、〇七八	一六六、九三二	二三五、三三三	四七、四二二	三一、二九三	八八四、二〇四	

財政

市町村歳入

	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
市町村税	四、四七三、一八八	四、六〇四、一九二	四、二九一、五一
前年度繰越金	九七二、一八八	一、一四八、九〇四	八六八、四〇七
市町村債	七三七、九八二	七八四、一〇〇	一、一四五、三〇三
雑収	四六六、一六七	四九三、九一八	四三三、八三七
財産より生ずる収入	三五四、六九五	四二三、一四五	四三七、五七三
繰入	四一二、七一二	六二七、四七七	五一七、九八九
寄附金	一四三、四五五	二二二、六七九	三〇二、二二六
國庫下渡金	一、三三五、六七七	一、三三四、五一六	一、二五三、六九四
補助金	一二六、九九四	二二三、一九九	五二八、〇六二
使用料及手数料	二七四、六五五	二九四、二五四	二六九、六三四
交付金	一五八、一五八	一三六、七六三	二六九、六三四
財産賣拂	九一、六六二	七二、七九四	一四一、一五
其他	二一八、〇八九	一一二、五三七	一一八、八九六
計	九、七九六、二八五	一〇、四六八、五七八	九一、八二二

市町村歳出

	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
教育費	三、七七五、五七五	三、九一四、七四四	三、九〇七、七一
役場及役所	一、五四九、四四九	一、六五八、二七一	一、五六四、四〇七
諸木及造	二〇、三五五	二一六、七四〇	三三、〇一八
土本財産	四九一、五九九	九二二、一五一	一、〇〇二、一一九
基附金	五四四、四五五	四六八、七二一	五〇四、二七二
公債	一三四、七九五	二二九、九六二	二〇六、九三〇
社会事業	九〇三、六八八	三五七、七八五	三五八、七三五
衛生事業	一六六、二二六	五七、二二五	一一、六二〇
警備費	二二二、六九七	一九五、一三七	三四二、四〇九
補助費	一五八、二七四	二一〇、五三八	一九七、三八〇
會議費	九二、八〇三	一一七、一〇〇	一一二、三二五
勸業費	六一、二四〇	六〇、七一二	六〇、七〇五
電氣事業	九二、四九一	七三、九八五	六九、七一〇
雑支	七〇、六六四	八一、二五三	六九、九一六
其他	三〇一、六七九	二〇六、〇六五	二五〇、九〇三
計	九、〇七四、五六九	七二、八五八	五六一、四〇四
市町村平均	三八、二九一	四〇、〇五三	三八、八三五
市町村平均	四八八、六〇七	六一、四九	六一、四二

財政

附 録

岩手の案内

國 寶

刀

(傳國長作)

伯爵南部利淳寄進

盛岡市縣社櫻山神社
盛岡驛より十五町(自動車)

毘沙門天立像 (附二鬼坐像)

毘沙門天丈一丈三尺五分、
二鬼像三尺餘、嘉祥三年四
月三日慈覺大師の開基運慶
の作である。

和賀郡十二箇村毘沙門堂
土澤驛より一里(自動車)

吉祥天立像

丈五尺七寸七分右同斷

同

毘沙門天立像

丈三尺三寸七分

和賀郡立花村毘沙門堂
黒澤尻驛より約十五町(自動
車)

二天王立像

二天王立像二軀、丈五尺三
寸及五尺一寸

同

須彌壇

木製黒塗佛具紋螺鈿入八角
にして徑六尺

西磐井郡平泉村中尊寺經藏
平泉驛より十六町(自動車)

一切經及箱

傳藤原清衡、基衡、秀衡所
藏、紺紙金泥、金銀泥、黃
紙宋版

同

國 寶

國寶

中尊寺建立供養願文

北畠顯家卿書

同

天蓋

木製黒塗金箔圓形寶華唐草模様

同金色堂

幡頭

銅製 (三枚)

同

華鬘

銅鍍金天人毛彫 (六枚)

同

經案

木製塗器剝落 (貳基)

同

磬架

木製黒塗螺鈿入 (壹基)

同

最勝王經十界寶塔曼荼羅

紺紙金描濃彩 (十幀)

同中尊寺山内大長壽院

螺鈿卓

同

禮盤

同

螺鈿燭臺

同

一字金輪佛坐像

法橋定朝作、傳藤原秀衡朝臣護持佛、丈二尺五寸四分

同中尊寺

大日如來坐像

丈一尺八寸四分

同瑠璃光院

木造阿彌陀如來坐像

同中尊寺

木造磬架
附銅磬孔雀文様一面

孔雀文様 建長二年正月日 施入の銘あり

同大長壽院

銅磬

同地藏院

千手觀音立像

同觀音院

木造大日如來坐像

同金剛院

木造藥師如來坐像

同中尊寺

木造藥師如來坐像

同平泉村闕伽堂

國寶

國寶建造物

聖・觀音立像

傳行基作

四

十一面觀音立像

傳慈覺大師作

木造阿彌陀如來坐像

二戸郡淨法寺村天合寺
一戸・福岡各驛より約四里
(自動車)
同
稗貫郡花卷町勝行院
花卷驛(自動車)

國寶建造物

金色堂本堂

金色堂覆堂

經藏

内陳中境方七尺三寸四本柱研
出蒔繪十二光佛桁梁高欄等花
紋螺鈿入金堂内外皆金色、天
仁二年藤原清衡朝臣建立
正應元年惟康親王建立
天仁元年藤原清衡朝臣建立
建武四年野火の災に罹り二
階建の上層を焼き再建せら
れたものである

西磐井郡平泉村
平泉驛より十六町(自動車)
同
同

史蹟名勝天然記念物

史蹟
越寺趾
(附鎮守社趾)

大正十一年十月内務大臣指
定

西磐井郡平泉村
平泉驛より五町(自動車)

同
無量光院址

同

同

同
膽澤城址

同

膽澤郡佐倉河村
金ヶ崎驛より(自動車)

名勝
鼻溪

大正十四年十月内務大臣指
定

東磐井郡長坂村、松川村
陸中松川驛より三町(自動車)

名勝及天然記念物
巖美溪

昭和二年九月内務大臣指定

西磐井郡巖美村
一關驛より二里(自動車)

天然記念物
盛岡石割櫻

大正十二年三月内務大臣指
定

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町(自動車)

史蹟名勝天然記念物

五

史蹟名勝天然記念物

同	しだれかつら	池野三次郎宅地内、大正十三年十二月内務大臣指定	盛岡市志家盛岡驛より約十七町(自動車)
同		菊池第三宅地内、大正十三年十二月内務大臣指定	岩手郡中野村盛岡驛より二十町(自動車)
同		大正十三年十二月内務大臣指定	紫波郡乙部村盛岡驛より約三里
同	栗自生地	昭和二年四月内務大臣指定	和賀郡小山田村小山田驛より約一里
同	早池峯山高山植物帯	昭和三年二月内務大臣指定	稗貫郡内川目村石鳥谷驛より六里
同	岩手山高山植物帯	同	岩手郡瀧澤村瀧澤驛より三里
史蹟	下船渡貝塚	大正十四年七月岩手縣知事假指定	氣仙郡大船渡村遠野驛及氣仙沼驛より(自動車)
同	蛸ノ浦貝塚	同	同赤崎村
同	中澤濱貝塚	同	同廣田村

同	關谷洞窟	同	同日頃市村
同	今松堅穴居住址	大正十五年二月岩手縣知事假指定	岩手郡一方井村沼宮内驛より約一里
同	仙波堤堅穴居住址	同	同御堂村沼宮内驛より約五町(自動車)
同	夷森古墳	昭和三年十二月岩手縣知事假指定	紫波郡徳田村矢幅驛より十八町
同	經塚の碑	同	下閉伊郡山口村平津戸驛より(自動車)
天然記念物	勝源院の逆櫓	昭和四年十二月文部大臣指定	紫波郡日詰町日詰驛より約三十町(自動車)
同	銀杏岡の公孫樹	昭和六年二月同	和賀郡十二鎗村晴山驛より約五町
同	長泉寺の大公孫樹	同	同九戸郡久慈町久慈驛より約二十町(自動車)

史蹟名勝天然記念物

名勝舊蹟

岩手公園

盛岡市(中央)
盛岡驛より十五町(自動車)

往時不來方城又は福土館と稱したが、慶長以後盛岡城と唱へ南部氏代々の居城であつた、明治五年陸軍省用地となり、同二十二年南部氏拂下を受け、同三十三年櫻山神社を奉祀し、同三十六年城址を改修して公園となすの計を立て、同三十九年成る面積一萬五千坪市の中央に位してゐる。

石割櫻

同(盛岡地方裁判所前庭)
同十五町(自動車)

老櫻一株、花崗石の中心を劈いて挺出してゐる、樹の高さ丈餘、其根廻り五尺餘、石の高さ七、八尺、長さ二丈餘、幅八、九尺ある。

見馴松

同(餌差小路菊地邸内)
同二十二町(自動車)

明治九年御巡幸の時餌差小路、菊地邸に駕を駐め給ふこと三日、後十四年復同邸を以て行在所に定め給ひ、園中の古松殊に叡慮に適ひ名を「見馴松」と賜はつた、十七年火災に罹り十九年御苑の稚松下賜植が繼しめられたものである。

厨川柵址

盛岡市
盛岡驛より一里(自動車)

永承以來、康平五年滅亡に至るまで安倍氏の據りたる所、里人今に之を安倍館と稱してゐる、實に安倍貞任決戦の地であつて、後年藤原泰衡の隠伏したと傳へられる著名の柵址である、附近に八幡森、方八町等の遺跡がある。

葛根田玄武洞及鳥越瀑布

岩手郡西山村(葛根田川北岸)
雫石驛より二里

玄武岩重疊峙立して洞窟を形成して居る、洞内高さ五六尋、幅凡三十間、奥行約八間、頗る壯觀である。

志波城址

紫波郡古館村
日詰驛より一里(自動車)

志波城は後に比爪館(一名樋爪館)と稱し、延暦二十二年志波城使左近衛中将坂上田村麿が築いて、夷賊の來寇に備へし所であると言ふ。

勝源院の榿樹

紫波郡日詰町
日詰驛より約三十町(自動車)

樹齡約千年地上より四肢に分れ、最も太きもの周圍十五尺高さ三十尺、四條の大幹數多の幹枝を生じ四方を蔽ふこと枝毎に凡六十尺に達してゐる。

名勝舊蹟

名勝舊蹟

啄木の碑

岩手郡澁民村
好摩驛より約二十町

近代の民衆詩人石川啄木の歌碑である、岩手、姫神の二峰指呼の裡にあつて、啄木が郷に在りし時好んで逍遙せる地である、楊柳新緑の候風景最も佳、故人の作品に收められて居る。

高松池

盛岡市上田
盛岡驛より約二十町(自動車)

周圍里餘繞らすに遊歩道を以てし、櫻樹を並植し四周の翠巒と相映ず、岩手姫神の二峰影を映し四時市民優遊の地である、池畔の神庭山には日露役の志士横川省三氏の銅像がある。

和賀展勝地

和賀郡立花村
黒澤尻驛より約十五町(自動車)

黒澤尻町の東部立花村一帯の丘陵で、北上川に沿ひ男山、國見山、珊瑚岳等の丘陵起伏し之に登れば四方の眺望甚だ雄大附近の名山皆指呼の間に在る櫻樹を駢植して四民遊園地となつて居る。

花巻城址

稗貫郡花巻町
花巻驛より五町(自動車)

古は鳥谷崎と稱し、安倍頼時の本據地であつたが、建久の頃より稗貫爲重此に居り數十世相繼ぎ、天正年中に至り關白秀吉より領地を沒收せられた。

水澤公園

膽澤郡水澤町
水澤驛より十町(自動車)

明治十年有志相謀り珍花奇木を植ゑたが、更に明治三十三年五月東宮御慶事記念として其の規模を擴張した、園中同町出身なる後藤新平伯の銅像及贈正四位高野長英の碑がある。

緯度觀測所

膽澤郡水澤町
水澤驛より十五町(自動車)

明治三十九年九月文部省の創設に係り、西曆一千九百九十八年萬國測地學總會に於て選定したる地球上四觀測所中の一であつて、東徑百四十一度七分三十秒北緯三十九度八分三秒六乃至七の位置に在る。

衣川柵址

膽澤郡衣川村(衣川橋上流約六町)
前澤驛より約一里

往時安倍頼時同貞任の居城である、貞任が義家と應答し「年を経し糸の亂れの苦しさに」と詠じたるは即ち此所であると言はれてる。

平泉館址

西磐井郡平泉村(中尊寺東南)
平泉驛より六町(自動車)

清衡、基衡の居りし所は柳御所、秀衡の居りし所は伽羅御所(或ば喜樂館)又は御所屋敷と稱した。

名勝舊蹟

名勝舊蹟

判官館址

西磐井郡平泉村(高館)
平泉驛より六町(自動車)

源義經逃れて秀衡の許に來り投じたる時の居館として有名である、義經堂には義經の像を安置し、天和三年の建立であるが、寶曆に至り白旗神社と改められた。

衣關址

同
平泉驛より二十二町(自動車)

中尊寺と高館との間に關神社あり、此の北麓は即ち關址であると云ふ。

琵琶柵址

同 (中尊寺北西十町衣川沿岸)
同 二十八町(自動車)

貞任の庶兄成道の據つた所で、秀衡の三男泉三郎忠衡亦此に居つた、因て泉ヶ城とも云うてゐる。

達谷窟

同 (達谷)
約一里(自動車)

延暦二十年坂上田村麿朝命に依り東夷征討の際、高丸惡路王等の賊徒を殲滅し、平賊祈願の報賽として山城國鞍馬寺に模し、九間四面の堂を建て慈覺大師作百八軀の多聞天を安置した。

伊達吉村誕生地

東磐井郡大原町
摺澤驛より約二里(自動車)

仙臺藩五代中興の英主伊達吉村の誕生地で、大原町俗稱御産屋址と言つて居る、附近に八幡神社、御手植櫻、琵琶石等の遺跡がある。

布佐窟

東磐井郡門崎村
門崎驛より北十八町

石灰洞で奥行約二百間其間種々の景勝あり、昔石覺禪師座禪の場と稱されてゐる、附近に最明寺あり、古刹にして最明寺入道時頼巡錫の際寺號を與へたと言はれてゐる。

王子陵

氣仙郡盛町(愛宕山)
遠野驛より約十里(自動車)

推古天皇丁巳五年寶野臣尾張皇子に隨ひ奉りて陸奥に降り、後寶野信家に至り佐倉里(現在の愛宕山)に社殿を建立し繁宮と稱して尾張皇子の神靈を鎮祭し奉りたる所と傳へらる明治三十年此の地中より長三尺六寸、根基一尺餘、上部八寸表面に「王子陵」と刻せる古碑を發見した。

東禪寺址

上閉伊附馬牛村
遠野驛より約二里九町

建武中無盡和尚の開基で、南部家領内由緒のある有名道場である、近世は田祿百石を有し、現今盛岡北部なる東禪寺の舊所在地である、其の遺址猶存在し無盡和尚の墓がある。

不動巖

上閉伊郡小友村
鱒澤驛より三十町

名勝舊蹟

名勝舊蹟

巖龍神社の後にあり地上百八十尺巍然として空に聳え其の岩根に泉池あり、池中に嶋あり不動尊を祀る、巖面に上り龍と稱して龍の如き形状あると見る、老松繁茂し四季の風景共に絶佳である。

湧

窟

下閉伊郡岩泉町
岩泉町より約二十町

全山奇岩を以て成れる海拔二千六十二尺の宇靈羅山麓にある一大洞窟で、四時清水を湧出してる、洞内に水流幅三尺乃至十二三尺、水深三十尺穴の高さ五十尺に達する所あり、小舟を以て通航する約百間、其の奥は未だ究めたるものがない、此の附近十餘ヶ所に先住民族の遺蹟として見るべき洞窟十餘ヶ所ある。

經

塚の碑

下閉伊郡山口村
宮古町の北西約四町

永和二年紀州の人僧雲公が五部大經の經文を一字一石に書し、之を埋め一基の碑を建てたと云ふ、高さ八尺五寸、幅五尺餘、四言四句の銘を刻し雄渾なる書である。

野

田の玉川

九戸郡野田村
久慈驛より約三里

日本六玉川の一として古來有名の歌枕にして河底往々恰も壁の様な圓石を出す、河口北丘陵の上に西行屋敷と稱し、西行の杖を駐めて近傍の風光を賞せし地なりと傳へられてゐる

十

府ノ浦

同

中沼の海濱一帯を云ふ、其の中に一の古沼がある、多く菅を生じてゐる。古來菅薦を産するを以て著名である。

長

泉寺銀杏樹

九戸郡久慈町
久慈驛より二十町(自動車)

周圍四十九尺高さ百尺、其齡千年餘を経たものと云ふ、此の樹に巨大なる乳房狀の塊瘤數個あり、其の皮を剥ぎ取り乳量を有せざるものに煎じ飲ましむれば効ありと稱せられてゐる。

末

の松山

二戸郡浪打村(舊國道)
福岡驛より一里

是れ亦有名の歌枕で、第三紀層水成岩より成り、岩石中海産貝類の化石を存する、人口に膾炙する古歌「波こさぬ」云々は實に此の地を詠みたるものである。

鳥

越觀世音

同(鳥越山)
一戸驛より二十七町

鳥越山上峨々たる絶壁の中央に洞窟あり、洞中に觀世音堂を建つ、山中の紅葉絶景なるを以て筈を曳くものが多い。

不

動瀧

二戸郡荒澤村
荒屋新町驛より約一里

名勝舊蹟

神社佛閣

櫻松神社背後の山中にあり、直下數十尺瀧の中段に不動尊を祀る、紅葉の名所である。

神社佛閣

縣社 櫻山神社

盛岡市(岩手公園東畔)
盛岡驛より十五町(自動車)

盛岡藩祖南部三郎光行及中興の祖、南部大膳太夫信直、利直及利敬の四侯を合祀する、例祭五月二十五、六の兩日。

縣社 八幡宮

同 八幡町
盛岡驛より二十五町(自動車)

元盛岡城内三社の一であつたが、延寶七年南部行信今の八幡山に建設せしもので、譽田別尊を祀る、例祭九月十四日より三日間。

招魂社

同 (縣社八幡宮傍)
盛岡驛より二十五町(自動車)

社畔には戊申の役の勤王家目時隆之進、中島源三の碑及西南戦没者の碑がある、四月廿日

五月一日兩日官祭執行。

御堂觀世音

岩手郡御堂村
沼宮内驛より三里

嵯峨天皇の大同二年春將軍、坂上田村麿の創立に係り、本尊は十一面觀世音で僧了慶の開基である、天台宗に屬し比叡山延曆寺の末寺である。

報恩寺五百羅漢

盛岡市(米内字關口)
盛岡驛より二十町(自動車)

寺は貞治年中通山長徹和尚の開基にかゝり、もと南部守行之を三戸城下に建てしが慶長六年現在の地域に移した、維新の際國老檜山佐渡自双せしは此寺で境内に七間四面の堂宇ありて大佛師駒野丹下の傑作五百羅漢像を安置してゐる。

大慈寺

盛岡市東中野
盛岡驛より十八町(自動車)

黄檗宗にてもと小刹であつたが、元首相原敬夫妻埋骨の地として忽ち全國に其名を知られ、墓前香華絶ゆることがない。

陣ヶ岡蜂神社

紫波郡日詰町
日詰驛より約一里(自動車)

源頼義安倍貞任征討の時、陣營を布きたる地なりと傳へらる。

縣社志賀理和氣神社

紫波郡赤石村(櫻町)
日詰驛より約五町(自動車)

神社佛閣

神社佛閣

延喜式神名帳に載する所で猿田彦命を祭る。

縣社志和稻荷神社

紫波郡水分村(升澤) 日詰驛より二里十八町(自動車)

稻倉魂命を祭る、天喜五年源頼義安倍頼時を伐ち、陣ヶ岡に滞在中の建立で、後頼朝再建せりと傳へられてゐる。

太田清水觀音

稗貫郡太田村(清水寺) 花巻驛より二里(自動車)

本邦三清水の一と稱せられ大同二年坂上田村麿の建立で、本尊はもと閻浮檀金三寸三分の十一面觀世音である、弘法大師作の木佛中に安置せられたのである、縁日六月二十六、七日及七月九、十日。

丹内山神社

和賀郡谷内村(谷内) 晴山驛より二十町

元仁、桓武の朝征夷大將軍坂上田村麿東夷征討の際、此祠に祈り、賊を平げたる後更に社殿を建つ、又康平五年、源頼義安倍貞任征討の時、八幡、加茂の兩宮を建て、後鎮守府將軍藤原清衡崇敬し、祀田二十四町を寄進し百八の堂を建てた、と傳へられてゐる。

成島の毘沙門天

同十二箇村(北成島) 土澤驛より一里(自動車)

毘沙門天木像は身長二丈、吉承天女木像は身長六尺、何れも運慶の作と稱せられてゐる、大正十年國寶に編入せらる、毘沙門堂は嘉承三年三月慈覺大師の草創と傳へられる。

立花毘沙門堂

和賀郡立花村 黒澤尻驛より十五丁(自動車)

縁起によれば仁明天皇嘉祥三年慈覺大師の開基で助國山萬福寺と號し天台宗であつたが、慶安年中和賀兵亂の際焼失し今は毘沙門堂のみ存して居る、本尊毘沙門天は慈覺大師の作二天王は法橋定朝の作である殊に二天王は製作が優れて居り古像の遺品に乏しい東北地方に於ける藤原期の造像として注目される、何れも昭和四年四月國寶に指定された。

國幣小社駒形神社

膽澤郡水澤町 水澤驛より十町(自動車)

祭神は天照皇大神或は豊受大神又一説に大己貴命の御子御井神なりとも云ふ、明治四年國幣小社に列せらる、祭日九月十九日。

佐倉河宇佐八幡宮

膽澤郡佐倉河村 同約一里(自動車)

延暦二十年征夷大將軍坂上田村麿の勸請せしもので譽田別尊、雅日靈尊、素盞男尊を祭るとも云ふ、後社殿焼失し天正十九年正月關白秀吉淺野長政に命じ修理せしむ、寛文二年伊達氏亦修補し地方有数の古社である。

正法寺

江刺郡黒石村 水澤驛より約二里

佛殿の本尊は觀世音で春日の作釋迦文珠、普賢の像は當麻の作、彌陀の像は安阿彌の作と稱せられてある、貞和四年能州總持寺二代峨山禪師第一高足無底良詔昭尙の開山で當時の領主長部清秀の開基である。

神社佛閣

神社 佛閣

黒石寺

江刺郡黒石村
水澤驛より約二里

天台宗にして天平元年釋行基の創建延暦中兵火に罹り、藤原利仁勅を奉じ、大同年中東下し工人を飛彈に徴し本堂を新造した、嘉祥中慈覺大師手づから十二神將四天王の像を刻し堂宇四十八の僧房を營み一時隆盛なりしも元龜、天正の際兵火に罹り今僅かに藥師堂を有するのみである。

中尊寺

西磐井郡平泉村
平泉驛より十六町(自動車)

境内東西十七町三十間、南北十三町、本山に仁明天皇の嘉祥三年慈覺大師の開基で清和天皇貞觀元年勅して中尊寺の號を賜はる、堀河帝の時勅命ありて藤原清衡經營し、天仁二年に至りて堂塔四十餘字僧坊三百餘宇成る、建武四年野火延焼し堂宇烏有に歸し金色堂、經藏僅かに災を免る。

金色堂 同

天仁二年藤原清衡建立、中央壇上には佛像十一軀を安置し左右の壇上亦同じ、定朝及運慶の作である、藤原氏三代の棺を納め、又秀衡の棺側には其子泉三郎忠衡の首桶ありと云ふ本堂は七百十餘年を経、古色蒼然たり、覆堂は正應元年惟康親王の建立である、本堂は明治三十年十二月、覆堂は大正六年四月國寶建造物に指定された。

經藏 同

天仁元年清衡の建立するところ元二階建なりしが、建武四年の火災に上層焼失し、其の殘る所に修理を加へたるものである、堂中八架を設け三代寄進する所の一切經を藏む。此外辨財天堂、寶藏大日堂等當時を偲ぶべきもの多く、山中到る處遺址に富み尋訪に違なく明治四十一年四月國寶建造物に指定された。

毛越寺

西磐井郡平泉村
平泉驛より約五町(自動車)

嘉祥三年慈覺大師の開基で其作の藥師如來を本尊としてゐる、藤原清衡若干の寺領を寄進し經營相繼いで秀衡に至り、堂塔四十餘字禪房五百餘宇全く具はり、峻塔高樓四海の診寶を以つてしたるが、天龜天正の頃に至り兵燹にかゝりて烏有に歸したるも大泉の池等今尙ほ址を留むるもの多い。

傳草神社

東磐井郡舞川村
一關驛より約二里十五町

祭神は稻倉魂命、伊弉冉命にして延喜式内の古社である、仁壽二年從五位下を授けらる此の地は古來奥州刀工の發祥地と推稱されてゐる。

縣社 室根山神社

東磐井郡折壁村(下折壁)
折壁驛より約一里

上古東夷平定の爲め鎮守府を置いた所である、養老二年紀州熊野の神を遷奉し、正和二年

神社 佛閣

神社佛閣

に至り熊野三所を本宮、新宮、瀧宮の三所に勧請した。

普門寺

氣仙郡米崎村
脇の澤港より二十町(自動車)

仁治二年京師建仁寺開祖明庵の子記外の開くところと言はれて居る、境内清浄にして世塵を絶した名刹である。

鍋倉神社

上閉伊郡遠野町(元遠野城)
遠野驛より三町(自動車)

延元殉難僧正五位南部師行を祭り、政長、信光、政光等を配祀しある。

尾崎神社

上閉伊郡釜石町
釜石驛より二里(自動車)

上閉伊郡第一の古社で昔鎮西八郎爲朝、伊豆大島に流されし時妻を娶り男子四人を得、第三子を爲頼と云ひ島の冠者と稱したが、源頼朝に閉伊郡の東部に封ぜられ承久二年六月卒した、而して諸臣相謀りて此の廟を建てしものと言はれてゐる。

横山八幡宮

下閉伊郡宮古町
平津戸驛より約十三里(自動車)

古社にして其の別當は猿丸太夫の末なりと傳へらる。

黒森神社

下閉伊郡山口村
宮古町より約十五町

俗傳には和銅年間の創建で、元明帝の御時建立、速須佐雄命、大己貴人命、稻田姫を祭るとも云ふ、近來長慶天皇の御陵墓として問題となつてゐる。

天台寺

二戸郡浄法寺村(御山久保)
一戸、福岡各驛より約四里(自動車)

神龜五年、聖武天皇の勅願により僧行基の開基する所で、大同二年田村磨堂宇を再建し、元中九年中南部守行修理し、明暦三年南部重直更に修造し、萬治元年十二月工成る、本尊聖觀世音の立像は行基の作と稱せられ國寶に列せられた。

山岳と温泉

姫神山(鈴蘭)

岩手郡
好摩驛より約二里

濫民、玉山、卷堀の三村に誇り標高四千九百尺、花崗岩より成るを以て他の諸山と特異の形相を具へ、遠望すれば略ぼ三角形を成し、山姿頗る優秀岩手三名山の一であつて鈴蘭を産するを以て世に聞えてゐる。

山岳と温泉

山岳と温泉

岩手山

岩手郡瀧澤村
瀧澤驛より三里

一名を南部富士又は奥の片富士と云ふ、海拔六千八百三十一尺、貞享三年三月（二百數十年前）噴火し被害甚しく翌年三月又鳴動し、其後享保年間及び文政中にも噴烟鳴動があつた、噴火口の周圍二十六町餘、縣社岩手山神社の本社は口内に安置せられ大巳貴命、稻倉魂命、日本武尊を祀る、例祭陰曆五月二十五日

早池峰山

稗貫郡、上閉伊郡、下閉伊郡
石鳥谷驛より約六里

早池峰山は三郡に誇り、海拔六千五百八十七尺、山上に縣社早池峰神社あり、大同二年大職冠鎌足の後裔藤原實房の子兵部卿成房建立する所である、祭日陰曆八月一日

蓬萊山

江刺郡田原村、東磐井郡猿澤村
水澤驛より六里

北上山脈に屬し海拔七百八十七米突、山中立岩には蓬萊神社を祀り、大岩には旭岩神社を祀る、全山巉巖駢立して躑躅及紅葉の候最も美觀である。

東稻山

東磐井郡長島村
平泉驛より約一里（自動車）

駒形峰とも謂ひ、平泉と相對してゐる、往時安倍頼時櫻樹一萬株を吉野山より移植し満山花で埋つたと傳へられてゐる。

花巻温泉スキー場

稗貫郡湯本村
花巻温泉より五町

面積約三萬六千坪、五度乃至三十度の緩急斜面に恵まれ、殊に夜間の練習も出來得る様照明装置を施し、休憩所及シャントツエの設けがある、平均積雪量三尺五寸位で十二月末から三月初旬迄滑れる。

高倉山スキー場

稗貫郡湯口村
鉛温泉より一町

登山向のスキー場で三萬坪の廣さにして六十度の傾斜を爲し雪は硬く平均積雪五尺位、十二月下旬より三月末迄滑れる。

奥中山スキー場

二戸郡小島谷村
奥中山驛より三町

約四萬五千坪で上半部は二十五度下半部は二十度位の傾斜で競技場にも適して居る、粉雪に近い軟雪で平均三尺位の積雪、十二月中旬から三月中旬頃迄滑れる。

區界スキー場

下閉伊郡門馬村
區界驛より五町

登山向で約四十萬坪二十度から三十度位の傾斜にて技術を練るに適して居る、硬い粉雪で平均四尺位、滑れる期間は十二月上旬から三月下旬迄。

山岳と温泉

山岳と温泉

田山スキー場

二戸郡田山村
田山驛より約十町

第一スキー場は海拔四百四十二米餘の高所より二十五度乃至四十五度の傾斜緩急斜面に恵まれ一望の下にハキコロコースの競技に適す、第二スキー場は海拔五百五十五米の高所より二十五度乃至五十度の傾斜をして一周十八キロコースの競技に好適で第一、二共最も雄大なスキー場である、雪は粉雪で平均五尺以上、十二月下旬より四月中旬迄滑れる。

山口スキー場

和賀郡岩崎村
横川目驛より二十町

大小の丘陵緩急長短のスロープが幾つもある、練習に競技に恰好な場所である、総面積三萬坪斜面は二十五度乃至四十度位、變化の多いのは此のスキー場の特長で、休憩所の設備あり、臨時に女子青年團經營の賣店も出来る、粉雪で平均五尺位、十二月下旬より三月中旬迄滑れる。

花卷温泉

稗貫郡湯本村
花卷驛より七軒四(電車)

温泉電車により省線の發着毎に連絡してある、泉量豊富、無色透明なる鹽類泉で慢性癩麻質私、婦人病、神經諸病、胃腸病、皮膚病等に特効ありと云ふ、旅館、自炊寮、貸別荘、講演場、運動場、遊戯場、スキー場、ゴルフ場等の設備完全で優に一千人を收容するに足る。

臺温泉

稗貫郡湯本村
花卷温泉遊園地より西十町(自動車)

花卷温泉遊園地に接近し自然の形勝に富んで居る、嘉慶元年の發見で源泉十數箇所、鹽類泉で脚氣、中風、痔疾、疝氣等に効驗がある。

志戸平温泉

稗貫郡湯口村
花卷驛より(電車)

發見の年代不詳なるも、一説に延暦年間坂上田村麿蝦夷征討の際流失に中りて惱み、此の温泉に浴し、創傷癒えたるより里人其奇効を稱して温泉場としたと云はれてゐる、創痕、皮膚病に卓効がある。

大澤温泉

稗貫郡湯口村
花卷驛より(電車)

寛永三年の改築で豊澤川溪谷に介在したる青山白水幽邃閑雅の仙境である、六百の浴客を容るゝに足る。

鉛温泉

稗貫郡湯口村
花卷驛より(電車)

寶曆年間の發見であつて天明八年に至り浴場を設立す、一年間の浴客實に六萬と稱せられて居る、泉質及醫治効能略々志戸平大澤等と同じである。

西鉛温泉

稗貫郡湯口村
花卷驛より(電車)

明治二十二年の發見であつて同二十四年二月工を起し崖腹を削り、河原を埋めて浴室を建築す、溪間広く空氣の爽かなると水流の清きとは他の浴場に勝り好避暑地である。

山岳と温泉

山岳と温泉

繫 温 泉

岩手郡御所村 小岩井驛より一里九町(自動車)

承平三年の発見と傳へられてゐる、曾て源義家安倍貞任を追撃して此處に至り、乗馬を繫留して沐浴したるより此の名ありと言はれてゐる、泉質硫黄であつて、温度七十七度疥癬諸瘡に効がある。

鶯 宿 温 泉

岩手郡御所村 雫石驛より二里

幽僻の山間に在り、點々する旅舎の前に清流浚々として流れ、淨蛙閣々晝夜に亘りて鳴く、眞に世塵を脱して仙境である、打撲、切傷及中風症に効ありと云はれてゐる。

國 見 温 泉

岩手郡明神村 橋場驛より約三里

駒ヶ嶽山麓風光絶佳の地にあり、特に痔疾、花柳病、諸療に効顯がある。

網 張 温 泉

岩手郡西山村 雫石驛より二里十八町

網張より湧出する鍍泉を引下げ浴場を建設す、泉源は和銅年間の発見にして帝釋温泉とも稱してゐる、風景絶佳纖塵動かず仙境の概がある。

瀧 の 上 温 泉

岩手郡西山村 雫石驛より約二里半

葛根田川の上流にあり、旅舎未だ完全ならざるも春夏秋冬の候、入浴するもの多く、疝氣、

皮膚病に特效ありと云ふ。

湯 本 温 泉

和賀郡湯田村 川尻驛より一里(自動車)

萬治二年の発見であつて塩類泉である、胃腸病、神経病に効がある、和賀川の清流に臨み紅葉の風光特に絶佳である。

湯 田 温 泉

和賀郡湯田村 川尻驛より一里

四圍峰巒を繞らしたる仙境で夏季浴客多く、疝氣瘡癬等に特效がある。

須 川 温 泉

西磐井郡嚴美村 一關驛より八里

標高凡そ五千三百尺、有名なる二重式層狀火山たる須川嶽の上にある、神経病、痲質斯、胃腸病、呼吸器病、黄疽等に特效がある。一關驛より途中迄自動車の便がある。

眞 湯 温 泉

西磐井郡嚴美村 一關驛より約六里

西嶽山中にあり、佳景に富み神経痛、胃腸病等に効ありと云はれて居る。

嶽 温 泉

和賀郡岩崎村 藤根驛又は横川目驛 (夏油温泉) ゲトウ

山岳と温泉

海濱と河川

夏油川水源地にあり、溫度攝氏五十九度乃至四十五度、單純溫泉にして寄生蟲に依る貧血症、白血病及關節痠痛私斯等に効あり、大湯等五ツに分る。

湯田ラヂウム温泉

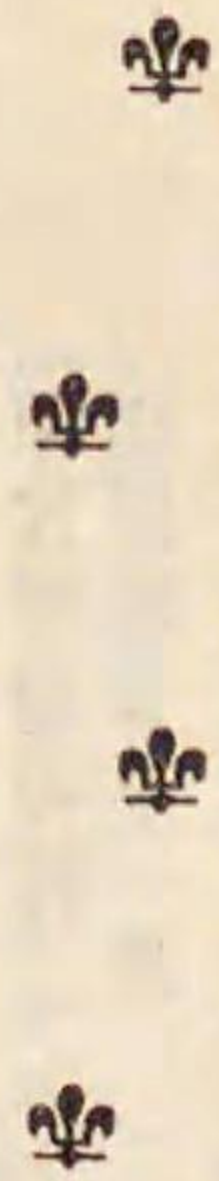
二戸郡金田一村
金田一驛より十五町(自動車)

寛文十年の發見に係り鹽類泉であつて「ラヂウム」を含有し、神經諸病及婦人病に効ありと云はれてゐる。

安比温泉

二戸郡荒澤村
赤坂田驛より三里十町

海拔九百米の高地、安比川の水源地にして山嶽四周を繞り夏知らぬ避暑地、秋は紅葉によく冬は雄大なるスロープに恵まれ、胃腸病、リウマチス、神經痛、婦人病等に効くと云はれて居る。



海濱と河川

嚴美溪

西磐井郡嚴美村
一關驛より約二里(自動車)

磐井川の上流に在り、川は源を須川岳より發し諸溪流を聚めて東走し嚴美に至り、山峽忽

狢鼻溪

東磐井郡長坂村
陸中松川驛より三十町(自動車)

ち蹙り一の飛泉をなす。即ち、嚴美の瀧にして下流數町の間、怪岩奇石磊々として奔流白雪を散らし碧潭飛沫を呑む、實に本邦屈指の奇勝である。

砂鐵川の河岸にあり兩岸は絶壁にして恰も屏風を併立するが如く、高さ數十丈、長さ十餘町に亘り其の斷岩は皆石灰岩より成る、其の奇觀匹儔稀なるものである。

久慈川溪流

九戸郡大川目村
久慈驛より約一里

久慈、葛卷間約五里、行くとくとして景勝ならざるはない、青山碧水の塵外境である。

高田松原

氣仙郡高田町
氣仙沼驛より約四里(自動車・船)

高田町南方海岸東西數十町、寛文年間に植栽せられし老松鬱蒼繁茂し、前は白砂波に洗はれ後は沼湖影を映ず、四時の景勝地なるが殊に海水浴場として名高い。

椿島

氣仙郡廣田村
氣仙沼驛より約七里(自動車・船)

全島花崗岩より成り長徑九十間、短徑三十間、高さ五丈餘、椿樹最も多く玉椿、接骨木、虎杖、羊蹄、蓬等之に亞ぐ、春夏の候、海鷗産卵の爲に集り天日爲に昏い、島上辨財天の小祠がある。

海濱と河川

海濱と河川

碁石濱

氣仙郡末崎村
氣仙沼驛より約七里二十町(自動車・船)
太平洋に突出し奇岩怪石千態萬狀、黒杉之を蔽ひ白濤之を洗ふ、往時天然の碁石を産し、
仙臺藩主に猷じたると云ふ景勝の地である。

蛇ヶ崎

氣仙郡小友村
氣仙沼驛より約六里(自動車・船)
東端なる海岸の岬である、附近に古城址神社等の名勝が多い、四邊眺望絶佳只出濱は海水
浴場として好適である。

浄土ヶ濱

下閉伊郡宮古町
鉾ヶ崎灣内

崔嵬たる岩石前後に突出し風光明媚の地で、しかも海面平靜なる海水浴場がある、之に接
したる海岸に日出島蛸の濱あり、春夏の候遊杖するもの頗る多い。

江戸ヶ濱海水浴場

九戸郡種市村
種市驛より五町

遠淺で海水浴に適し久慈線の全通により世に知られ、逐年浴客の増加を見てゐる。



官公衙學校

岩手縣廳

盛岡市内丸

盛岡驛より十五町(自動車)

支廳

下閉伊(宮古)九戸(久慈)

財務出張所

盛岡、花巻、水澤、一關、遠野、二戸

土木管區

盛岡、花巻、一關、遠野、宮古、久慈、二戸

蠶業取締所

盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)

蠶業取締所支所

盛岡、花巻、一關、盛、遠野、宮古、久慈、福岡

穀物検査所

盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)

穀物検査所出張所

輕米、福岡、一戸、沼宮内、好摩、盛岡、矢幅、日詰、石鳥
谷、花巻、土澤、遠野、黒澤尻、金ヶ崎、水澤、岩谷堂、前
澤、一關、花泉

木炭検査所

盛岡市内丸(縣廳内)
盛岡驛より十五町(自動車)

官公衙學校

官公衙學校

三四

木炭検査所出張所

盛岡、石鳥谷、花巻、横川目、水澤、一關、荒澤、沼宮内、小鳥谷、福岡、金田一、種市、久慈、野田、普代、平井、小本、田老、宮古、山田、大槌、遠野、吉濱、大船渡、今泉、大籠、黄海、川尻、田山、摺澤上郷、軽米、雫石、山根、葛巻、岩泉、茂市、上有住

水澤緯度観測所

膽澤郡水澤町
水澤驛より約十五町(自動車)

測候所

盛岡、宮古

農事試験場

岩手郡本宮村(本場)、江刺郡愛宕村(分場)、九戸郡軽米町(分場)

蠶業試験場

膽澤郡水澤町
水澤驛より約五町(自動車)

水産試験場

上閉伊郡釜石町
鈴子驛より(自動車)

岩手種馬所

岩手郡厨川村
厨川驛より約五町

岩手縣種畜場

岩手郡藪川村外山、岩手郡瀧澤村

岩手縣種鶏場

岩手郡卷堀村
好摩驛より約三町

岩手縣商工館

盛岡市内丸
盛岡驛より約十六町(自動車)

岩手縣立圖書館

盛岡市内丸
盛岡驛より(自動車)

杜陵學園

盛岡市三ツ割
盛岡驛より(自動車)

岩手縣公會堂

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町

岩手縣警察教習所

同

警察署

盛岡、沼宮内、日詰、花巻、黒澤尻、水澤、岩谷堂、一關、千厩、盛、遠野、釜石、宮古、岩泉、久慈、軽米、二戸

盛岡聯隊區司令部

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町(自動車)

盛岡憲兵分隊

盛岡市仁王
盛岡驛より約八町

騎兵第三旅團司令部

岩手郡厨川村

騎兵第二十三聯隊

盛岡驛より約一里(自動車)

官公衙學校

三五

官公衙學校

騎兵第二十四聯隊

工兵第八大隊

衛戍病院

帝室林野局盛岡出張所

仙臺地方專賣局

盛岡地方裁判所及檢事局

區裁判所及檢事局

盛岡供託局

供託局支所

宮城刑務所一關支所

盛岡少年刑務所

同

同

同

盛岡市日影門外小路
盛岡驛より約十三町(自動車)

盛岡、大迫、千厩各出張所

盛岡市内丸
盛岡驛より約十四町(自動車)

盛岡、花卷、二戸、遠野、宮古、一關、水澤

盛岡市内丸
盛岡驛より約十四町(自動車)

盛岡、花卷、二戸、遠野、宮古、一關、水澤

西磐井郡一關町
一關驛より約十町(自動車)

盛岡市下厨川
盛岡驛より約三十町(自動車)

營林署

稅務署

盛岡建設事務所

盛岡運輸事務所

盛岡保線事務所

鐵道局盛岡工場

盛岡高等農林學校

岩手醫學專門學校

師範學校

縣立中學校

私立中學校

官公衙學校

久慈、沼宮内、宮古、岩泉、盛岡、雫石、遠野、花卷、川尻
水澤、一關、盛、高田
盛岡、花卷、水澤、一關、盛、遠野、下閉伊、久慈、二戸
盛岡市下厨川
盛岡驛前

同

同

同

盛岡市上田
盛岡驛より約十五町(自動車)

盛岡市仁王
盛岡驛より約十五町(自動車)

男子師範盛岡市上田盛岡驛より約三十町(自動車)
女子師範盛岡市内丸同 約十五町(自動車)

盛岡、一關、福岡、遠野、黒澤尻

盛岡市大澤川原小路
盛岡驛より約十町(自動車)

官公衙學校

縣立高等女學校
 私立高等女學校
 組合立實科高女校
 町立實科高等女學校
 縣立農學校
 縣立蠶業學校
 縣立工業學校
 縣立商業學校
 私立商業學校
 私立女子商業學校
 縣立水產學校

盛岡、花卷、一關、遠野、一戸、水澤、岩谷堂、黒澤尻、宮古
 盛岡(東北、岩手)
 高田
 釜石、福岡、大槌、山田
 盛岡、花卷、水澤、盛、久慈
 東磐井郡千厩町
 千厩驛より二町(自動車)
 盛岡市内丸
 盛岡驛より約十六町(自動車)
 盛岡市加賀野
 盛岡驛より約二十町(自動車)
 膽澤郡水澤町
 水澤驛より約八町(自動車)
 盛岡市紙町
 盛岡驛より約十七町(自動車)
 下閉伊郡宮古町
 平津戸驛より(自動車)

縣立盲啞學校

盛岡市帷子小路
 盛岡驛より約十町(自動車)

市町村

九戸郡種市村
 同 小輕米村
 同 葛卷村
 西磐井郡一關町
 岩手郡太田村
 江刺郡岩谷堂町
 膽澤郡前澤町

納稅成績優良
 同
 電氣及水道事業經營
 電氣及小額營業資金貸付
 産業組合良好
 水道事業經營
 水道事業經營

種市驛より約五町
 金田一驛より七里
 沼宮内驛より八里半(自動車)
 一關驛より約十町(自動車)
 盛岡驛より一里廿九町(自動車)
 水澤驛より約二里(自動車)
 前澤驛より約五町

市町村

産業組合

四〇

産業組合

(農は農業倉庫經營の組合、有は有限責任、無は無限責任)

岩手縣信用組合聯合會
同 購買販賣組合聯合會
産業組合中央會岩手支會

盛岡驛より約五町(自動車)

岩手縣繭絲販賣組合
聯合會

仙北町驛前

盛岡信用組合 市街小額貸付

有 盛岡驛より約十五町(自動車)

宰郷信購販組合 米販賣、信用事業

有 盛岡驛より一里二十九町(自動車)

德田信購販組合 米販賣、肥料購買

有 矢幅驛より半里(自動車)

大迫信購利販組合 信用事業、購買事業

有 石鳥谷驛より三里十六町(自動車)

湯本信購販利組合 米販賣

有 花巻驛より花巻温泉電車瀨川驛前

中内村信購販利組合 信用事業、購買事業

有 土澤驛より約一里半

小山田信購販組合 米販賣、日用品購買

有 土澤驛より約一里

小山信購組合 信用事業

有 水澤驛より二里十町

愛宕信購販利組合 信用事業

有 水澤驛より一里十四町(自動車)

小島信購組合 信用事業

有 平泉驛より一里十町

奥玉信購販組合 信用事業

有 千厩驛より一里二十二町

世田米信購利販組合 信用事業、購買事業

有 遠野驛より七里三十町(自動車)



特殊組合

岩泉生絲信購利販組合 有限責任

沼宮内驛より約二十二里(自動車)

岩手縣蠶糸販利組合三益社 同

花巻驛より約半里(自動車)

紫波蠶工品販賣組合 同

矢幅驛前

一戸養豚信販購利組合 同

一戸驛下車(自動車)

笹間養鶏購販組合 同

花巻驛より二里(自動車)

盛岡水道利用組合 同

盛岡驛下車(自動車)

特殊組合

四一

教育

花卷水道利用組合 同
盛岡洋服業購買組合 同
盛岡園藝販購利組合 同



花卷驛下車(自動車)
盛岡驛下車(自動車)
仙北町驛より十町(自動車)



教育

岩手縣女子師範學校附屬小學校
仁王尋常高等小學校
江刺郡玉里農業補習學校
紫波郡德田農業補習學校



盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)
同 四ツ家
同 約十五町(自動車)
江刺郡玉里小學校併設
水澤驛より約五里(自動車)
紫波郡德田小學校併設
矢幅驛より約二十町(自動車)



社會教育

東磐井郡奧玉青年訓練所
盛岡市櫻城青年訓練所
和賀郡谷内青年訓練所
江刺郡梁川村青年團
西磐井郡萩莊村青年團
東磐井郡奧玉村青年團
岩手郡太田村女子青年團



社會教育

東磐井郡奧玉村奧玉小學校
千厩驛より約一里半
盛岡市櫻城小學校
盛岡驛より約五町(自動車)
和賀郡谷内村谷内小學校
晴山驛より約一里
江刺郡梁川村野手崎小學校
水澤驛より約六里(自動車)
西磐井郡萩莊村役場
一ノ關驛より一里十五町(自動車)
東磐井郡奧玉村奧玉小學校
千厩驛より約一里半
岩手郡太田村太田小學校
盛岡驛より一里二十九町(自動車)



社會事業、農蠶業

社會事業

四四

岩手養育院

孤兒貧兒を收容養育する
育兒事業

盛岡市加賀野
盛岡驛より(自動車)

岩手養老院

扶養者なき老衰者を收容
する養老事業

同
盛岡驛より(同)

岩手縣立杜陵學園

不良兒童の感化事業

同
盛岡驛より(同)

岩手保護院

釋放者保護事業

盛岡市鷹匠小路
盛岡驛より(自動車)

農蠶業

○農會、農場及農蠶業團體

岩手縣農會

盛岡市内丸
盛岡驛より約十六町(自動車)

小岩井農場

育馬、育牛、耕耘、樹林の
四部を置く、附屬設備とし
て郵便局、小學校、託兒舍、
醫局、共濟會、俱樂部等の
設備あり。

岩手郡雫石村
小岩井驛附近

國分農場

篤農家國分謙吉の經營、農
事の試験

岩手郡瀧澤村
厨川驛より約十五町

小通共同作業組合

稲作全部の共同作業、稚蠶
共同飼育、生産物の共同販
賣、必需品の共同購入、採
種圃及苗代の共同經營、共
同作業場の設置

和賀郡中内村
土澤驛より一里
(自動車)

増澤自彊會

稲作全般の共同作業、共同
作業場の設置、農具の共同
利用

江刺郡岩谷堂町
水澤驛より二里
(自動車)

常盤農業經營改善組合

共同購入、稻作等の共同作
業、蠶共同飼育、共同採種
動力、農具の共同利用等

膽澤郡佐倉河村
水澤驛より約一里
(自動車)

萩莊村第八區共同作業組合

稲作全般の共同作業及農産
物の共同販賣、動力農具の
共同利用

西磐井郡萩莊村
一關驛より約二里
(自動車)

農蠶業

四五

農蠶業

岩手縣蠶種同業組合	盛岡市内丸(縣廳内)	盛岡驛より十五町(自動車)
岩手縣製絲同業組合	西磐井郡一關町	一關驛より約十町(自動車)
猿澤村中部養蠶組合	摺澤驛より二里(自動車)	
金澤村内澤養蠶組合	西磐井郡金澤村	花泉驛より約二十町(自動車)
興田村養蠶組合	東磐井郡興田村	摺澤驛より約三里(自動車)
湯口村養蠶組合	稗貫郡湯口村	花卷驛より電車
志和村養蠶組合	日詰驛より二里(自動車)	
福岡町養蠶組合	二戸郡福岡町	北福岡驛より約廿町(自動車)
甲子村養蠶組合	上閉伊郡甲子村	大畑驛より
岩手縣養蠶組合聯合會	盛岡市内丸(縣廳内)	盛岡驛より十五町(自動車)
岩手桑苗生産組合	桑苗生産販賣	同

稗和桑苗生産組合 同
 門崎桑苗生産組合 同

稗貫郡花卷町
 花卷驛より約十町(自動車)
 東磐井郡門崎村
 陸中門崎驛下車

○篤農家、精農家

國分謙吉 農事試験場經營

岩手郡瀧澤村
 厨川驛より約十五町

山田清之助 採種

盛岡市仙北町
 仙北町驛より三町(自動車)

菅原量之助 農事団体組織、農事經營改善指導

江刺郡岩谷堂町
 水澤驛より二里半(自動車)

千葉林正 水稻改良

西磐井郡金澤村
 花泉驛より一里(自動車)

○蠶種製造家

岩手農蠶株式會社

盛岡市大澤川原小路
 盛岡驛より十丁(自動車)

橋本善太

紫波郡日詰町
 日詰驛より二十三丁(自動車)

農蠶業

農蠶業

村山百治

岩手郡卷堀村
川口驛より十五町

千田平次郎

和賀郡二子村
黒澤尻驛より一里十九丁(自動車)

佐藤喜一

江刺郡羽田村
水澤驛より一里(自動車)

南洞頼薫

西磐井郡平泉村
平泉驛より十丁(自動車)

加藤友治

東磐井郡摺澤村
摺澤驛より五丁(自動車)

加藤伊與治

東磐井郡大原町
摺澤驛より二里(自動車)

製絲場

昭榮製絲株式會社一關・山目製絲場

株式會社

西磐井郡山目村
一關驛より九町(自動車)

岩手蠶絲販賣利用組合三益社

組合製絲

稗貫郡矢澤村
花卷驛より三十一町(自動車)

岩手繭絲販賣組合聯合會

組合製絲

仙北町驛前

岩手縣是製絲株式會社盛岡工場

株式會社

盛岡市下厨川
盛岡驛より約五町(自動車)

岩手縣是製絲株式會社高田分工場

株式會社

氣仙郡高田町
氣仙沼驛より(自動車)

岩手縣是製絲株式會社千厩分工場

株式會社

東磐井郡千厩町
千厩驛より約十町(自動車)

岩泉製絲信用利用購買販賣組合

組合製絲

下閉伊郡岩泉町
沼宮内驛より二十二里(自動車)

黃金社製絲場

個人經營

東磐井郡小梨村
小梨驛より十二町

主なる農業地

米

紫波郡徳田村
矢幅驛より約十五町(自動車)

同

岩手郡太田村
盛岡市より一里二十九町(自動車)

農蠶業

農蠶業

米 同 同 大 小 果 蔬 同

江刺郡岩谷堂町稻瀬村及愛宕村
 水澤驛より二里未滿(自動車)
 膽澤郡南都田村及佐倉河村
 水澤驛より一里未滿(自動車)
 西磐井郡金澤村
 花泉驛より十九町(自動車)
 東磐井郡各町村
 西磐井郡中里村
 一關驛又は山目驛より約十町(自動車)
 岩手郡中野村
 盛岡市より二十町(自動車)
 紫波郡見前村
 盛岡市より一里二十六町(自動車)
 稗貫郡矢澤村
 花巻驛より三十一町(自動車)
 和賀郡二子村
 黒澤尻驛より一里十九町(自動車)

同 同 菜 大 葉

種 麻 草 煙

江刺郡愛宕村
 水澤驛より一里十四町(自動車)
 西磐井郡山目村
 山目驛より約十町(自動車)
 東磐井郡舞川村及長嶋村
 東磐井郡長嶋及西磐井郡平泉村
 東磐井郡各町村

○耕地整理

鹿妻穴堰耕地整理組合

岩手郡及紫波郡事務所・盛岡市内丸盛岡驛より約十六町(自動車)

水源を雫石川に取れる鹿妻穴堰普通水利組合の用水幹線を利用し、之より分水約五里の用水幹線を新設し、舊田用水補給一千町、新開田七百町を行ふ、各種の工事多くして將來鹿妻穴堰普通水利組合の區域全部約三千五百町を合して水利系統の改善を爲さむとし目下調査中である。

和賀郡中央耕地整理組合

和賀郡黒澤尻町外六ヶ村・黒澤尻驛より(自動車)

農蠶業

農蠶業、林業

和賀中央部農業水利改良事業以下の用排水幹線との間敷線の改良新設及舊田二千四百町の用水補給及開田一千三百町を行ふ、昭和五年度迄認可の縣下耕地整理組合中最大のもので各種の工事あり十六吋揚程五十五尺重油機關一百馬力斯業の参考とすべき施設が多い。

山海國營開墾

紫波郡志和村・日詰驛より二里(自動車)

紫波郡志和村及赤石村、水分村、稗貫郡石鳥谷町の舊田約九百七十町の補水及新田約九百五十町の用水貯溜の目的で大溜池設置計画中である。

千貫石國營開墾

膽澤郡金ヶ崎町及相去村・金ヶ崎驛より三里

金ヶ崎町及相去村に跨る約八百五十町の開墾豫定地の水源工事は、國營の豫定で農林省に於て調査済にして、昭和五年度より七年度迄の繼續事業として千貫石農業水利改良事業を大規模と爲す豫定である。

林業

縣有模範林

明治四十一年九月 大正天皇、皇太子殿下に御在し本縣に行啓あらせられし記念事業で、總面積五千三十町餘、明治四十三年より昭和五年度迄に左の事業區に三千五百四十一町を植栽其の成績極めて良好である。

事業區

釜澤

二戸郡金田一村
金田一驛より約二里

總面積七百七十四町步中昭和五年度迄に六百九十三町步主として杉、赤松、栗、櫻、漆等を植栽す

織詰

同爾薩体村
北福岡驛より約二里

總面積五百五十六町、昭和五年度迄に五百六町步、主として杉、赤松、落葉松、櫻等を植栽す

大志田

岩手郡淺岸村
大志田驛より一町

總面積一千九百三十九町、明治四十四年度より昭和五年度迄に一千八十一町步、主として杉、赤松、落葉松、扁柏、花柏、栗、櫻等を植栽す。

林業

林業

生

出

氣仙郡矢作村
摺澤驛より約九里

總面積一千五十一町、昭和五年度迄に八百七町歩、主として杉、赤松、落葉松、扁柏、花柏、檜等を植栽す。

大

久

保

氣仙郡吉濱村
遠野驛より約十四里

總面積八百一十一町、大正四年度より昭和五年度迄に四百五十四町歩にして主として赤松、落葉松、栗等を植栽す。

氣

仙

町

々

氣仙郡氣仙町
氣仙沼又は摺澤驛より(自動車)

大正元年以來造林、現在二百町歩、杉の生育良好で雑木林も三百三十町歩あり頗る美林である。

黄

海

村

々

東磐井郡黄海村
花泉又は千厩驛より(自動車)

明治四十一年施業編成、百町歩の造林を終了し尙五百町歩の雑木林は縣下の代表的美林である。

宰

郷

家

の

岩手郡太田村
盛岡驛より約一里半(自動車)

造林

佐々木休次郎の經營にして其の管理、撫育等私有林經營の指針であつて、杉、赤松、扁柏等百數十町歩に達してゐる。

折

壁

官

行

東磐井郡折壁村
折壁驛より約一里半

面積約二百七十町、大正十一年より植栽し、昭和五年迄に約二百六十町終了、赤松、杉の生育極めて良好である。

岩

手

縣

木

盛岡市内丸(縣廳内)
盛岡驛より約十五町(自動車)

昭和二年十二月の設立で、區域は縣下一圓にして組合員六百六十六名、昭和六年度豫算は三萬五千七百一十一圓である。

長

興

寺

造

九戸郡伊保内村
北福岡驛より約四里(自動車)

大正八年八月設立で、翌年より同十三年末迄に二百三十四町歩の造林を完了し、圓滿着實に發達しつゝある。

刈

屋

土

工

下閉伊郡刈屋村
平津戸驛より約十二里(自動車)

大正十五年十二月設立、昭和二年より同五年迄に車道一千四百十間、木馬六千九百三十三

林業

林業、畜産

五六

間竣工の結果、立木価値は従來の二、三倍に昇上す、將來尙延長すべく進捗中である。

淨法寺漆樹栽培組合

二戸郡淨法寺村
福岡驛より四里(自動車)

昭和五年三月の設立で、現在二百八十四名の組合員を有し、年々一萬五千本以上の漆樹を
植栽し側ら苗圃を經營する外漆液、漆樹の賣買法の改善に努めてゐる。

松川山葵組合

岩手郡大更村
大更驛より約二十町

山葵の栽培及其の加工販賣等をして居る。

岩手縣山林會

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町(自動車)



畜産

岩手縣產馬畜産組合聯合會

盛岡市内丸(縣廳内)
盛岡驛より約十五町(自動車)

岩手縣養豚組合聯合會

盛岡市内丸(縣廳内)
盛岡驛より約十五町(自動車)

水澤養豚組合

水澤町農會内
水澤驛より十三町

種豚飼養管理種付、仔豚内豚販賣飼料共同購入

一戸鶏養豚組合

二戸郡一戸町
一戸驛より(自動車)

種豚飼養管理種付、種豚の賣却、仔豚及屠肉の共同販賣、鶏卵肉生産販賣並飼料共同購入

豚産地

(岩手郡) 沼宮内町、御堂村、(稗貫郡) 花巻町、矢作村、(和賀郡) 黒澤尻町、(膽澤郡) 水澤町、(江刺郡) 岩谷堂町、(西磐井郡) 金澤村、(上閉伊郡) 遠野町、大槌町、(下閉伊郡) 津輕石村、(九戸郡) 久慈町、種市村、(二戸郡) 福岡町、一戸町

笹間養鶏組合

和賀郡笹間村
黒澤尻驛より三里

種鶏、種卵の拂下、食鶏肉卵の共同販賣

佐比内養鶏組合

紫波郡佐比内村
日詰驛より二里(自動車)

鶏卵肉生産販賣並に飼料共同購入

畜産

五七

畜産

主なる養鶏地

岩手郡、二戸郡、和賀郡、稗貫郡、紫波郡、膽澤郡、九戸郡、東磐井郡

小岩井農場

岩手郡雫石村
小岩井驛より

育牛、育馬、耕耘、樹林を主とし他は緬羊豚鶏を飼育して居る。

撤駒市場

盛岡、大迫、沼宮内、福岡、久慈、宮古、遠野、世田米、大原、山野目、水澤、岩谷堂、黒澤尻

主なる馬産地

岩手郡、上閉伊郡、九戸郡、二戸郡

主なる牛産地

(下閉伊郡)小川村、岩泉町、川井村、大川村、有藝村、小本村、

田老村、田野畑村、安家村、(九戸郡)江刈村、葛巻村、山形村、山根村、(二戸郡)田山村、姉帯村

緬羊産地

(江刺郡)稻瀬村、岩谷堂町、(岩手郡)澁民村、瀧澤村、大更村
(上閉伊郡)宮守村、(和賀郡)谷内村、(東磐井郡)黄海村、(九戸郡)輕米町

養蜂

(二戸郡)浄法寺村、斗米村、爾薩体村、(岩手郡)厨川村、(盛岡

市)、(上閉伊郡)遠野町

下閉伊郡岩泉町
沼宮内驛より二十二里(自動車)

明治製乳株式會社

煉乳、バター製造、一日牛乳消費量百石

家畜保險組合

上閉伊郡遠野町
遠野驛より(自動車)

昭和五年七月事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數二百頭、保險價額五萬圓

同

盛岡市志家
盛岡驛より約二十町(自動車)

昭和五年十月一日事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數一一〇頭、保險價額二萬八千圓

水産

水産會及漁業組合

岩手縣水産會

製品検査、漁船員並
船匠養成指導

廣田村漁業組合

海産物購買販賣斡旋

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町(自動車)

氣仙郡廣田村
摺澤、遠野、氣仙沼各驛より(自動車)

水産

水産

綾里村漁業組合

海産物購買販賣斡旋

氣仙郡綾里村
摺澤、遠野、氣仙沼各驛より(自動車)

飯岡浦漁業組合

同

下閉伊郡山田町
平津戸驛より(自動車)

宮古町漁業組合

同

同 宮古町

鍛ヶ崎町漁業組合

同

同

船越村漁業組合

同

山田町より約一里(自動車・船)

小袖濱漁業組合

同

九戸郡宇部村
久慈驛より

○水産養殖

鰻、鯉養魚場

下閉伊郡船越村
船舶の便

海苔、牡蠣養殖場

氣仙郡大船渡村
平倉、摺澤、氣仙沼各驛より(自動車)

同

上閉伊郡大槌町
平倉驛より(自動車)

同

鮭、鱒孵化場

下閉伊郡山田町
船舶の便又は平津戸驛より(自動車)

上閉伊郡釜石町、大槌町、下閉伊郡津輕石村
平津戸、鈴子、遠野各驛より(自動車)

○漁港

八木港

九戸郡種市村

田老港

下閉伊郡田老村

宮古港

同 宮古町

山田港

同 山田町

大槌港

上閉伊郡大槌町

釜石港

同 釜石町

小湊港

氣仙郡唐丹村

大船渡港

同 大船渡村

細浦港

同 末崎村

廣田港

同 廣田村

鑛業

協ノ澤港
長部港

同 高田町
同 氣仙町

○魚市場

盛岡魚市場株式會社

盛岡市上衆小路
盛岡驛より約十町(自動車)

大船渡漁市場株式會社

氣仙郡大船渡村
平倉驛より八里二十町(自動車)

釜石漁市場株式會社

上閉伊郡釜石町
平倉驛、遠野驛、鈴子驛より(自動車)

鑛業

釜石鑛山

銑鐵、丸鋼、鑄鐵管、
鐵鑛石

上閉伊郡釜石町
鈴子驛附近

松尾鑛山

鑛黃

岩手郡松尾村
松尾驛より約二里

大萱生金山

金鑛石

紫波郡乙部村
矢幅驛より約二里

商工業

家具

区〇工作所田山家具店工場等

盛岡市
盛岡驛より(自動車)

鐵工場所

釜石鑛山鑛業所を初め、盛岡市福田
鐵丁所等縣下各地に點在して居る。
盛岡市

鐵瓶工場

釜石町(自動車)

清酒釀造業

高橋、成瀬、照亦、中田、光原社等多く尙江刺郡羽田村
盛岡市、石鳥谷、水澤、一關、千厩、福地其他主要町村に
散在して居る

盛岡商工會議所

盛岡市内丸
盛岡驛より約十六町(自動車)

日本勸業銀行盛岡支店

同本町
盛岡驛より約十八町(自動車)

商工業

商工業

盛岡貯蓄銀行

盛岡市紺屋町
盛岡驛より約十七町(自動車)

盛岡銀行

本店盛岡市紺屋町
盛岡驛より約十七町(自動車)

(支店)花巻、黒澤尻、岩谷堂、日詰、材木町、福岡、仙北町、久慈、大迫、葛巻、雫石、山田、沼宮内、釜石、遠野、水澤、盛、高田、千厩、一關、宮古、前澤、石鳥谷、一戸、土澤、大原、縣外一二

岩手銀行

本店盛岡市吳服町
盛岡驛より約十八町(自動車)

(支店)釜石、遠野、水澤、水澤横町、金ヶ崎、前澤、岩谷堂、米里、土澤、黒澤尻、沼宮内、千厩、石鳥谷、日詰、伊保内、平館、薄衣、藤澤、大原、一關、山目、花巻、雫石、浄法寺、盛岡驛前、仙北町、荒屋、新穀町、高田、盛、世田米、大槌、宮古、楸ヶ崎、山田、岩泉、小本、田老、縣外二

第九十銀行

本店盛岡市吳服町
盛岡驛より約十八町(自動車)

(支店)宮古、材木町、葛巻、輕米、沼宮内、久慈、福岡、大槌、小川、岩泉、花巻、岩谷

堂、一戸、本町、惣門、縣外七

第八十八銀行

(支店)盛、千厩、縣外一

本店西磐井郡一關町
一關驛より(自動車)

岩手無盡株式會社

無盡業

盛岡市内丸
盛岡驛より(自動車)

盛岡無盡株式會社

無盡業

盛岡市八日町
盛岡驛より(自動車)

水澤無盡株式會社

無盡業

膽澤郡水澤町
水澤驛より(自動車)

水上無盡合資會社

無盡業

上閉伊郡遠野町
遠野驛より(自動車)

盛岡電燈株式會社

電燈電力の供給

盛岡市紺屋町
盛岡驛より(自動車)

三陸水産冷蔵株式會社

冷蔵魚水賣買

同
同市六日町

盛岡信托株式會社

信托業

同
同市紺屋町

花巻温泉電氣鐵道株式會社

鐵道及軌道を敷設し一般の運輸業

同
同市紺屋町

商工業

南部土地株式會社	土地賣買	盛岡市大澤川原小路 盛岡驛より(自動車)
株式會社三田商會	銃砲火藥類販賣	盛岡市内丸 盛岡驛より(自動車)
岩手縣是製絲株式會社	生絲製造販賣	盛岡市下厨川 盛岡驛より(自動車)
岩手輕便鐵道株式會社	鐵道に依る旅客貨物運輸業	稗貫郡花卷町 花卷驛より(自動車)
株式會社花卷溫泉	溫泉場を設け旅館浴場	稗貫郡湯本村 花卷驛より(電車)
黑澤尻電力株式會社	特定者に電力販賣	和賀郡黑澤尻町 黑澤尻驛より(自動車)
株式會社仙人製鐵所	製鐵業	和賀郡岩崎村
膽江電力株式會社	電燈電力供給	膽澤郡水澤町 水澤驛より(自動車)
氣仙水力電氣株式會社	同	氣仙郡盛町 遠野、平倉驛より(自動車)
陸奥電力株式會社	一般電力供給	二戸郡福岡町 北福岡驛より(自動車)

岩手日報社	新聞發行	盛岡市内丸
岩手毎日新聞社	同	盛岡驛より(自動車)

名物名産

○農産物

苹果	盛岡、岩手(中野)、和賀(立花)、二戸(一戸)、氣仙(末崎)
甘藍	岩手(沼宮内、厨川)、二戸(小鳥谷)
甜瓜	紫波(乙部)
里芋	紫波(見前)、和賀(二子)
梨	盛岡、氣仙(末崎、米崎)、岩手(中野)
黑平大豆	岩手(濫民)
葱	西磐井(萩莊、山目)

名物名産

名物名産

百合根

榎 梓

柿 絲

蠶 綿

眞 種

蠶 種

○林産物

胡桃

手打胡桃

椎茸

山葵

漆液

桐材下駄甲良炭

東磐井(長嶋)

紫波(徳田、乙部)

氣仙、東磐井(各町村)、西磐井(老松)

盛岡、西磐井(山目)、下閉伊(岩泉)

盛岡、稗貫(花卷)、下閉伊(千徳)、二戸(福岡)

盛岡、紫波(日詰)、江刺(羽田)、和賀(二子)、岩手(卷堀)、西磐井(平泉)、東磐井(大原、摺澤)

九戸(山根)、紫波(佐比内)

九戸(江刺家)

氣仙(吉濱)、上閉伊(上郷)

岩手(大更、西山)、下閉伊(豊間根、小國)、氣仙(世田米)

二戸(荒澤、御返地、淨法寺)

下閉伊(刈屋)

九戸(種市)

○水産物

鰹節

鮪節

鰻節

乾鮑

鱧鮓

魚油

魚油

魚粕

明骨

海苔

かき

刻若布

干錫

氣仙(米崎)

氣仙(赤崎)、上閉伊(釜石)、下閉伊(宮古)

氣仙(大船渡)

氣仙(吉濱、上閉伊(大槌)、下閉伊(山田、織笠)

氣仙(綾里)、上閉伊(鶴住居)、下閉伊(宮古)、九戸(宇部)

上閉伊(釜石)、下閉伊(宮古)

上閉伊(釜石)、下閉伊(宮古)

下閉伊(山田)、上閉伊(釜石)

氣仙(氣仙)、下閉伊(宮古)、九戸(久慈)

上閉伊(釜石)、下閉伊(山田)

氣仙(大船渡、赤崎)、上閉伊(大槌)、下閉伊(織笠、山田)

氣仙(大船渡、赤崎)

下閉伊(田老、宮古)

氣仙、上閉伊、下閉伊、九戸(各水産會)

名物名産

鮎

○工産物

和賀(谷内)、稗貫(龜ヶ森)、氣仙(氣仙)

鐵瓶類

盛岡、江刺(羽田)

陶磁器

臺燒(湯本)、岩手燒(盛岡)

漆器

秀衡塗(盛岡)、淨法寺塗(淨法寺)、摺澤塗(摺澤)

紫根染

盛岡

南部紬

下閉伊(岩泉)

荷部札

盛岡

竹細工

西磐井(一關)、二戸(浪打)

和紙

東磐井(田河津、長坂、松川)、和賀(十二箇)、西磐井(真瀧)

和傘

稗貫(花卷)、江刺(福岡、岩谷堂)

玩具

南部桐人形(盛岡)、花卷人形(花卷)、南部板馬(盛岡)

椿油

氣仙(廣田、高田)

埋木細工

西磐井(一關)

紫雲石硯

東磐井(田河津、長坂)、膽澤(水澤)

眞綿加工品

盛岡

タオル

盛岡

清酒

岩手川(盛岡)、岩の花(盛岡)、世嬉の一(一關)、積善正宗(岩谷堂)、多賀多(高田)、稻の友(石鳥谷)、玉の春(千厩)、福來(宇部)、榮冠あさ開(盛岡)菊の司(盛岡)、櫻顔(盛岡)、濱千鳥(釜石)、七福神(花卷)、志ら梅(岩谷堂)、南部關(石鳥谷)、開福(大更)、岩手譽(水澤)、白菊(盛)、七光正宗(石鳥谷)、奥の花(石鳥谷)、山下水(福岡)、堀の友(福岡)、四季の友(高田)、氷上正宗(高田)、金千鳥(遠野)、來恩(久慈)

菓子類

豆銀糖、金山からめ餅、家福餅、葡萄餡、くるみ羊羹、松の實糠、林檎羊羹、黃精餡、麥煎餅(盛岡)、大正餅(日詰)、花卷おこし、黃身可世、糰棒羊羹(花卷)、黃金餅、金山おこし(黒澤尻)、煉羊羹、白羊羹、(岩谷堂)、煉羊羹(水澤)、時の太鼓、田村の梅、光豆、關の花、ちから餅、茄子の甘露漬(一關)、氷餅(平泉)、ほと、ぎす(千厩)、猿澤羊羹(猿澤)、栗落雁(大原)、明烏胡、桃羊羹(遠野)、米おこし(世田米)、鰹煎餅(宮古)、其他飲食品 氷豆腐(愛宕)、納豆(花卷)、味噌(岩谷堂)、菓子種(花卷)、素麵類(前澤、花卷、岩谷堂、一ノ關、鮎味噌、(一關))

名産名物

統計標語

○統計は揮發油の如し用ふれば原動力となる

○統計の正否は文化の進歩と正比例す

○最後の安全は統計に據る場合多し

列車・船舶・自動車便

(十月日現在)

列車・船舶・電車時間表

(朝字八午前
太字八午後)

東北本線上

汽	函	船	青	尻	三	金	北	小	小	奧	沼	川	好	瀧	厨	盛	北
青森	函館	青森	内	戸	田	福	戸	鳥	小	中	宮	口	摩	澤	川	岡	仙
發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發
二、〇〇	五、三〇	一〇、〇〇	二、〇〇	一、〇三	二、〇〇	三、〇二	三、一五	三、三一	三、三一	四、一八	四、三五	四、五二	四、五二	五、〇七	五、一八	五、二六	五、三九
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五
九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七	九、〇七
四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇	四、三〇
三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五	九、二五
二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇
四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇	四、五〇
八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇	八、五〇

り

矢	日	石	花	黑	金	水	陸	前	平	山	一	有	花	小	仙	福	郡	宇	大	上
幅	詰	鳥	卷	澤	ヶ	澤	中	澤	泉	ノ	ノ	壁	泉	牛	臺	島	山	都	宮	野
發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發	發
五、五一	六、〇三	六、一三	六、三二	六、五〇	七、〇五	七、一六	七、二四	七、三三	七、四五	七、五二	八、〇三	八、一九	八、三〇	九、三二	七、二五	九、〇八	一〇、一一	一〇、四〇	一、五六	二、三〇
八、〇七	八、一八	八、二八	八、五〇	九、〇六	九、二二	九、三一	九、四二	九、五九	一〇、〇七	一〇、一七	一〇、三三	一〇、四二	一〇、五三	一一、〇八	一一、一八	一一、三三	一一、四三	一一、五三	一二、〇七	一二、二五
一〇、二二	一〇、三三	一〇、四三	一〇、五九	一一、一七	一一、三三	一一、四二	一一、五〇	一二、〇八	一二、一五	一二、二五	一二、三三	一二、四二	一二、五三	一三、〇八	一三、一八	一三、三三	一三、四三	一三、五三	一四、〇七	一四、二五
〇、五五	一、〇七	一、一六	一、三二	一、五八	二、一三	二、二二	二、三二	二、四〇	二、四七	二、五七	三、〇五	三、一四	三、二五	三、四〇	三、五〇	三、五八	四、〇八	四、一八	四、二七	四、四五
三、三八	三、五〇	四、〇〇	四、一五	四、四一	四、五八	四、五八	五、〇六	五、一三	五、二四	五、三三	五、四二	五、五三	六、〇八	六、一八	六、二七	六、三六	六、四六	六、五五	七、〇三	七、二一
五、五三	六、〇六	六、一七	六、三七	七、〇〇	七、一四	七、一四	七、二二	七、三〇	七、三九	七、四八	七、五七	八、〇六	八、一七	八、二七	八、三六	八、四五	八、五五	九、〇三	九、二一	九、三九
八、〇七	八、一八	八、二八	八、五〇	九、〇六	九、二二	九、三一	九、四二	九、五九	一〇、〇七	一〇、一七	一〇、三三	一〇、四二	一〇、五三	一一、〇八	一一、一八	一一、三三	一一、四三	一一、五三	一二、〇七	一二、二五

線鐵輕手岩 下

自至自至
四月十月
三月十一月
一月一月
日日
正休間
止休間

花卷發	鳥谷ヶ崎發	似内發	矢澤發	小山田發	土澤發	晴山發	岩根橋發	宮守發	田木平發	鱒澤發	荒谷前發	綾織發	遠野發	青笹發	關口發	岩手上郷發	平倉發	足ヶ瀬發	仙崎發
五、四〇	五、四〇	五、五二	六、〇〇	六、〇七	六、二七	六、三七	六、五八	七、二〇	七、四四	七、五二	八、〇〇	八、〇九	八、一六	八、三〇					
六、一五	六、一九	六、二七	六、三五	六、四二	七、〇〇	七、〇九													
六、四五	六、四九	六、五八	七、〇六	七、一四	七、三二	七、四二	八、〇一	八、二三	八、四七	八、五五	九、〇三	九、一八	九、三二	九、四二	九、五二	一〇、〇二	一〇、一〇	一〇、四〇	一一、〇〇
九、〇五	九、〇九	九、一八	九、二六	九、三四	九、五五	一〇、〇五	一〇、二四	一〇、四六	一一、〇〇	一一、一〇	一一、二七	一一、四二	一一、五六	一二、〇六	一二、一六	一二、二六	一二、三五	一二、四〇	一二、四六
一一、二八	一一、三二	一一、四一	一一、四九	一一、五七	一二、〇五	一二、一五	一二、二四	一二、三〇	一二、四〇	一二、五〇	一二、六一	一二、七〇	一二、八〇	一二、九〇	一三、〇〇	一三、一〇	一三、二五	一三、三六	一三、四六
一一、五〇	一一、五四	一二、〇三	一二、一一	一二、一九	一二、二七	一二、三七	一二、四六	一二、五五	一三、〇五	一三、一五	一三、二四	一三、三三	一三、四二	一三、五二	一四、〇二	一四、一〇	一四、二五	一四、三六	一四、四六
三、〇〇	三、〇四	三、一三	三、二一	三、三〇	三、三九	三、四七	三、五七	四、〇六	四、一六	四、二五	四、三五	四、四四	四、五三	五、〇三	五、一〇	五、一八	五、二五	五、三五	五、四六
五、二七	五、三一	五、四〇	五、四八	五、五六	六、〇四	六、一三	六、二二	六、三〇	六、三九	六、四八	六、五七	七、〇六	七、一五	七、二四	七、三三	七、四二	七、五〇	八、〇〇	八、一〇

列車便

上

第一第二第三
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一
第二第一第一

花卷着	鳥谷ヶ崎發	似内發	矢澤發	小山田發	土澤發	晴山發	岩根橋發	宮守發	柏木平發	鱒澤發	荒谷前發	綾織發	遠野發	青笹發	關口發	岩手上郷發	平倉發	足ヶ瀬發	仙崎發
八、〇八	八、〇五	七、五五	七、四八	七、四一	七、二八	七、一三	六、五七	六、四六	六、一四	六、〇五	五、五七	五、四四	五、三〇						
一〇、三六	一〇、三三	一〇、二三	一〇、一六	一〇、〇九	九、五六	九、四五	九、二九	九、一八	八、四八	八、三七	八、二九	八、二〇	八、一五	八、〇〇					
九、三七	九、四九	一〇、〇二	一〇、一〇	一〇、一七	一〇、二五	一〇、三三	一〇、四二	一〇、五二	一一、〇二	一一、一〇	一一、一八	一一、二六	一一、三五	一二、〇三	一二、一〇	一二、一八	一二、二六	一二、三五	一二、四三
一三、〇〇	一三、〇三	一三、一〇	一三、一七	一三、二四	一三、三二	一三、四〇	一三、四八	一三、五六	一四、〇四	一四、一二	一四、二〇	一四、二八	一四、三五	一四、四三	一四、五一	一四、五九	一五、〇七	一五、一五	一五、二三
一三、一三	一三、一六	一三、二四	一三、三二	一三、四〇	一三、四八	一三、五六	一四、〇四	一四、一二	一四、二〇	一四、二八	一四、三六	一四、四四	一四、五二	一五、〇〇	一五、〇八	一五、一六	一五、二四	一五、三二	一五、四〇
一四、一〇	一四、一三	一四、二一	一四、二九	一四、三七	一四、四五	一四、五三	一五、〇一	一五、〇九	一五、一七	一五、二五	一五、三三	一五、四一	一五、四九	一五、五七	一六、〇五	一六、一三	一六、二一	一六、二九	一六、三七
一四、三〇	一四、三三	一四、四一	一四、四九	一四、五七	一五、〇五	一五、一三	一五、二一	一五、二九	一五、三七	一五、四五	一五、五三	一六、〇一	一六、〇九	一六、一七	一六、二五	一六、三三	一六、四一	一六、四九	一六、五七
一五、〇〇	一五、〇三	一五、一〇	一五、一七	一五、二四	一五、三二	一五、四〇	一五、四八	一五、五六	一六、〇四	一六、一二	一六、二〇	一六、二八	一六、三五	一六、四三	一六、五一	一六、五九	一七、〇七	一七、一五	一七、二三
一五、二七	一五、三一	一五、四〇	一五、四八	一五、五六	一六、〇四	一六、一二	一六、二〇	一六、二八	一六、三六	一六、四四	一六、五二	一七、〇〇	一七、〇八	一七、一六	一七、二四	一七、三二	一七、四〇	一七、四八	一七、五六

列車便

線 鉛

休運デマ日一十三月三年至リヨ日一月一十年毎八印○
轉運デマ日一十三月三年至リヨ日一月一十年毎八印●

電 車 便

八 四

下リ (西鉛温泉行)

花卷發	六、四九	八、〇九	九、〇三	一〇、三八	三、三〇	一、五三	二、四六	四、一九	五、三三	六、四七	七、三九
西公園發	六、五八	八、一八	九、一三	一〇、四七	三、三一	二、〇三	二、五五	四、二八	五、二〇	六、五八	七、四八
熊野發	七、一〇	八、三〇	九、二四	一〇、一七	三、二二	二、一五	二、六七	四、四二	五、一七	六、四〇	七、〇〇
二ツ塚發	七、二七	八、四七	九、四一	一〇、一六	三、一〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
志戸平發	七、四七	八、六五	九、五九	一〇、三三	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
大澤發	七、五九	八、七九	九、七三	一〇、四七	三、一〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
鉛發	八、二二	九、四一	一〇、三五	一一、〇八	三、二六	二、一四	二、六六	四、四一	五、一六	六、三九	七、一四
西鉛發	八、二四	九、四四	一〇、三八	一一、一五	三、二八	二、一六	二、六八	四、四三	五、一八	六、四一	七、一六
西鉛發	八、二四	九、四四	一〇、三八	一一、一五	三、二八	二、一六	二、六八	四、四三	五、一八	六、四一	七、一六
大澤發	七、五九	八、七九	九、七三	一〇、四七	三、一〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
志戸平發	七、四七	八、六五	九、五九	一〇、三三	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
二ツ塚發	五、四一	七、二八	九、二〇	一〇、一三	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
熊野發	五、五六	七、四三	九、三五	一〇、二八	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
西公園發	六、〇九	七、五六	九、四八	一〇、四一	三、一〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
花卷着	六、一七	七、五四	九、四六	一〇、三九	三、一七	二、〇七	二、五九	四、三四	五、〇九	六、三二	七、〇七
西鉛發	四、五〇	六、三五	八、四五	九、五二	三、四〇	二、三〇	二、八二	四、五七	五、三二	六、五五	七、三〇
鉛發	四、五二	六、三七	八、四七	九、五四	三、四二	二、三二	二、八四	四、五九	五、三四	六、五七	七、三二
大澤發	五、一二	六、五七	八、四七	九、五四	三、四二	二、三二	二、八四	四、五九	五、三四	六、五七	七、三二
志戸平發	五、二二	六、五七	八、四七	九、五四	三、四二	二、三二	二、八四	四、五九	五、三四	六、五七	七、三二
二ツ塚發	五、四一	七、二八	九、二〇	一〇、一三	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇
熊野發	五、四一	七、二八	九、二〇	一〇、一三	三、〇〇	二、〇〇	二、五二	四、二七	五、〇二	六、二五	七、〇〇

上リ (花卷行)

下リ	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△
大橋發	八、四三	九、二七	一〇、二一	一一、一五	一二、一〇	一三、〇四	一四、〇〇	一五、〇〇	一六、〇〇	一七、〇〇	一八、〇〇
大松發	九、〇〇	九、四四	一〇、三八	一一、三二	一二、二六	一三、二〇	一四、一四	一五、一〇	一六、一〇	一七、一〇	一八、一〇
洞泉發	九、一〇	九、五六	一〇、五〇	一一、四四	一二、三八	一三、三二	一四、二六	一五、二二	一六、二二	一七、二二	一八、二二
大畑發	九、二〇	一〇、〇四	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、三〇	一七、三〇	一八、三〇
小佐野發	九、三三	一〇、一六	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、三〇	一七、三〇	一八、三〇
釜石着	九、四〇	一〇、二四	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、三〇	一七、三〇	一八、三〇
上リ	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△
釜石發	六、〇〇	七、四五	八、四〇	九、三五	一〇、三〇	一一、二四	一二、一八	一三、一三	一四、〇七	一五、〇一	一六、〇〇
小佐野發	六、〇八	七、五三	八、四七	九、四一	一〇、三五	一一、二九	一二、二三	一三、一七	一四、一〇	一五、〇四	一六、〇〇
大畑發	六、二二	八、〇六	八、五〇	九、四四	一〇、三八	一一、二二	一二、一六	一三、一〇	一四、〇四	一五、〇〇	一六、〇〇
洞泉發	六、三二	八、一六	九、一〇	一〇、〇四	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、〇〇
大松發	六、四二	八、二六	九、二〇	一〇、一四	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、〇〇
大橋着	六、五八	八、四二	九、三六	一〇、三〇	一〇、五九	一一、五三	一二、四七	一三、四一	一四、三五	一五、三〇	一六、〇〇

△印ハ自十二月一日至三月三十一日
○印ハ自四月一日至十一月三十日
運轉休止

列 車 便

八 五

